

埼玉県立近代美術館年報

平成 30 年度



ANNUAL REPORT 2018---THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

埼玉県立近代美術館年報

平成30年度



ANNUAL REPORT 2018—THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■ 目次

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント 及び戦略目標	3	トピックス	
施設	4	[1] 公募展「カラダで・みる、うごいて・みる!」	84
美術館誌	5	[2] SMFとの連携	86
企画展	6	埼玉県立近代美術館フレンド	87
モダンアート再訪	6	貸館事業	88
浦沢直樹展	12	入館状況	90
阿部展也	20	名簿	
辰野登恵子 オン・ペーパーズ	26	埼玉県立近代美術館協議会委員	91
インポッシブル・アーキテクチャー	33	埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員	91
MOMASコレクション	44	埼玉県立近代美術館利用審査会委員	91
MOMASコレクション [I]	44	埼玉県立近代美術館職員	91
MOMASコレクション [II]	46		
MOMASコレクション [III]	48		
MOMASコレクション [IV]	50		
サンデー・トーク	52		
収集事業	53		
新収蔵作品一覧	54		
美術資料貸出等一覧	59		
特別利用	60		
教育・普及事業	63		
美術館講座	63		
ミュージアムシアター	64		
一般団体対応	66		
ファミリー鑑賞会	67		
子供のためのプログラム			
MOMASのとびら	68		
夏休みの特別プログラム	70		
ミュージアム・コラボレーション	71		
企画展ワークシートの作成	72		
学校との連携			
教員美術講座	73		
ミュージアム・キャラバン事業	74		
その他の学校連携事業	75		
博物館実習	76		
美術館ボランティア			
美術館サポーター	77		
教育普及サポート・スタッフ	78		
MOMAS彫刻ボランティア	78		
広聴・広報・刊行物	79		
図書資料の収集と公開	83		
椅子の美術館	83		
ハイビジョン・コーナー	83		

■埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

- 1 **美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。**
 - ①身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。
 - ②出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。
 - ③継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。
 - ④すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。
- 2 **人々が集い、参加し、交流するための基地となります。**
 - ①魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。
 - ②美術に関する情報センターの役割を果たします。
 - ③美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。
- 3 **未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。**
 - ①子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。
 - ②学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。
- 4 **地域や県民とともに進化する美術館を目指します。**
 - ①県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。
 - ②美術館の持つあらゆる資源（人・作品・施設等）を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。
 - ③北浦和公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

■ 施設

敷地面積	35,177 m ²
建築面積	2,238 m ²
延床面積	8,577 m ²
展示壁長	1,440 m
建築高さ	17.8 m
構 造	地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工 期	昭和55年3月28日～昭和57年2月27日
設 計	株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開 館	昭和57年11月3日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2階の展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中の人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の1985-86年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

■美術館誌

平成 30 (2018) 年

- 4月7日 企画展「モダンアート再訪 ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」を開催(～5月20日)。
- 4月8日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備(以降毎月第2日曜日)。
- 4月21日 「MOMASコレクション[I]」を開催(～7月8日)。
- 5月16日 「ファミリー鑑賞会」を開催。
- 5月29日 「第68回県展 埼玉県美術展覧会」を開催(～6月20日)。
- 6月2日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 6月2日 開館以来の入館者800万人を達成。
- 6月8日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 6月26日 「第1回埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」による審査。
- 7月7日 企画展「浦沢直樹展ー描いて描いて描きまくる!ー埼玉の巻」を開催(～9月2日)。
- 7月14日 「MOMASコレクション[II]」を開催(～10月14日)。
- 7月31日 「第1回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 8月30日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 9月15日 企画展「阿部展也ーあくなき越境者」を開催(～11月4日)。
- 10月20日 「MOMASコレクション[III]」を開催(～1月6日)。
- 10月24日 「ファミリー鑑賞会」を開催。
- 10月28日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 11月14日 企画展「辰野登恵子 オン・ペーパーズ A Retrospective 1969-2012」を開催(～1月20日)。
- 11月14日 公募展「カラダで・みる、うごいて・みる!」入賞作品を上映(～3月31日)。
- 11月30日 「ミュージアム・キャラバン」を美里町立東児玉小学校で開催。

平成 31 (2019) 年

- 1月12日 「MOMASコレクション[IV]」を開催(～4月14日)。
新規取得作品ポール・シニャック《アニメールの河岸》を公開。
- 2月2日 企画展「インポッシブル・アーキテクチャー もう一つの建築史」を開催(～3月24日)。
- 2月5日 「第2回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 2月14日 「第2回埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」による審査。
- 2月18日 「ミュージアム・キャラバン」を騎西特別支援学校で開催。作品を当館1階ギャラリーで展示。
- 3月7日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月15日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 3月24日 美術館講座「映像の可能性:物質と写真の衝突」を開催。

■企画展

■モダンアート再訪 ダリ、ウォーホルから 草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展 Modern Art Revisited: from the collection of Fukuoka Art Museum

■会期：2018年4月7日(土)～5月20日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

■協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5

■特別協力：福岡市美術館

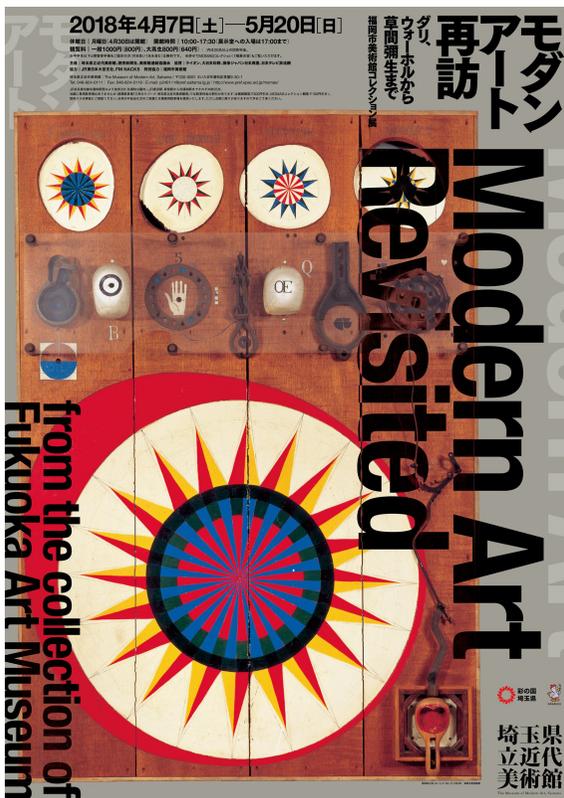
■観覧料：一般1000円(800円)、大高生800円(640円)
()は団体20名以上の料金

■入場者数：9,600人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA3(2回折り)

／デザイン：尾中俊介(Calamari Inc.)

■担当学芸員：吉岡知子、大浦 周



B2 ポスター

■開催趣旨

1979年に開館した福岡市美術館は、九州を代表する美術館として、国内でいち早くモダンアートの収集を開始し、優れたコレクションを所蔵している。この展覧会では、工事休館中の福岡市美術館から全面的なご協力をいただき、ヨーロッパとアメリカ、日本の1930年代から現代までの作品およそ70点を紹介した。シュルレアリスムから戦後の抽象表現主義、ポップ・アートまで、欧米を中心に展開した美術の歴史をたどるとともに、戦後の日本で独自の活動を繰り広げた「具体美術協会」や「九州派」などの作品も多く紹介した。

展示構成として「身体」と「イメージ」をキーワードとする6つの章を設定し、一本の線ではたどることのできない20世紀美術のさまざまな様相を紹介した。

■カタログ

規格：24.8×18.6cm、148頁

企画・執筆：尾崎信一郎、赤井あずみ(鳥取県立博物館)／吉岡知子(埼玉県立近代美術館)／洲濱元子、小島ひろみ、宇多瞳(広島市現代美術館)／富田康子(横須賀美術館)／山口洋三(福岡市美術館)

編集：坂井基樹、田中真利(坂井編集企画事務所)

校正：佐藤恵美、合田真子

翻訳：小川紀久子

デザイン：宗利淳一

発行者：鳥取県立博物館、埼玉県立近代美術館、広島市現代美術館、横須賀美術館、美術館連絡協議会
価格：2,000円(税込)

内容：尾崎信一郎「モダンアート再訪」／山口洋三「福岡市美術館のコレクション形成—(元々)相対化されていた「モダンアート」」／吉岡知子「ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いていたジョアン・ミロ 1940-1945」／洲濱元子「核の時代の美術 ダリ、イヴ・クラインそして工藤哲巳について」／富田康子「前衛美術と女性作家」／赤井あずみ「「基盤」からはじめる一榎倉康二と原口典之の試みについて」／作家インデックス／図版・作品解説／作家解説／出品作品リスト／用語解説／福岡市美術館について

■関連事業

- ・レクチャー&トーク「反芸術綺談～九州派とその時代」
／第一部(レクチャー)：山口洋三(福岡市美術館学芸係長)、第二部(トーク)：菊畑茂久馬(本展出品作家)×山口洋三／4月22日(日)／講堂／参加者：

115名

- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／4月28日（土）、5月12日（土）／吉岡知子／参加者：計74名

■広報記録

<新聞>

- ・新井護「ダリなどの作品一堂に」『埼玉新聞』2018年4月11日
- ・「ダリやウォーホル 独創的な作品並ぶ」『読売新聞』2018年4月12日
- ・小出菜津子「世界の巨匠 夢の共演」『埼玉新聞』2018年4月18日
- ・吉岡知子「「モダンアート再訪」展」（上：サルバドール・ダリ「ポルト・リガトの聖母」／中：アンディ・ウォーホル「エルヴィス」／下：菊畑茂久馬「葬送曲 No.2」）『読売新聞』埼玉県版、2018年5月9日、10日、15日
- ・野村大輔「再評価をされる九州派 福岡市美術館コレクション展」『西日本新聞』2018年6月4日
- ・窪田直子「コレクション貸し出します 国内美術館長期休館で各地を巡回」『日本経済新聞』2018年10月9日
- ・告知：『朝日新聞』2018年4月3日、4月10日、4月24日、5月8日／『埼玉新聞』2018年4月4日、4月11日、4月25日、5月2日、5月9日／『東京新聞』2018年4月5日／『読売新聞』2018年4月10日、4月17日、4月24日、5月1日、5月8日、5月15日／『毎日新聞』2018年4月13日、4月20日、4月27日、5月11日、5月18日／『日本経済新聞』2018年5月10日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「モダンアート再訪「福岡市美術館コレクション展」開催中」『ショッパー』2018年4月13日
- ・「浦和エリアの美術館・博物館特集」『リプロマヴィ』2018年4月14日
- ・告知：『美術手帖』2018年4・5月合併号／『月刊武州路』2018年4月号／『たまログ』2018年4月号／『ビバ!アミーゴ』2018年4月20日

<テレビ、ラジオ>

- ・REDSWAVE 2018年4月4日、4月18日、5月2日
- ・テレビ埼玉 2018年4月11日
- ・J:COM 2018年4月12日

<WEB>

- ・「福岡市美展オールスター勢ぞろい! 身体とイメージから解くモダンアート史」『アートよろづや』2018年5月10日

- ・告知：『チケットぴあ』2018年4月6日／『disk union』2018年4月6日／『ART iT』2018年4月7日／『ケイティコム』2018年4月9日／『Brutus』2018年4月9日／『MiLK JAPON WEB』2018年5月11日



会場風景



会場風景

■担当後記

- ◆この展覧会は、改修工事のため長期休館中であった福岡市美術館のコレクションをまとめてお借りし、優れたモダンアートの作品を広く紹介する巡回展として立ち上がった。作品選定やテーマ設定については、幹事館である鳥取県立博物館副館長の尾崎信一郎さんを中心に、福岡市美術館および巡回館の当館、広島市現代美術館、横須賀美術館の学芸員が協議を重ねた。結果、1930年代から2000年代にいたるまでの欧米と日本の美術を6つの章によって紹介し、モダンアートを改めて「再訪」することができる展覧会を目指すこととなった。
- ◆福岡市美術館には、戦後の福岡を拠点とし、既存の

芸術や東京を中心とする価値観に反旗を翻した前衛芸術家集団「九州派」の充実したコレクションがあり、本展にも9点が出品された。本展を九州派が関東で紹介される貴重な機会と捉え、会期中にレクチャー&トーク「反芸術綺談～九州派とその時代」を開催した。第一部では、山口洋三さんに豊富な写真資料を交えながら、九州派の作品と時代背景についてレクチャーをしていただき、第二部では菊畑茂久馬さんも登壇して、当時の記憶を振り返りながらトークをしていただいた。

◆広報印刷物のデザインは、福岡市を拠点に仕事をしている尾中俊介さん(Calamari Inc.)に担当していただいた。ちらしはA3の紙を微妙にずらして折る、立体感のあるデザインに仕上がった。最初の打ち合わせで、尾中さんから菊畑茂久馬《ルーレット No.1》をちらしのメインにすることを提案いただき、デザインのレイアウト進行中に奇しくも菊畑さんご本人のトーク出演が決まった。多様な作品が出品される本展において、九州派をひとつの核として紹介するという方向性が見えた気がした。

◆本展には、連日予想を上回る来場者があり、アンケートでは、福岡市美術館の素晴らしいコレクションや、1930年代から現代までの美術の流れをたどるというコンセプトに好意的な意見を多くいただいた。ダリやウォーホルから現代の美術家までを幅広く、それぞれ質の高い作品によって紹介できたことは、当館にとって大変有難い機会であった。(吉岡知子)



レクチャー&トークの様子

■出品リスト

*本リストの掲載作品は、すべて福岡市美術館所蔵。

第1章 夢の中のからだ

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
1	レオナール・フジタ (藤田嗣治)	仰臥裸婦	1931	油彩・画布
2	三岸好太郎	海と射光	1934	油彩・画布
3	ジョアン・ミロ	ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子	1945	油彩・画布
4	マルク・シャガール	空飛ぶアトラージュ	1945	油彩・画布
5	ポール・デルヴォー	夜の通り (散歩する女たちと学者)	1947	油彩・イゾレルボード
6	サルバドール・ダリ	ポルト・リガトの聖母	1950	油彩・画布
7	藤野一友	抽象的な籠	1964	油彩・画布

第2章 不穏な身体

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
8	河原 温	朝が来る	1953	鉛筆・紙
9	河原 温	孕んだ女 (下図)	1953	鉛筆・紙
10	池田龍雄	寓話—マン・レイ風に— [網元シリーズ]	1954	インク、水彩、ニス・紙
11	池田龍雄	傷痍軍人	1954	インク、水彩、油彩・紙
12	海老原喜之助	傷身	1955	油彩・画布
13	ジャン・デュビュッフェ	もがく	1961	油彩・イゾレルボード
14	野見山暁治	人間	1961	油彩・画布
15	イヴ・クライン	人体測定 (ANT 157)	1961	油彩・紙 (画布の裏打ち)
16	工藤哲巳	石油と放射能の間での瞑想	1979	鳥籠、糸、プラスチック、塗料

第3章 身体と物質 九州派・具体・アンフォルメル

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
17	山内重太郎	作品 5	1958	アスファルト、ひも、顔料・板
18	桜井孝身	リンチ	1958	ペンキ、アスファルト、プラスチック、釘、チューブ、針金・金網
19	石橋泰幸	オヒサマ	1958 頃	アスファルト、ラッカー・画布
20	田部光子	魚族の怒り	1959	油彩、アスファルト、竹・板
21	尾花成春	黄色い風景 No.1	1959	油彩、アスファルト、カシュー他・板
22	菊畑茂久馬	葬送曲 No.2	1960	アスファルト、ペンキ、陶器、段ボール・板
23	田中敦子	作品 1	1959-60	ビニール塗料・帆布
24	嶋本昭三	作品	1960 頃	ペンキ、ガラス・画布
25	元永定正	作品	1963	油性合成樹脂塗料、小石・画布
26	白髪一雄	丹赤	1965	油彩・画布
27	松谷武判	繁殖 65-25	1965	ビニール接着剤、水性塗料・画布 (板貼り付け)
28	吉原治良	白い円	1970	アクリル・画布
29	オチオサム	球の遊泳 II	1979	油彩・画布
30	向井修二	作品	1961	油彩、木・板
31	田部光子	プラカード	1961	印刷物、真鍮、墨、塗料、ニス・紙 (襖)
32	マーク・トビー	収穫	1958	テンペラ・紙 (板貼り付け)
33	アントニ・タピエス	絵画 No. XXVIII	1955	油彩他・画布 (板貼り付け)
34	ジャン・フォートリエ	直方体	1959	油彩、紙・画布

第4章 転用されるイメージ ポップ・アートとその周辺

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
35	アルマン	呪われた村 (光る目)	1961	人形、ガラスケース
36	アンディ・ウォーホル	エルヴィス	1963	シルクスクリーンインク、スプレー塗料・画布
37	赤瀬川原平	千円札 (風倉匠の肖像)	1963	オフセット、ボールペン・紙; 鉛筆・紙
38	風倉 匠	ピアノ狂詩曲 6-97.P3	1997	鉛、ピアノ部品・板
39	風倉 匠	パフォーマンス「ピアノを打つ (ピアノ狂詩曲)」で使用された鞭	1994	革、塗料
(参考資料)		風倉匠パフォーマンス「ピアノを打つ (ピアノ狂詩曲)」	1994	映像 (約 36 分)
	撮影・編集: 山城雄一郎			
40	菊畑茂久馬	ルーレット No.1	1964	カシュー、エナメル、鉛筆、金属、スポンジ、アクリル板・板
41	篠原有司男	ドリンク !!	1964	アクリル、ラッカー、石膏、オブジェ・布
42	ロイ・リキテンシュタイン	雲のある海景	1965	油彩、マグナ・画布
43	タイガー立石	大停電 '66	1966	油彩・画布
44	中村 宏	オペラグラス 3	1966	油彩・画布
45	ロバート・ラウシェンバーク	ブースター	1967	リトグラフ、シルクスクリーン・紙
46	草間彌生	夏 (1)	1985	布、塗料、合成繊維、金属
47	草間彌生	夏 (2)	1985	布、塗料、合成繊維、金属
48	柳 幸典	二つの中国	1997	蟻、着色した砂、アクリル板、ビニールチューブ

第5章 イメージの消失 抽象と事物

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
49	瑛九	丸 2	1958	油彩・画布
50	マーク・ロスコ	無題	1961	油彩・画布
51	ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962	油彩・画布
52	フランク・ステラ	バスラ門 II (分度器シリーズ)	1968	ポリマー塗料、蛍光ポリマー塗料・画布
53	原口典之	無題	1971	鉄、ゴム、油土、水、アクリル板
54	桑山忠明	メタリックブラウンとグレー	1973	アクリル・画布、アルミニウム、木
55	榎倉康二	予兆のためのコレクションー鉄	1975	木、ガラス、鉄、布
56-1	山崎直秀	Book 1	1976-79	オフセット印刷
56-2	山崎直秀	Book 2	1976-79	オフセット印刷
56-3	山崎直秀	Book 3	1976-79	オフセット印刷
57	山崎直秀	Fda Lequeu Fjwae	1983	オフセット印刷
58	クロード・ヴィアラ	無題	1974	アクリル・布 (テルガル)
59	ルイ・カーヌ	床/壁	1974	油彩・画布

第6章 再来するイメージ

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
60	ジャン＝ミシェル・バスキア	無題	1984	アクリル、オイルスティック・画布
61	ジグマール・ポルケ	Nessi Has Company II	2003	塗料、透明レジン・布
62	リサ・ミルロイ	靴	1989	油彩・画布
63	大竹伸朗	WEB	1990-91	油彩、油性ニス、プラスチック、プラスチックパテ、布テープ、印刷物、写真、石膏、ウレタン、鉄、真鍮、麻布、綿布、綿糸、木材

No.	作家名	題名	制作年	技法・素材
64	やなぎみわ	The White Casket	1994	ダイレクトプリント
65	辰野登恵子	UNTITLED 94-9	1994	油彩・画布
66	横尾忠則	暗夜光路 旅の夜	2001	油彩・画布
67-1	金村 修	Today's Japan	1995- 2004	ゼラチンシルバープリント
67-2	金村 修	Today's Japan	1995- 2004	ゼラチンシルバープリント
67-3	金村 修	Keihin Machine Soul	1996- 2004	ゼラチンシルバープリント
67-4	金村 修	Someday OK Prince will Cone	1995- 2004	ゼラチンシルバープリント
67-5	金村 修	CHERRY BLOSSOM BARBECUE MIND	2003	ゼラチンシルバープリント
67-6	金村 修	CHERRY BLOSSOM BARBECUE MIND	2003	ゼラチンシルバープリント
67-7	金村 修	CHERRY BLOSSOM BARBECUE MIND	2003	ゼラチンシルバープリント
67-8	金村 修	CHERRY BLOSSOM BARBECUE MIND	2003	ゼラチンシルバープリント

■浦沢直樹展—描いて描いて描きまくる! —埼玉の巻

Naoki Urasawa

■会期：2018年7月7日(土)～9月2日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：N WOOD STUDIO、JR 東日本大宮支社、FM N
ACK5

■特別協力：長崎尚志、工藤かずや、勝鹿北星、手塚プロ
ダクション

■観覧料：一般 1100 円 (880 円)、大高生 880 円 (710 円)

() は団体 20 名以上の料金

■入場者数：15,651 人

■広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4

■担当学芸員：五味良子



B2 ポスター

■開催趣旨

『YAWARA!』、『パイナップル ARMY』(原作：工藤かずや)、『MASTER キートン』(脚本：勝鹿北星/長崎尚志)、『Happy!』、『MONSTER』、『20 世紀少年』、『PLUTO』(浦沢直樹×手塚治虫・長崎尚志プロデュース・監修/手塚眞・協力/手塚プロダクション)、『BILLY BAT』(ストーリー共同制作：長崎尚志) など、数々の話題作を世に送り出してきた漫画界の鬼才、浦沢直樹。その作品はスポーツ、

SF、ミステリーなどのジャンルの枠組みを超え、巧みなストーリー展開が常に読者を魅了し続けている。

この展覧会では、そうした浦沢直樹の「描いて描いて描きまくる」創作活動の全貌を紹介した。代表作『MONSTER』第 18 巻(最終巻) 一卷丸ごと分の直筆原稿のほか、ストーリーの構想メモ、秘蔵のイラストやスケッチ、そして少年時代の漫画ノートにいたるまで、膨大な数の貴重な手稿を展示した。また他のアーティストとコラボレーションした CD や書籍の装丁の仕事、世界各地で発売されている各国語版の単行本、長年にわたる音楽活動など、幅広い試みにスポットを当てた。

■公式ブック

規格：25.8 × 18.3 × 2.4cm

著者：浦沢直樹

発行：小学館

内容・構成：第 1 章：Q. 何故ずっと漫画を描き続けるのか？ 幼少期～高校生/第 2 章：Q. 作家・浦沢直樹はいつ確立されたのか？ [初期の URASAWA] ～ [パイナップル ARMY] /第 3 章：Q. 王道の漫画とは、一体何か？ [YAWARA!] /第 4 章：Q. 人の心を動かすエピソードの作り方とは？ [MASTER キートン] /第 5 章：Q. 次々に長編連載作を描き続けるモチベーションとは？ [Happy!] /第 6 章：Q. 魅力的なキャラクター作りの秘訣は？ [MONSTER] /第 7 章：Q. どこまで決めて作品を描き始めるのか？ [20 世紀少年] /第 8 章：Q. 情感を描くのに必要なものとは？ [PLUTO] /第 9 章：Q. 資料写真のない世界をどうやって描くのか？ [BILLY BAT] /第 10 章：Q. いつまで漫画を描き続けるのか？ 現在～これから

価格：2,700 円 (税込)

■関連事業

- ・ライブ&ドローイングイベント：「浦沢直樹のひとり漫弁歌って語って描きまくる！」/7月21日(土) /浦沢直樹/講堂/参加者：110 名
- ・担当スタッフによるギャラリー・トーク/7月28日(土) /副館長・加藤哲之/参加者：21 名

■広報記録

<新聞>

- ・告知：『埼玉中央よみうり』2018年6月8日/『毎日新聞』2018年6月13日、7月6日、7月8日、7月13日、7月27日、8月3日、8月18日、8月31日/『埼玉よみうり』2018年6月15日/『朝日新聞』2018年6月26日、6月27日、7

月3日、7月17日、7月24日、8月10日／『埼玉新聞』2018年6月27日、7月1日、7月4日、7月11日、7月25日、8月8日、8月22日、8月29日／『東京新聞』2018年7月5日、8月28日／『日本経済新聞』2018年7月6日／『読売新聞』2018年7月8日／『産経新聞』2018年7月29日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・『ショッパー』2018年7月6日
- ・『ピバ!アミーゴ』2018年6月22日
- ・『たまログ』2018年7月号、7月4日
- ・『月刊さんさん』2018年8月号、7月4日
- ・『月刊美術』2018年7月号、7月4日
- ・『定年時代』2018年7月号、7月4日
- ・『東部よみうり』2018年7月10日
- ・『Success15』2018年7月25日
- ・『美術の窓』2018年8月号、7月26日
- ・『アコレおおみや』2018年7月27日
- ・『上毛新聞』2018年7月30日
- ・『彩美術新聞』2018年8月1日
- ・『上毛新聞』2018年8月7日
- ・『HANAKO』2018年9月13日

<WEB>

- ・『美術手帖』2018年5月25日
- ・『アートアジェンダ』2018年5月25日
- ・『インターネットミュージアム』2018年5月31日
- ・『Web版美術手帖』2018年6月4日
- ・『中央よみうり』2018年6月8日
- ・『ANTANWEB』2018年6月4日
- ・『Artnavi』2018年6月4日
- ・『シェアアート』2018年6月4日
- ・『ホルバインアーティスト』2018年6月11日
- ・『ぴあ』2018年6月21日
- ・『ぴあぼいんと』2018年6月21日
- ・『ディスクユニオン』2018年7月3日
- ・『JDN』2018年7月4日
- ・『yahoof ライフマガジン』2018年7月6日
- ・『アートエキシビジョンジャパン』2018年7月7日
- ・『Shopping Design』2018年7月17日
- ・『美術AS』2018年7月21日

<テレビ、ラジオ>

- ・「FM NACK5」2018年7月8日
- ・「モーニングスクエア」2018年7月11日
- ・「テレビ埼玉」2018年7月12日、8月19日
- ・「J:COM」2018年7月13日
- ・「文化放送」2018年7月22日



会場風景



会場風景

■担当後記

- ◆“漫画は絵とストーリーの両方がそろってはじめて成立する”という浦沢の考えに基づき、展示室は実際の実原稿を来場者自身のペースで読み進んでいく空間となった。
- ◆浦沢の全面的な協力により、普段は公開されないことのない1,000点を超える資料が集い、迷路のような展示室は凝縮された空間となった。
- ◆掲載誌面よりも大きいオリジナルの実原稿や下絵からは、描線の勢いや修正の跡などから臨場感に満ちた作画過程がつぶさにくかがわれ、作者の息遣いが間近に感じられた。
- ◆往年の名作に加え、ルーヴル美術館とコラボレーションした最新作(当時)『夢印-MUJIRUSHI-』関係資料の出品が注目を集めた。
- ◆会期中、浦沢自身の手により展示室で即興的に描かれたイラストが、会場に躍動感をそえていた。
- ◆浦沢の意向で設置を許された展示室内の記念撮影ス

-
- ポットが、SNS の隆盛を受けて好評を博した。
- ◆浦沢が自身の奏でた音色を背景に作画するライブ・アンド・ドローイング・イベントは、作家の多彩な活動を実感できる場となった。 (五味良子)



会場風景

■出品リスト

* 特記のないものは、個人蔵です。

- ◆イントロダクション スライドショー／1分15秒
- ◆展覧会メインヴィジュアル 原画
- ◆展覧会メインヴィジュアル 原画 トーン処理したもの
- ◆浦沢直樹展 ー山口の巻ー 特別描き下ろしビジュアル
食って食って食いまくる 猪熊 滋悟郎／アクリル絵具
- ◆浦沢直樹展 ー埼玉の巻ー 特別描き下ろしビジュアル
食って食って食いまくる 猪熊 滋悟郎／アクリル絵具

BILLY BAT

- ◆『BILLY BAT』構想メモ／15点
- ◆『BILLY BAT』第1話「DREALY NIGHT MURDERS[やるせない夜の殺人]」／16点
- ◆『BILLY BAT』第2話「A SINCERE NIGHT [真実の夜]」／21点
- ◆『BILLY BAT』第1巻第1話「あやしい夜に美女の危険な香りの巻」ネーム／15点
- ◆『BILLY BAT』第1巻第2話「あやしい夜に美女は消えたの巻」ネーム／20点
- ◆『BILLY BAT』最終話「最後の最後の最後の戦い」ラスト4ページ／4点
- ◆『BILLY BAT』最終話「最後の最後の最後の戦い」ラスト4ページネーム／4点
- ◆Kevin Goodman サイン入りイラスト
- ◆『BILLY BAT』雑風サイン入りカラー原稿
- ◆『BILLY BAT』Chuck Culkin サイン入りカラー原稿
- ◆『BILLY BAT』Shisho サイン入りモノ原稿
- ◆『BILLY BAT』浦沢直樹自作のフィギュア
- ◆浦沢直樹：企画・演出・音楽・全演奏『BILLY BAT』Promotion Movie 9/23 最終巻発売記念／映像／2分45秒

YAWARA!

- ◆『YAWARA!』作品設定資料／3点
- ◆『YAWARA!』ネーム／3点
- ◆『YAWARA!』第1巻第1話扉絵／カラートーン
- ◆『YAWARA!』ピンナップ原画／マーカー／「週刊ビッグコミックスピリッツ」1995年／創刊15周年記念特製ピンナップ
- ◆『YAWARA!』カレンダー原画／水彩絵具／「1992 YAWARA! カレンダー」／2点

- ◆『YAWARA!』第24巻カバー絵／カラートーン、色鉛筆
- ◆『YAWARA!』第29巻カバー絵／カラートーン、色鉛筆
- ◆『YAWARA!』第10巻カバー絵／カラートーン
- ◆『YAWARA!』ポスター原画／アクリル絵具／2002年／「YAWARA! DVD PERFECT COLLECTION」特典ポスター／2点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.1「時は来たれり!!」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.2「がんばれ!!」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.3「ジョディ、勝負よ」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.4「ジョディの実力」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.5「首の皮1枚!!」原稿／20点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.6「まさに名勝負」原稿／16点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.7「総立ち大歓声」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.8「柔の夏」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.8「柔の夏」／水彩絵具、色鉛筆／「週刊ビッグコミックスピリッツ」1993年 第34号
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.9「転機は突然!!」原稿／18点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.10「授与式の日」原稿／20点
- ◆『YAWARA!』第29巻Vol.11「ずっと・・・」原稿／24点

PLUTO

- ◆『PLUTO』カラー出力Act.64「終わりの音の巻」冒頭4ページ／4点
- ◆『PLUTO』第8巻Act.64「終わりの音の巻」原稿／24点
- ◆『PLUTO』第8巻カバー絵／アクリル絵具、色鉛筆
- ◆『PLUTO』豪華版第8巻付録カバー絵／アクリル絵具／特別ふろく1 Act.64「終わりの音の巻」
- ◆『PLUTO』第8巻付録カバー絵／アクリル絵具／別冊ふろく2 最終回「史上最大のロボットの巻」
- ◆『PLUTO』作品設定資料／7点

Happy!

- ◆『Happy!』第23巻SET.10「雨」原稿／18点
- ◆『Happy!』第23巻SET.11「I'm Happy!」／18点
- ◆『Happy!』完全版第7巻SET.101「どういこうった!!」／アクリル絵具、エアブラシ
- ◆『Happy!』完全版カバー絵／アクリル絵具／3点
- ◆『Happy!』完全版第1巻中扉／アクリル絵具
- ◆『Happy!』完全版第2巻中扉／アクリル絵具
- ◆『Happy!』第2巻カバー絵／パステル、鉛筆

- ◆『Happy!』完全版第7巻中扉／アクリル絵具
- ◆『Happy!』第8巻カバー絵／パステル、鉛筆
- ◆『Happy!』完全版第8巻SET.122「なんてことすんだ!!」没原稿
- ◆『Happy!』完全版第12巻SET.186「桜田純二、崖っぷち」没原稿

Master キートン / Master キートン Re マスター

- ◆『MASTER キートン Re マスター』宣材ポスター用原画／アクリル絵具、色鉛筆／「ビッグコミックオリジナル」2014年
- ◆『MASTER キートン』作品設定資料／5点
- ◆『MASTER キートン』単行本カバー絵／4点
- ◆『MASTER キートン Re マスター』第7話「マルタ島の女神」モノ原稿 p.1-4／4点
- ◆『MASTER キートン Re マスター』第7話「マルタ島の女神」カラー原稿／4点
- ◆『MASTER キートン Re マスター』第7話「マルタ島の女神」p.5-34／30点

パイナップル ARMY

- ◆『パイナップル ARMY』第8巻第3話「暗い日曜日」原稿／24点

MONSTER

- ◆『MONSTER』第18巻第1章「架空の人間」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第2章「休暇の終わり」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第3章「グリマーの叫び」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第4章「超人シュタイナーの怒り」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第5章「名前のない男」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第6章「描けない絵」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第7章「泣かないで」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第8章「終わりの風景」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻第9章「命ある者たち」原稿／23点
- ◆『MONSTER』第18巻第10章「明日はくる」原稿／22点
- ◆『MONSTER』第18巻最終章「本当の怪物」原稿／26点
- ◆『MONSTER』なまえのないかいぶつ／フィギュア製造：(株)メディコム・トイ
- ◆『MONSTER』第11巻第8章「悪夢の扉」／水彩絵具／「ビッグコミックオリジナル」1998年第24号
- ◆『MONSTER』完成版第3巻カバー絵／アクリル絵具、色鉛筆
- ◆『MONSTER』完全版第2巻第26章「ビー・マイ・ベイビー」

／アクリル絵具、カラーインク／単行本完全版第2巻のための描き下ろし

- ◆『MONSTER』第14巻第5章「あの日の夜」／アクリル絵具、色鉛筆／「ビッグコミックオリジナル」2000年第1号
- ◆『MONSTER』第15巻第8章「記憶の扉」／アクリル絵具／「ビッグコミックオリジナル」2000年第14号
- ◆『MONSTER』アニメーション化にあたりスタッフに向けた設定資料／4点
- ◆『MONSTER』第9巻第2章「混沌の怪物」～なまえのないかいぶつ～ ネーム／8点
- ◆『MONSTER』第18巻最終章「本当の怪物」ネーム／25点

20世紀少年

- ◆『20世紀少年』第8巻第4話「お迎え」／「週刊ビッグコミックスピリッツ」2001年第47号／彩色前の線画／2点
- ◆『20世紀少年』／アクリル絵具／「週刊ビッグコミックスピリッツ」2005年第27号表紙
- ◆『20世紀少年』／「週刊ビッグコミックスピリッツ」2005年第27号表紙下書き
- ◆『20世紀少年』第22巻第13話「決着」
- ◆『20世紀少年』第7巻第11話「突入」／アクリル絵具、色鉛筆／「週刊ビッグコミックスピリッツ」2001年第41号
- ◆『20世紀少年』「週刊ビッグコミックスピリッツ」2006年14号表紙下書き
- ◆『20世紀少年』「週刊ビッグコミックスピリッツ」2003年第9号表紙下書き
- ◆『20世紀少年』第1巻第1話「ともだち」／「週刊ビッグコミックスピリッツ」2001年第41号巻頭カラーページ原画／6点
- ◆『20世紀少年』第1巻カバー絵 線画／2点
- ◆『20世紀少年』連載開始時の予告カット／2点
- ◆『20世紀少年』連載再開時の予告ページビジュアル案
- ◆『20世紀少年』作品設定資料／9点
- ◆『21世紀少年』下巻第5話「パンチアウト」ネーム／4点
- ◆『20世紀少年』第20巻第11話「24時間の人類」ネームとメモ／ネーム17点／メモ1点
- ◆『20世紀少年』第8巻第1話「決戦」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第2話「ロボット」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第3話「ケンヂの歌」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第4話「お迎え」原稿(扉絵なし)／16点
- ◆『20世紀少年』第8巻第5話「ともだちランド」原稿

／19点

- ◆『20世紀少年』第8巻第6話「逃亡」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第7話「依頼」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第8話「成績」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第9話「計画」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第10話「首吊り坂」原稿／18点
- ◆『20世紀少年』第8巻第11話「話し声」原稿／18点
- ◆ともだちマスク／「浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる」東京会場開催時に自ら制作したディスプレイ
- ◆『20世紀少年』フィギュアパイロット版(制作者探し中)
- ◆ホットトイズ社製【コミック・マスターピース】『20世紀少年』1/6スケールフィギュア ともだち
- ◆映画『20世紀少年』で実際に使用されたマスク

夢印—MUJIRUSHI—

- ◆『夢印—MUJIRUSHI—』第1話「研究所」原稿／32点
- ◆『夢印—MUJIRUSHI—』第1話「研究所」ネーム／4点
- ◆『夢印—MUJIRUSHI—』設定資料／3点
- ◆『夢印—MUJIRUSHI—』単行本カバー絵／2点

初期作品・デビュー前作品

- ◆『太古の山脈』2点
- ◆トップ／1968年
- ◆小学生時代の漫画ノート／5点
- ◆中学生時代の漫画ノート／5点
- ◆『BETA!』ネーム
- ◆彫刻作品「河」
- ◆絵画「てつじん」／1966年
- ◆1973年13才で描いた作品
- ◆1972年12才で描いた作品
- ◆落描き 中学・高校時代の膨大な落描きの一部／3点
- ◆『Return』原画／1981年／2点
- ◆『BETA!』原画／1983年／『ゴルゴ13 別冊 No.56』／2点
- ◆『踊る警官』原画「ビッグコミック」／1984年-86年／2点
- ◆『N・A・S・A』原画「ビッグコミック」／1984年／2点
- ◆『ビーパル・マニュアルコミック』原画／アウトドア雑誌「BE-PAL」1984年4月-87年2月／2点
- ◆『シロは死なない』／1990年／作:北方謙三／イラスト:

浦沢直樹／2点

- ◆『暗殺者とボク』原画／1972-73年頃(中学1年生)／10点
- ◆『羅生門』原画／1975-76年頃(15-16才)／10点
- ◆『来訪者』原画／1976-77年頃(高校2年生)／9点
- ◆『造物主』原画／1976-77年頃(高校2年生)／10点
- ◆『Swimmers』原画／1979年(19才)／9点
- ◆『魔術』原画／1980年(20才)／9点
- ◆『ヘンリーとチャールズ』／アクリル絵具／「大きなポケット」1995年4月号/福音館書店／16点
- ◆少年時代の作品 スライドショー／14分32秒
- ◆中学校卒業文集「十年後の自分」

音楽漬けの日々

- ◆浦沢直樹 BAND ライブ風景／2016年7月3日 池袋 Adm／映像／19分11秒
- ◆ファーストアルバム『半世紀の男』ライナーノートイラスト／アクリル絵具、色鉛筆／2008年
- ◆ファーストアルバム『半世紀の男』ジャケットイラスト／アクリル絵具、色鉛筆／2008年
- ◆『半世紀の男』／2008年／CD
- ◆浦沢直樹『漫音』CDジャケット／ペン画にデジタル彩色／ペン／2015年／2点
- ◆『漫音』／2015年／CD
- ◆ファーストアルバム『半世紀の男』／2008年／歌詞草案、コード譜／8点
- ◆『BOB DYLANの大冒険』／グラフィックペン／2007年／『ディランを語ろう』(著:浦沢直樹・和久井光司／小学館)／4点
- ◆ボブ・ディランの歌詞を書き写したもの／高校時代／2点
- ◆高校1年生の時、初めてひらいたコンサートのチケットとプログラム／2点
- ◆所属していた軽音部のコンサート・プログラム／大学2年頃／2点
- ◆ミュージシャンのポートレート／17才頃に描いたミック・ジャガー、リンジー・バッキンガム、ボブ・ディラン／4点

その他

- ◆浦沢直樹展 一大阪の巻一 特別描き下ろしビジュアル 食って食って食いまくる 猪熊 滋悟郎／アクリル絵具
- ◆展覧会開催に向けた思いを語るインタビュー／2016年／映像／8分34秒

- ◆手塚治虫 生誕 90 周年記念 鉄腕アトム「地上最大のロボット」より『PLUTO プルートゥ』劇中で使用されたロボット「ブラウ 1589」「アーノルド」「アリ」「ロビタ」／4 点／株式会社東急文化村蔵
- ◆魔女とボス／石塑粘土／2011 年
- ◆漫オコンビ 寒空ニッチモ・サッチモ／紙粘土・金ザル／2011 年
- ◆NHK「プロフェッショナル」放送用イラスト／アクリル絵具／2007 年
- ◆仕事以外に自由に描きためたイラスト群／37 点
- ◆『初期の URASAWA』単行本表紙絵／マーカー、色鉛筆／2000 年
- ◆『初期の URASAWA』単行本裏表紙絵／マーカー、色鉛筆／2000 年
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞 増刊号」1996 年 9 月 28 日号／ペン、エアブラシ
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞 増刊号」2000 年 10 月 12 日号／ペン、エアブラシ
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞 増刊号」2000 年 4 月 12 日号／ペン、エアブラシ
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞増刊号」1999 年 10 月 12 日号／ペン、エアブラシ
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞増刊号」1997 年 4 月 12 日号／ペン、エアブラシ
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞増刊号」1999 年第 1 号／ペン、カラートーン
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞増刊号」／ペン、カラートーン
- ◆「週刊ビッグコミックスピリッツ」2000 年第 1 号／『20 世少年』／マーカー、カラートーン
- ◆「ビッグコミックオリジナル 新人コミック大賞増刊号」1995 年 9 月 28 日号／ペン、マーカー
- ◆「週刊ビッグコミックスピリッツ」2007 年第 6 号／『21 世紀少年』／アクリル絵具
- ◆DOMINO88『Pleasure!』CD ジャケット／ペン、アクリル絵具／2003 年
- ◆風男塾『BE HERO』CD ジャケット／ペン画にデジタル彩色／2014 年
- ◆『僕らの「ヤングミュージックショー」』書籍カバー(著:城山隆／情報センター出版局)／ペン、アクリル絵具／2005 年
- ◆T.REX × 浦沢直樹『20th Century Boy / Bob Lennon』CD ジャケット／ペン／2009 年
- ◆『瀕死の双六問屋 完全版』書籍カバー(著:忌野

清志郎／新人物往来社)／ペン／2012 年

- ◆『パン 笑いの新境地』『ご飯 漫オコンプリート』／ペン／2011 年
- ◆「ビクターロック祭り」公式ビジュアル／着色前のペン画／2015 年
- ◆「ビクターロック祭り」公式ビジュアル／ペン画にデジタル彩色／2015 年
- ◆泉谷しげる『天才か人災か』CD ジャケット／ライナーノーツ／ペン、色鉛筆、アクリル絵具／2010 年
- ◆矢野顕子 40 周年記念イラスト／ペン画にデジタル彩色
- ◆『レコード・コレクターズ増刊 ザ・ビートルズ・マテリアル Vol.2 ジョン・レノン』(著:和久井光司／ミュージック・マガジン) 書籍カバー／ペン／2013 年
- ◆震災チャリティー展イラスト「新しい発電と節電を考えるシリーズ」／色鉛筆、アクリル絵具／2011 年／9 点
- ◆福島チャリティー CD ジャケット原画
- ◆パリ市庁舎での展覧会開催を機に描いたイラスト／2018 年／3 点

トロフィー

- ◆第 1 回文化庁メディア芸術祭 マンガ部門優秀賞
- ◆第 6 回文化庁メディア芸術祭 マンガ部門優秀賞
- ◆アングレーム国際漫画フェスティバル 最優秀長編賞(フランス)
- ◆アングレーム国際漫画フェスティバル 特別栄誉賞(フランス)
- ◆アングレーム国際漫画フェスティバル SNCF ミステリー作品 特別栄誉賞(フランス)
- ◆アイズナー賞 最優秀アジア作品賞(アメリカ) 2011 年
- ◆アイズナー賞 最優秀アジア作品賞(アメリカ) 2013 年
- ◆Polymanga Awards (スイス)
- ◆第 39 回星雲賞コミック部門
- ◆マックスアンドモリッツ賞 最優秀賞(ドイツ)
- ◆第 48 回小学館漫画賞
- ◆'98 Big Cup ゴルフ大会 ブービー賞
- ◆'99 Big Cup ゴルフ大会
- ◆amazon.co.jp 10 周年記念 殿堂入り著者
- ◆第 37 回日本漫画家協会賞大賞
- ◆第 3 回手塚治虫文化賞マンガ大賞
- ◆第 9 回手塚治虫文化賞マンガ大賞
- ◆ジャパンエキスポアワード(フランス)
- ◆グラングイジーニ国際コミック賞(イタリア)
- ◆第 35 回小学館漫画賞
- ◆第 25 回講談社漫画賞

各国語翻訳

- ◆『N・A・S・A』／1点
- ◆『踊る警官』／1点
- ◆『パイナップル ARMY』／2点
- ◆『YAWARA!』／5点
- ◆『MASTER キートン』／2点
- ◆『Happy!』／2点
- ◆『MONSTER』／4点
- ◆『PLUTO』／4点
- ◆『20世紀少年』／6点
- ◆『21世紀少年』／1点
- ◆『BILLY BAT』／3点

書籍・CD など

- ◆『ビートルズ原論』（著:和久井光司／河出書房新社）
- ◆『レコード・コレクターズ増刊 “THE BEATLES MATERIALS”』（著:和久井光司／ミュージック・マガジン）／3点
- ◆泉谷しげる『天才か人災か』／CD
- ◆風男塾『BE HERO』／CD
- ◆DOMINO88『Pleasure!』／CD
- ◆Fukushima Records『声に出して。』／CD
- ◆『僕らの「ヤングミュージックショー」』（著:城山隆／情報センター出版局）
- ◆『瀕死の双六問屋 完全版』（著:忌野清志郎／新人物往来社）
- ◆『20世紀の日本のロック compiled by NAOKI URASAWA』／CD
- ◆『エキスプレス・レーベル 45周年アニバーサリー ベリー・ベスト・アルバム』／CD
- ◆浦沢直樹『月がとつても』／CD
- ◆『LOST KENJI TAPES Volume.1 Bob Lennon』／CD
- ◆『20世紀少年』サウンドトラック 1, 2, 3／CD／3点
- ◆ともだちギター／製作:ESP／2009年／『20世紀少年』特製コラボレーション・ギター
- ◆映画『20世紀少年』DVD 第1章・第2章・最終章 アナログ LP サイズ仕様／3点

■ 阿部展也—あくなき越境者 NOBUYA ABE 1913-1971: Insatiable Quest beyond Borders

■会期：2018年9月15日(土)～11月4日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

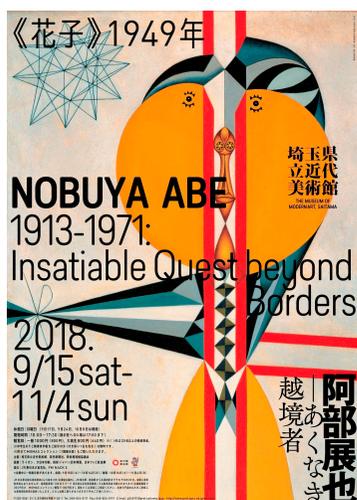
■協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5

■観覧料：一般1000円(800円)、大高生800円(640円)
()は団体20名以上の料金

■入場者数：4,089人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4 / デザイン：大溝裕 (Glanz)

■担当学芸員：吉岡知子、大越久子



■開催趣旨

新潟県に生まれ、戦前から戦後にかけて活躍した美術家・阿部展也(1913-1971)の回顧展。戦前は瀧口修造との共作による詩画集『妖精の距離』(1937年)により若くして注目を集め、前衛写真の分野でも異才を発揮した。また、1941年から陸軍の報道部写真班に所属し、出征先のフィリピンで雑誌の表紙や挿画、写真を手がけている。戦後に帰国すると、シュルレアリスムからアンフォルメル、幾何学的抽象へと目まぐるしく画風を変転させながら、海外の新しい美術動向の紹介も手がけるなど、先鋭的な活動を展開した。1962年から没するまではローマに暮らしている。

この展覧会では、ジャンルや文化を越境し、自ら変貌し続けるとともに、国際的な視野に立った創作と言論によって、日本の美術界にも大きな影響を与えた阿部展也の全貌を、主要作品および雑誌や写真などの資料、交流のあった国内外の美術家の作品を含む約230点によって紹介した。

■カタログ

規格：30.0×22.7cm、234頁

編集：塩田純一、松沢寿重、上池仁子、松本美樹(新潟市美術館) / 寺口淳治、松岡剛(広島市現代美術館) / 吉岡知子(埼玉県立近代美術館)

表紙デザイン：大溝裕 (Glanz)

制作：印象社

発行：新潟市美術館、広島市現代美術館、埼玉県立近代美術館、美術館連絡協議会

価格：2,600円(税込)

内容：塩田純一「阿部展也を求めて」 / 飯沢耕太郎「写真界への越境者—阿部展也と写真」 / 副田一穂「阿部展也(芳文)と『みちしるべ』：日本占領下のフィリピンにおける画家の活動の一断片(再録)」 / 寺口淳治「阿部芳文についての覚書」 / 松沢寿重「阿部展也、あくなき越境の遍歴」 / 上池仁子「阿部展也とエンコースティック」 / 阿部展也の主な“越境”遍歴 / 図版 / 阿部展也自筆文献 再録 / 年譜 / 作家解説 / 阿部展也に関する基礎的文献 / 文献目録 / 出品リスト / パブリックコレクション

■関連事業

- ・講演会「戦時下の道標—フィリピン時代の阿部展也」 / 副田一穂(愛知県美術館学芸員) / 9月16日(日) / 講堂 / 参加者：41名
- ・スペシャル・ギャラリートーク / 松沢寿重(新潟市美術館主幹・学芸員、本展覧会企画者) / 9月29日(土) / 参加者：21名
- ・担当学芸員によるギャラリートーク / 10月20日(土)、10月27日(土) / 吉岡知子 / 参加者：計27名

■広報記録

<新聞>

- ・「阿部展也「多才」に触れる」『読売新聞』2018年9月16日
- ・「県立近代美術館で阿部展也の企画展」『産経新聞』2018年9月18日
- ・永田晶子「「阿部展也—あくなき越境者」展 変化続けた多彩な活動」『毎日新聞』2018年9月26日
- ・山田俊二「首都圏アートナビ 前衛追い求め変貌続け」

『埼玉新聞』2018年10月2日

- ・「多岐にわたる作風 阿部展也の魅力 学芸員に聞く」

『読売新聞』2018年10月4日

- ・吉岡知子「阿部展也—あくなき越境者」(上:『妖精の距離』より「風の受胎」/中:「花子」/下:「R-12」)『読売新聞』埼玉県版、2018年10月12日、13日、18日

- ・木村尚貴「比類なき越境者の軌跡 阿部展也回顧展」『朝日新聞』2018年10月23日

- ・告知:『埼玉新聞』2018年9月12日、9月14日、10月23日/『東京新聞』2018年9月13日、10月4日/『朝日新聞』2018年9月18日、9月25日、10月2日、10月9日、10月16日、10月30日/『毎日新聞』2018年9月21日、9月28日、10月5日、10月19日、10月26日/『読売新聞』2018年10月2日、10月9日、10月16日、10月30日/『日本経済新聞』2018年10月4日、10月13日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「日本と海外を繋いだ阿部展也のモダンアート。」『Casa BRUTUS』2018年10月号

- ・野地耕一郎「見なお史 日本近代絵画 こんな画家がいた! 第43回 阿部展也 前衛表現を追求し続けたあくなき越境者」『一枚の絵』2018年11月号

- ・告知:『月刊美術』2018年9月号/『美術びあ』2018年9月1日/『たまログ』2018年9月号/『埼玉よみうり』2018年9月14日/『ショッパー』2018年9月14日/『あぶろぐ』2018年9月20日/『アートコレクターズ』2018年10月号/『Discover Japan』2018年11月号

<テレビ・ラジオ>

- ・REDSWAVE 2018年9月18日
- ・テレビ埼玉「ニュース1155」2018年10月3日

<WEB>

- ・「画風を変転させ続けた画家「阿部展也—あくなき越境者」が開幕」『美術展なび』2018年9月18日
- ・告知:『インターネットミュージアム』2018年6月1日、7月28日、9月6日/『美術手帖』2018年7月21日/『JDN』2018年7月28日/『シェアアート』2018年8月8日/『ART AgendA』2018年8月8日/『ART iT』2018年9月9日

■担当後記

- ◆この展覧会は、画風を目まぐるしく変化させ、絵画・写真・評論など多様なジャンルで活躍し、海外にも頻繁に渡った阿部展也を「あくなき越境者」として捉え、そのバイタリティに溢れる活動の全貌を紹介した回顧

展である。阿部の作品を1,300点以上所蔵する新潟市美術館を幹事館として、広島市現代美術館で立ち上がり、新潟市美術館での開催を経て、当館に巡回した。

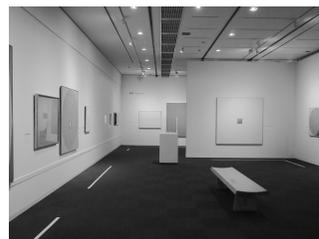
- ◆回顧展としては、18年ぶりとなった。これまで詳細が分からなかった第二次世界大戦中のフィリピンにおける活動については、現地で手がけた雑誌の表紙原画や初公開のドローイングが出品され、その一端が明らかとなった。また、阿部は1965年に新潟で「現代イタリア絵画展」をプロデュースし、フォンタナなどのイタリア絵画や、ドイツのグループ・ゼロの作品を紹介している。本展では、「現代イタリア絵画展」の出品作品も展示し、海外美術の紹介者としての阿部にも焦点を当てた。さらに展覧会の最後のパートでは、阿部の没後の評価に貢献した土方定一について触れられるなど、本展は阿部展也の活動を広い視座から回顧する試みであった。

- ◆会期中に愛知県美術館の副田一穂さんによる講演会を開催した。同館が近年収蔵した《雑誌『みちるべ』表紙原画》と阿部のフィリピンにおける活動について、同時代のシュルレアリスムの動向も交えながらお話いただいた。また、本展の企画者であり、地域ゆかりの美術家として長年調査を続けられてきた新潟市美術館の松沢寿重さんをお招きし、ギャラリートーク形式で阿部展也の画業と魅力を詳しく解説していただいた。

- ◆阿部展也の調査、研究の成果を反映したカタログが評価され、美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞した。新潟市美術館のご担当者と開催館とで喜びを分かち合った。(吉岡知子)



会場風景



会場風景

■出品リスト

- ・会期中に一部展示替を行いました。
* 印の作品は前期展示：9月15日～10月14日、** 印の作品は後期展示：10月16日～11月4日。
- ・作品番号は展示の順番とは必ずしも一致しません。
- ・欠番は当館では展示されなかった作品です。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵先
第1章 出発—(妖精の距離)と前衛写真 1932-1941					
I-1	阿部芳文(展也)	風景	1933-35年頃	油彩、板	新潟市美術館
I-2	画：阿部芳文(展也) 詩：瀧口修造	詩画集『妖精の距離』12点組	1937年	コロタイプ印刷	新潟市美術館(阿部展也旧蔵)
I-3	阿部芳文(展也)	こま	1937-38年頃	鉛筆、紙	新潟市美術館
I-4	阿部芳文(展也)	無題	1937年頃	鉛筆、紙	千葉市美術館(サトウ画廊コレクション)
I-5	阿部芳文(展也)	『フォトタイムス』15巻6号 表紙掲載写真	1938年	ゼラチン・シルバー・プリント	新潟市美術館
I-6*	オブジェ制作：土屋幸夫 写真撮影：阿部芳文(展也)	夜間作業—オブジェ	1938年	ゼラチン・シルバー・プリント	東京国立近代美術館
I-S1	翻訳：瀧口修造	邦訳『超現実主義と絵画』アンドレ・ブルトン著	1930年	書籍	個人蔵
I-S2	表紙：瀧口修造	『みづゑ』第388号(海外超現実主義作品集)	1937年	書籍	個人蔵
I-S3	広告文：瀧口修造	『妖精の距離』広告	1937年	印刷物	個人蔵
I-S4	写真：阿部芳文(展也)	『フォトタイムス』 15巻5号、15巻6号、15巻7号、 **15巻8号、**15巻10号、16巻2号、 16巻3号、16巻4号、17巻1号、17 巻2号、**17巻5号、*17巻6号、*17 巻7号、*17巻9号	1938-40 年	書籍	和歌山県立近代美術館
第2章 フィリピン従軍と戦後の再出発 1941-1947					
II-1	阿部芳文(展也)	雑誌『みちしるべ』表紙原画	1943年	混合技法、紙	愛知県美術館
II-2	阿部芳文(展也)	Jail Song	1945年	鉛筆、紙	新潟市美術館
II-3	阿部芳文(展也)	Jail Song	1945年	鉛筆、紙	新潟市美術館
II-4	阿部芳文(展也)	無題(Jail Song)	1945年	鉛筆、紙	新潟市美術館
II-5	阿部芳文(展也)	Saint Divine Conception	1945年	鉛筆、紙	新潟市美術館
II-6	阿部芳文(展也)	Jail Song	1945年	鉛筆、紙	浜松市美術館
II-7~30	阿部芳文(展也)	フィリピン時代のスケッチ(24点)	1945-46年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
II-31	阿部展久(展也)	Night	1947年	油彩、カンバス	新潟市美術館
II-S1	表紙：阿部芳文(展也)	雑誌『みちしるべ』	1942-43年	書籍	上智大学中央図書館
第3章 人間像の変容—下落のアトリエにて 1948-1957					
III-1	阿部展也	「骨の歌」のための習作	1950年頃	インク、紙	新潟市美術館
III-2	阿部展也	「夜曲なめくじ」のための習作	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-3	阿部展也	素描	1948年頃	インク、紙	新潟市美術館
III-4	阿部展也	「LOVE」のための習作	1948年頃	インク、紙	新潟市美術館
III-5	阿部展也	「Adam and Eve No.2」のための習作	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-6	阿部展也	素描	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-7	阿部展也	「花」のための習作	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-8	阿部展也	「花」のための習作	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-9	阿部展也	「花子」のための習作	1948年	インク、紙	新潟市美術館
III-10	阿部展也	「蜂猿」のための習作	1949年	水彩、インク、紙	新潟市美術館
III-11	阿部展也	素描	1949年	インク、紙	新潟市美術館
III-12	阿部展也	素描	制作年不明	インク、紙	新潟市美術館
III-13	阿部展也	素描	1949年	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-14	阿部展也	素描	1949年	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-15	阿部展也	素描	制作年不明	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-16	阿部展也	素描	制作年不明	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-17	阿部展也	素描	制作年不明	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-18	阿部展也	素描	1949年	鉛筆、紙	新潟市美術館
III-19	阿部展也	作品	1948年	水彩、紙	新潟市美術館
III-20	阿部展也	LOVE	1948年	油彩、カンバス	個人蔵
III-21	阿部展也	生誕	1949年	油彩、カンバス	神奈川県立近代美術館
III-22	阿部展也	飢え	1949年	油彩、カンバス	神奈川県立近代美術館

III-23	阿部展也	作品	1949年	コンテ、紙	新潟市美術館
III-24	阿部展也	作品	1949年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-25	阿部展也	蛸猿	1949年	油彩、カンバス	新潟市美術館
III-26	阿部展也	太郎	1949年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-27	阿部展也	太郎	1950年	水彩、コラーージュ、インク、紙	神奈川県立近代美術館
III-28	阿部展也	花子	1949年	油彩、カンバス	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
III-29	阿部展也	作品	1950年	油彩、カンバス	新潟市美術館
III-30	阿部展也	骨の歌	1950年	油彩、カンバス	国立国際美術館
III-31**	阿部展也	作品(「ものまね小僧」の習作)	1950年	水彩、インク、紙	富山県美術館(瀧口修造コレクション)
III-32	阿部展也	子供	1950年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-33	阿部展也	人	1954年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-34	阿部展也	埋葬	1952年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-35	阿部展也	埋葬2	1952年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-36	阿部展也	二人(男と女)	1952年	油彩、カンバス	個人蔵
III-37	阿部展也	予言者	1954年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-38	阿部展也	顔	1955年	水彩、紙	松本市美術館
III-39	阿部展也	人間	1955年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-40	阿部展也	人物	1956年	油彩、カンバス	松本市美術館
III-41	阿部展也	無題	1956年	水彩、紙	神奈川県立近代美術館
III-42	阿部展也	作品(人間)	1956年	油彩、カンバス	千葉市美術館
III-43	阿部展也	作品	1956年	油彩、カンバス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
III-45	阿部展也	作品	1957年	油彩、板	浜松市美術館
III-46～ 77	阿部展也	制作メモ・スケッチ(32点)	1955-57 年頃	赤鉛筆、鉛筆、ペン	新潟市美術館
III-78**	撮影：大辻清司 演出：阿部展也	美術家の肖像、阿部展也のアトリエにて	1950年	ゼラチン・シルバー・プリント	東京国立近代美術館
III-79*	撮影：大辻清司 演出：阿部展也	オブジェ、阿部展也のアトリエにて	1950年	ゼラチン・シルバー・プリント	東京国立近代美術館
III-80**	撮影：大辻清司 演出：阿部展也	オブジェ、阿部展也のアトリエにて	1950年	ゼラチン・シルバー・プリント	東京国立近代美術館
III-81*	撮影：大辻清司 演出：阿部展也	オブジェ、阿部展也のアトリエにて	1950年	ゼラチン・シルバー・プリント	東京国立近代美術館
III-82	阿部展也	インド旅行より 47	1953年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
III-83	阿部展也	インド旅行より 68	1953年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
III-84	阿部展也	インド旅行より 39	1953年	水彩、インク、紙	新潟市美術館
III-85	阿部展也	インド旅行より 33	1953年	水彩、インク、紙	新潟市美術館
III-86	阿部展也	インド旅行より	1953年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
III-87	阿部展也	竜舌蘭の花を売る少女	1953年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
III-S1	表紙：阿部展也	『週刊朝日』1950年5月7日号	1950年	書籍	個人蔵
III-S2	撮影：大辻清司 演出：阿部展也	『写真サロン』表紙	1955年	書籍	個人蔵
III-S3	写真：阿部展也	『インドの石窟彫刻』	1957年	書籍	新潟市美術館
III-S4	写真：阿部展也	『インドの一断面』	1958年	書籍	個人蔵

第4章 技法の探求から「かたち」 回帰へ—エンコースティックを中心に 1957-1967

IV-1	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ドウ プロヴニク)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-2	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ベオ グラード)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-3	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ベオ グラード)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-4	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ベオ グラード)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-5	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(モス タル)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-6	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ドウ プロヴニク)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-7	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ドウ プロヴニク)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-8	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア人物スケッチ	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-9	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ドウ プロヴニク)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-10	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(ブド ヴァ)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-11	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア風景スケッチ(モス タル)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館
IV-12	阿部展也	旧ユーゴスラヴィア人物スケッチ(ドウ プロヴニク)	1957年	水彩、コンテ、紙	新潟市美術館

IV-13	阿部展也	モニュメント	1959年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-14	阿部展也	無題	1959年	エンコースティック、紙ボード	新潟市美術館
IV-15	阿部展也	作品	1959年	エンコースティック、紙ボード	国立国際美術館
IV-16	阿部展也	作品 1, WHITE SCRIPT (D)	1960年	エンコースティック、板	目黒区美術館
IV-17	阿部展也	Flowing Stone	1960年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-18**	阿部展也	Garden	1960年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-19*	阿部展也	CONVERSATION OF JAPAN	1960年	エンコースティック、板	福井県立美術館
IV-20	阿部展也	テンプレートション	1960年	エンコースティック、板、 コラージュ	板橋区立美術館
IV-21	阿部展也	Good by	1961年	エンコースティック、合成樹 脂、板	新潟市美術館
IV-22	阿部展也	(作品)	1961年	エンコースティック、板、 コラージュ	個人蔵
IV-23	阿部展也	見なれぬ文字	1961年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-24	阿部展也	影 (l'ombra)	1961年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-25	阿部展也	マス プロダクション	1961年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-26	阿部展也	作品	1961年	エンコースティック、板	個人蔵
IV-27	阿部展也	ONCE UPON A PLANET	1961年	エンコースティック、板	個人蔵
IV-28	阿部展也	scrittura in bianco	1962年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-29	阿部展也	マスプロダクション	1962年	コルク、油彩、板	広島市現代美術館
IV-30	阿部展也	作品 1962-ROMA	1962年	エンコースティック、板	東京ステーションギャラリー
IV-31	阿部展也	作品-ROMA	1963年	エンコースティック、板	広島市現代美術館
IV-32	阿部展也	ROSIGNANO SOLVAY	1963年	エンコースティック、板	個人蔵
IV-33	阿部展也	SCRITTURA in BIANCO	1963年	エンコースティック、板	目黒区美術館
IV-34	阿部展也	ROSIGNANO SOLVAY	1963年	エンコースティック、板	千葉市美術館
IV-35	阿部展也	ABSTRACT	1963年	卵ケース、コルク、コラージュ	新潟市美術館
IV-36	阿部展也	(作品)	1963年	ガラス、板	個人蔵
IV-37	阿部展也	無題	1963年	エンコースティック、板	神奈川県立近代美術館(井関正昭氏旧蔵)
IV-38	阿部展也	作品	1964年	セメント、石膏、紙、板	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
IV-39	阿部展也	作品	1964年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-40	阿部展也	作品 (ECHO GREEN)	1964年	エンコースティック、板	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
IV-41	阿部展也	R-14-ROMA	1965年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-42	阿部展也	R-5-ROMA	1965年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-43	阿部展也	R-17-ROMA	1965年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-44	阿部展也	R-15-ROMA	1966年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-45	阿部展也	R-7-ROMA	1966年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-46	阿部展也	R-12	1966年	エンコースティック、板	千葉市美術館
IV-47	阿部展也	作品	1966年	樹脂	新潟市美術館
IV-48	阿部展也	R-14	1967年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-49	阿部展也	R-16-ROMA	1967年	エンコースティック、板	個人蔵
IV-50	阿部展也	R-9-ROMA	1967年	エンコースティック、板	新潟市美術館
IV-S1	阿部展也	ボグミルの墓石彫刻拓刷	1957-58年	墨、紙	新潟市美術館

幕間 — Interlude —

Int-1	ベン・シャーン	ペンを持つ手	1960年	墨、紙	個人蔵
Int-2	ルーチョ・フォンタナ	(空間概念)	制作年 不明	鉛筆、紙	個人蔵
Int-3	宮脇愛子	作品	1962年	油彩、大理石粉、パネル	横須賀美術館
Int-4	宮脇愛子	作品	1963年	油彩、大理石粉、パネル	横須賀美術館
Int-5	豊福知徳	群像	1960年	木	三鷹市美術ギャラリー
Int-6	豊福知徳	Al sig. Matsubara	制作年 不明	リトグラフ	新潟市美術館
Int-7	ルーチョ・フォンタナ	空間概念	1963年	油彩、カンバス	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-8	ジュゼッペ・カボグロッシ	SUPERFICIE No.539	1964年	油彩、ボード、板	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-9	エンリコ・カステルラーニ	作品	1962年	油彩、カンバス、金属	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-10	アントニオ・ヴィルドツツォ	作品	1962年	油彩、紙	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-11	ピエロ・ドラツィオ	意識	1960年	バステル、紙	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-12	ジュゼッペ・ウンチーニ	鉄と砂	1964年	砂、鉄、紙	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-13	マリオ・スキファノ	2-2B	1960年	油彩、カンバス	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-14	ギュンター・ユッカー	LIGHT RELIEF	1959年	釘、セメント、木	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-15	オットー・ビーネ	赤と黄色の果物	1963年	油彩、カンバス	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)
Int-16	ハインツ・マック	作品	1963年	グアッシュ、紙	BSN新潟放送(新潟市美術館寄託)

第5章 未完の「越境」 1968-1971

V -1-1 ~15	阿部展也	『16 LITOGRAFIE abe』のためのエスキース	1968-69年	インク、インスタントレタリング、カラーセロハン、方眼紙	新潟市美術館
V -2	阿部展也	作品	1968年	鉛筆、色鉛筆、ペン、カラーセロハン、方眼紙	新潟市美術館
V -3	阿部展也	R-2-ROMA	1968年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -4	阿部展也	R-1-ROMA	1968年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -5	阿部展也	EARTH	1968年	アクリル、カンバス	神奈川県立近代美術館
V -6	阿部展也	作品	1968年	アクリル、カンバス	浜松市美術館
V -7	阿部展也	R-2	1969年	アクリル、カンバス	神奈川県立近代美術館
V -8	阿部展也	1969 Roma	1969年	グアッシュ、紙	個人蔵
V -9	阿部展也	R-2	1969年	エンコースティック、板	個人蔵
V -10*	阿部展也	R-32-ROMA	1970年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -11	阿部展也	R-29	1970年	アクリル、カンバス	神奈川県立近代美術館
V -12**	阿部展也	R-47 1970-ROMA	1970年	アクリル、カンバス	福井県立美術館
V -13*	阿部展也	R-7-ROMA	1970年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -14	阿部展也	R-44-ROMA	1970年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -15	阿部展也	R-9-ROMA	1970年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -16	阿部展也	R-18	1970年	アクリル、カンバス	新潟市美術館
V -17	阿部展也	R-50	1970年	アクリル、カンバス	神奈川県立近代美術館
V -S1	阿部展也	『16 LITOGRAFIE abe』	1969年	書籍	新潟市美術館
V -S2 ~S19	阿部展也	型紙	1968-71年	紙	新潟市美術館

■参考資料

- ・表紙：阿部芳文(展也) / 『みづゑ』第395号 / 1938年 / 書籍 / 個人蔵
- ・フィリピン時代の写真帖(2冊) / 新潟市美術館
- ・『Camera』1950年10月号 / 書籍 / 個人蔵
- ・撮影：阿部展也 / インドの写真 / 映像(約14分)
- ・撮影：阿部展也 / 旧ユーゴスラヴィアの写真 / 映像(約22分)
- ・「現代イタリア絵画展」図録(BSN 新潟美術館、1965年) / 新潟市美術館
- ・阿部展也のパスポート(2冊) / 新潟市美術館
- ・「阿部展也回顧展」ポスター(神奈川県立近代美術館、1974年) / 個人蔵
- ・「阿部展也回顧展」図録(神奈川県立近代美術館、1974年) / 個人蔵
- ・『日本絵画館 第11巻 現代』(講談社、1971年) / 書籍 / 個人蔵
- ・『土方定一著作集 8 近代日本の画家論 III』(平凡社、1977年) / 書籍 / 個人蔵

■ 辰野登恵子 オン・ペーパーズ

Toeko Tatsuno On Papers: A Retrospective 1969-2012

■会期：2018年11月14日(水・県民の日)～2019年1月20日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、東京新聞

■助成：芸術文化振興基金

■協賛：株式会社資生堂

■協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5

■観覧料：一般1100円(880円)、大高生880円(710円)
()は団体20名以上の料金

■入場者数：6,852人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4 / デザイン：大石一義

■担当学芸員：大浦周、嶋原悠



B2 ポスター

■開催趣旨

1950年に長野県岡谷市に生まれ、東京藝術大学に学んだ辰野登恵子は、1970年代にドット(点)やグリッド(格子)、ストライプなどの規則的なパターンを用いて、理知的で抑制された表現の版画を発表し、若くして注目を集めた。ほどなく制作の中心を油彩に移し、豊潤な色彩で有機的な形象を描く独自の抽象表現を追求、2014年に亡くなるまで、自らの絵画を深化させ続けた。

大型の油彩が高く評価された辰野だが、この展覧会では版画やドローイングなど紙の上の表現に光を当て、画業の再検証を試みた。初期のシルクスクリーンによるコンセプトualな版画に始まり、油彩の制作を本格的に開始したのちも、辰野はそれと並行してエッチングや木版、リトグラフなどさまざまな版種による版画の制作に取り組んでいる。油彩での試みを版画で追体験し、あるいは版での成果を油彩に反映させる制作によってもたらされた、油彩と版画の豊かな並行関係は特筆すべき特徴である。また、油絵具やパステルによる大型のドローイングは、単に油彩のためのエスキースにとどまらない、画家にとって重要な実験の場となっていたことも窺える。これまでまとまった展覧の機会が限られていた紙の仕事を中心に、油彩30点を含む約220点の作品で40年余りの軌跡をたどり、辰野の画業を新たな視点から振り返った。

■カタログ

規格：28.9×22.4cm、288頁

編集：埼玉県立近代美術館(大浦周、嶋原悠)、名古屋市美術館(清家三智、笠木日南子)

執筆：建島哲、大浦周、三輪健仁(東京国立近代美術館)、清家三智、嶋原悠、鍋木あづさ(アーキヴィスト)、大石一義

デザイン：大石一義

制作：廣瀬歩(青幻舎)

発行：株式会社青幻舎

内容・構成：建島哲「絵画の形象を巡って―辰野登恵子の世界」、大浦周「章解説I～VIII」、大浦周「絶頂の予感―辰野登恵子の初期版画・ドローイング」、三輪健仁「無名の顔―辰野登恵子の抽象について」、清家三智「[備忘録]名古屋の辰野登恵子について」、嶋原悠編「辰野登恵子略歴」、鍋木あづさ編「辰野登恵子書誌」、出品リスト、大石一義編「紙の仕事 版画/版画と下絵/ドローイング /パブリック・コレクション」

価格：4,000円

■関連事業

- ・トークイベント「辰野登恵子と絵画の現在」／1月13日（日）／登壇者：千葉正也、高木大地、松井えり菜／講堂／参加者：130名
- ・ミュージアム・コンサート「音楽の力は国境を越えて」／12月16日（日）／出演：植村理葉（ヴァイオリン）、佐藤彦大（ピアノ）／センターホール／参加者：52名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／①12月15日（土）大浦周、②1月19日（土）大浦周／参加者：①40名、②60名

■広報記録

<新聞>

- ・「独自の境地への軌跡 「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」展」『東京新聞』2018年11月5日
- ・「開催社告 辰野登恵子 オン・ペーパーズ」『東京新聞』2018年11月13日
- ・森雅貴「独自の抽象表現追求 画家・辰野登恵子さん軌跡たどる企画展」『東京新聞』2018年11月15日県内版
- ・池上英洋「池上先生の絵ほどこき 辰野登恵子「格子の絵」の巻 伝統や権威の否定」『東京新聞』2018年11月27日
- ・小出菜津子「変化と挑戦 40年の軌跡」『埼玉新聞』2018年11月27日
- ・宮川匡司「多彩で繊細な抽象表現の冒険」『日本経済新聞』2018年11月28日
- ・大浦周「紙の仕事と油彩 豊かな関係 「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」展（上）」『東京新聞』2018年12月12日県内版
- ・大浦周「純色重ねた版画 繊細な罫線「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」展（中）」『東京新聞』2018年12月14日県内版
- ・大浦周「有機的な油彩 複雑に変化「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」展（下）」『東京新聞』2018年12月15日県内版
- ・「辰野登恵子さんの軌跡 県立近代美術館で展覧会」『毎日新聞』2018年12月18日県内版
- ・アライヒロユキ「問いかけが生んだ美の小宇宙」『赤旗』2018年12月19日
- ・池上英洋「池上先生の絵ほどこき 2018今年の美術展の巻 三つのタイプで振り返る」『東京新聞』2018年12月25日
- ・大西若人「絵画を探った豊かな成果 「吉村芳生」展

「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」展」『朝日新聞』2018年12月25日夕刊

- ・八瀬登「アートの扉 辰野登恵子 WORK 77-D-10 繊細に変わる色遣い」『毎日新聞』2019年1月7日夕刊
- ・「辰野登恵子の世界観味わう 県立近代美術館 あすまで企画展」『産経新聞』2019年1月19日県内版
- ・田村文「脱皮繰り返した40年の軌跡 油彩への展開読み解く 辰野登恵子展 埼玉県立近代美術館」共同通信配信記事、『大阪日日新聞』2018年12月5日／『日本海新聞』2018年12月8日／『下野新聞』2018年12月8日／『熊本日日新聞』2018年12月12日／『山陽新聞』2018年12月13日／『中国新聞』2018年12月18日／『徳島新聞』2018年12月25日

<雑誌・ミニコミ誌等>

- ・「辰野登恵子展」『美術展びあ 2018 秋冬』2018年9月10日
- ・大浦周「辰野登恵子 紙上の表現」『新美術新聞』2018年12月1・11日号
- ・「今月の展覧会 辰野登恵子 オン・ペーパーズ」『月刊ギャラリー』11月号、2018年11月1日
- ・「話題の展覧会より 版画と絵画の狭間で 辰野登恵子」『版画芸術』2018 冬号、2018年12月1日
- ・大浦周「版画から絵画へ—辰野登恵子の初期作品」『版画芸術』2018 冬号、2018年12月1日
- ・「油彩の名手が深化させた、紙の上の多彩な表現」『フィガロジャポン』2月号、2019年12月19日
- ・「辰野登恵子は紙上最強」『芸術新潮』1月号、2018年12月25日
- ・「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」『月刊モエ』2月号、2019年1月3日
- ・「必見!! 今年の展覧会 300 辰野登恵子 オン・ペーパーズ」『美術の窓』1月号、2019年1月20日
- ・「ブック・レビュー 辰野登恵子 ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012」『新美術新聞』2019年1月21日号
- ・告知『アコレおおみや』2018年10月17日／『TSUNAGU』2019 WINTER／『F.U.N.』2018年冬号／『つくりびと』1月号／『地域新聞ショッパー』12月7日号／『定年時代埼玉版』12月号

<WEB>

- ・「紙の仕事からとらえ直す、豊かな抽象世界」『美術手帖』2018年10月20日
- ・Jennifer Pastore「10 Things in Tokyo: December 2018」『Tokyo Art Beat』（英語版）2018年12月1日

- ・ 沢山遼「辰野登恵子の絵画はいかに展開したか」『美術手帖』2018年12月9日
- ・ Michelle Zacharias「Toeko Tatsuno On Paper」『Tokyo Art Beat』（英語版）2018年12月10日 <テレビ>
- ・ 「日曜美術館・アートシーン」NHK、2018年12月9日

■担当後記

◆本展は、辰野の紙の仕事とキャンバス作品を比較検討するだけでなく、これまで全貌を開示することがなかった70年代のオン・ペーパーの仕事を経時的に検証することをめざした。本格的に油彩制作に取り組む前の初期作品としての位置づけにとどまっていた70年代の版画・ドローイングについて、その膨大な全体像を明らかにするとともに、制作の展開を実証的に跡付けることを考えた。紙の仕事と油彩制作に通底し持続する問題意識を明らかにすることで、辰野の画業全体の再解釈の契機となるとともに、1970年代以降の絵画史の再検証にもつながる新たな視座を提供できたものとする。

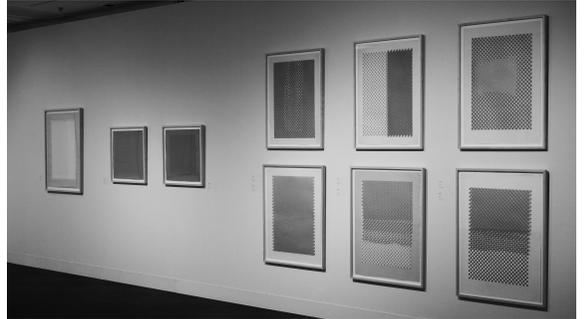
◆展覧会の準備は、辰野のアトリエに保管されていた数百点の版画・ドローイングの調査から始まった。マップケースに納められた作品をひとつひとつ取り出し、確認していく作業は、生前の辰野と直接言葉を交わすことが叶わなかった担当者にとって、作品を通して作家の思考と試行の展開を辿るような貴重な時間となった。

◆この経験をふまえて、展示においては紙作品の繊細な表現に集中できる環境を作ることを最も重視して構成を考えた。章立てや作品解説のパネルは設けず、テキストは配布資料に掲載する方法をとった。展示室の壁に掲出した辰野自身の言葉を手がかりとしながら、作品から読み取れるものにじっくりと向き合ってもらう展示とすることをめざしたが、来場者の多くからポジティブな反応を得られたことは大きな喜びだった。

◆展覧会開催と並び、現在確認できる辰野の版画とドローイング約600点を網羅した、将来のカタログ・レゾネの稿となるべき作品リストを刊行することも、本展の大きなテーマであった。「紙の仕事」と題して図録に収録したこのリストは、2007年から辰野と共に作品の調査・整理を行い、作家逝去後もデータ化の作業を続けた大石一義氏の仕事によるものである。本書を手にとったくださった方から、所蔵先情報や掲載外の作品の存在、オークション出品や二次流通についてなど、

さまざまな情報を寄せられる機会も増えてきている。作品情報の基礎資料としても、この「紙の仕事」を書籍として刊行できた意義は大きい。この出版を通じて未知の作品や所在不明の作品に関する情報の集約が可能となり、作家研究が進展することを期待している。

◆なにより、大切な作品を多数お貸出しいただき、度重なる調査にも快くご協力いただいたご遺族の皆様の献身なしには本展は実現できなかった。この場を借りて心からお礼申し上げたい。
(大浦 周)



第II章・会場風景



第VI章・会場風景

■出品リスト

* 作品データは原則として所蔵先から提供された情報に従い、以下の順に記載した。

カタログ番号 | 作品名 | 制作年 | 技法、素材 | 寸法 (縦×横) | 所蔵先

* 所蔵先の表記のない作品は、全て個人蔵である。

* カタログに掲載されている作品のうち、当館で出品されなかった作品は欠番になっている。

No.	タイトル	制作年	技法、素材	寸法	所蔵先
第I章					
1	Stones	1969年	油彩、カンヴァス	140.0 × 107.0cm	
2	Self portrait	1970年	アクリル・シルクスクリーン、カンヴァス (パネルに貼付)	170.0 × 91.8cm	
3	無題	1970年	アクリル・シルクスクリーン、カンヴァス (パネルに貼付)	162.0 × 130.0cm	
4	無題	1970年	アクリル、カンヴァス、コラージュ	162.0 × 130.0cm	
5	無題	1971年	アクリル、カンヴァス	130.0 × 97.0cm	
6	無題	1971年	アクリル、板	200.0 × 97.0cm	
7	9つの長方形	1971年	アクリル、カンヴァス	130.0 × 97.0cm	
8	作品II	1972年	シルクスクリーン、紙	63.0 × 93.5cm	
9	作品III	1972年	シルクスクリーン、紙	63.0 × 93.5cm	
10_1	無題	1973年	シルクスクリーン、紙	69.5 × 52.2cm	
10_2	無題	1973年	シルクスクリーン、紙	70.0 × 52.2cm	
10_3	無題	1973年	シルクスクリーン、紙	70.5 × 52.0cm	
10_4	無題	1973年	シルクスクリーン、紙	70.0 × 52.0cm	
第II章					
11	作品 73-1	1973年	シルクスクリーン、紙	63.0 × 47.0cm	
12	作品 73-2	1973年	シルクスクリーン、和紙	71.0 × 53.0cm	
13	作品 73-3	1973年	シルクスクリーン、和紙	91.0 × 62.0cm	
14	D74-10	1974年	シルクスクリーン、紙	53.5 × 54.0cm	
15	D74-11	1974年	シルクスクリーン、紙	53.5 × 54.0cm	
16	無題	1974年	シルクスクリーン、紙	90.8 × 69.5cm	
17	D74-1	1974年	シルクスクリーン、紙	81.5 × 61.5cm	
18	D74-2	1974年	シルクスクリーン、紙	85.0 × 61.5cm	
19	D74-4	1974年	シルクスクリーン、紙	89.0 × 63.0cm	
20	D74-7	1974年	シルクスクリーン、紙	93.5 × 67.0cm	
21	D74-8	1974年	シルクスクリーン、紙	84.5 × 65.8cm	
22	D74-9	1974年	シルクスクリーン、紙	89.5 × 64.0cm	
23	無題	不詳 (1974年頃)	シルクスクリーン・鉛筆・色鉛筆・水彩、紙	68.0 × 40.0cm	
24	UNTITLED-32	1974年	シルクスクリーン、紙	103.0 × 65.0cm	
25	UNTITLED-33	1974年	シルクスクリーン、紙	103.0 × 65.0cm	
26	UNTITLED-34	1974年	シルクスクリーン、紙	104.5 × 68.0cm	
27	UNTITLED-35	1974年	シルクスクリーン、紙	105.0 × 56.0cm	
28	UNTITLED-36	1974年	シルクスクリーン、紙	105.0 × 59.5cm	
29	UNTITLED-31	1974年	シルクスクリーン、紙	107.0 × 66.0cm	
30	UNTITLED-45	1974年	シルクスクリーン、紙	107.5 × 66.0cm	
31	UNTITLED-40	1974年	シルクスクリーン、紙	107.8 × 65.8cm	
32	UNTITLED-38	1974年	シルクスクリーン、紙	106.0 × 55.0cm	
33	UNTITLED-38-1	1974年	シルクスクリーン、紙	103.0 × 59.8cm	
34	UNTITLED 74-50	1974年	シルクスクリーン、紙	69.5 × 89.5cm	
35	UNTITLED 74-51	1974年	シルクスクリーン、紙	69.5 × 89.5cm	
第III章					
36	No.3	1977年	鉛筆、紙	99.5 × 68.6cm	
37	無題	1977年	木炭・鉛筆・水彩、紙	100.5 × 71.2cm	
38	No.9	不詳 (1977年頃)	鉛筆、紙	74.5 × 55.5cm	
39	WORK 76-D-5	1976年	シルクスクリーン、紙	75.0 × 56.0cm	埼玉県立近代美術館寄託
40	WORK 77-5	1977年	シルクスクリーン、紙	70.8 × 100.0cm	
41	MEM-K6	1975年	シルクスクリーン・鉛筆、紙	97.0 × 78.8cm	
42	MEM-K3	1975年	シルクスクリーン、紙	71.6 × 94.7cm	
43	WORK 76-K-20	1976年	シルクスクリーン、紙	95.0 × 79.5cm	
44	WORK 76-K-35	1976年	シルクスクリーン、紙	73.0 × 91.5cm	
45	WORK 77-10-2	1977年	シルクスクリーン、紙	74.0 × 108.0cm	

No.	タイトル	制作年	技法、素材	寸法	所蔵先
46	WORK 77-D-10	1977年	シルクスクリーン・鉛筆、紙	74.2 × 100.8cm	
47	無題	不詳(1977年頃)	鉛筆・色鉛筆・ペン、紙	56.0 × 72.5cm	
48	Pink, Grey, Black	1977年	シルクスクリーン(画面の剥がし)、紙	74.3 × 108.3cm	
49	WORK 77-N-1	1977年	シルクスクリーン(画面の剥がし)、紙	73.5 × 108.0cm	
50	WORK 77-10-1	1977年	シルクスクリーン・木炭・鉛筆、紙	70.5 × 94.5cm	
51	WORK 78-9-30	1978年	色鉛筆・水彩、紙	100.0 × 70.0cm	
52	WORK 77-16-4	1977年	シルクスクリーン・鉛筆、紙	79.0 × 100.0cm	
53	無題	不詳(1978年頃)	鉛筆・色鉛筆、紙	56.8 × 75.8cm	
54	WORK 78-16-5	1978年	鉛筆、紙	70.0 × 100.0cm	
55	WORK 78-16-4	1978年	シルクスクリーン・色鉛筆、紙	70.8 × 100.0cm	
56	WORK 79-D-1	1979年	シルクスクリーン・色鉛筆、紙	70.0 × 100.0cm	
57	WORK 78-P-1	1978年	アクリル、カンヴァス	130.0 × 162.0cm	
58	WORK 78-P-6	1978年	アクリル、麻布(パネルに貼付)	130.0 × 162.0cm	
60	無題	1976年	水彩・鉛筆・色鉛筆(画面の剥がし)、紙	70.8 × 100.0cm	
第IV章					
61	UNTITLED N-79	1979年	シルクスクリーン、紙	83.7 × 132.0cm	埼玉県立近代美術館寄託
62	UNTITLED T-79	1979年	シルクスクリーン、紙	83.7 × 132.0cm	埼玉県立近代美術館寄託
63	WORK 80-N-1	1980年	シルクスクリーン、紙	70.0 × 100.0cm	埼玉県立近代美術館寄託
64	WORK 80-N-2	1980年	シルクスクリーン、紙	70.0 × 100.0cm	埼玉県立近代美術館寄託
65	WORK 80-P-16	1980年	油彩、カンヴァス	182.0 × 227.0cm	
66	WORK 80-P-18	1980年	油彩、カンヴァス	182.0 × 227.0cm	千葉市美術館蔵
67	WORK 80-P-21	1980年	油彩、カンヴァス	100.0 × 80.3cm	
68	WORK 80-P-22	1980年	油彩、カンヴァス	162.0 × 130.0cm	
69	無題	1980年	シルクスクリーン・油彩・色鉛筆、紙	50.0 × 66.0cm	
70	無題	1983年	オイルスティック・水彩、紙、コラージュ	70.0 × 100.0cm	
71	無題	1983年	水彩、紙、コラージュ	69.5 × 100.0cm	
73	無題	1983年	オイルスティック・水彩、紙	70.5 × 100.0cm	
74	無題	1983年	オイルスティック・水彩、紙	70.5 × 100.0cm	
75	無題	1983年	オイルスティック・水彩、紙	70.5 × 100.0cm	
76	無題	1983年	オイルスティック・水彩、紙	70.5 × 100.0cm	
第V章					
77	WORK 81-P-26	1981年	油彩、カンヴァス	162.0 × 130.0cm	
78	WORK 83-P-2	1983年	油彩、カンヴァス	182.0 × 227.0cm	国立国際美術館蔵
79	WORK 83-P-4	1983年	油彩、カンヴァス	162.0 × 110.0cm	
80	WORK 82-P-36	1982年	油彩、カンヴァス	182.0 × 227.0cm	
81	WORK 83-P-5	1983年	油彩、カンヴァス	162.0 × 130.0cm	
82	WORK 81-D-30	1981年	油彩・パステル・水彩・鉛筆、紙	100.0 × 75.0cm	
83	WORK 81-D-31	1981年	油彩・パステル・水彩・鉛筆、紙	100.0 × 75.0cm	
84	WORK 81-D-32	1981年	油彩・パステル・水彩・鉛筆・色鉛筆、紙	100.0 × 75.0cm	
85	無題	1981年	油彩・パステル・鉛筆、紙	75.5 × 56.5cm	
86	無題	1981年	油彩・パステル・鉛筆、紙	70.0 × 52.0cm	
87	無題	1982年	パステル・水彩、紙	75.5 × 56.5cm	
88	無題	1982年	パステル、紙	67.0 × 49.0cm	
89	無題	1982年	パステル・水彩、紙	76.2 × 57.5cm	
90	無題	不詳(1982年頃)	パステル、紙	94.0 × 67.0cm	
91	WORK 83-D-7	1983年	パステル、紙	76.4 × 56.8cm	
92	UNTITLED-I	1982年	ドライポイント・シュガーアクアチント、紙	76.2 × 57.2cm	
93	UNTITLED-II	1982年	ドライポイント・シュガーアクアチント、紙	76.3 × 57.5cm	
94	UNTITLED-III	1982年	エッチング、紙	75.6 × 56.5cm	
95	UNTITLED-IV	1982年	エッチング、紙	76.5 × 57.0cm	
96	UNTITLED-V	1982年	ドライポイント、紙	76.5 × 57.0cm	
97	UNTITLED-VI	1982年	ドライポイント、紙	76.5 × 57.0cm	
98	UNTITLED-VII	1982年	エッチング・アクアチント・ディープエッチング、紙	76.2 × 57.0cm	
99	UNTITLED-VIII	1982年	エッチング・アクアチント・ディープエッチング、紙	76.0 × 56.5cm	
第VI章					
100	WORK 87-P-42	1987年	油彩、カンヴァス	259.0 × 194.0cm	
101	UNTITLED 94-11	1994年	油彩、カンヴァス	227.0 × 182.0cm	
102	UNTITLED 90-13	1990年	油彩、カンヴァス	259.0 × 194.0cm	
103	UNTITLED 91-21	1991年	油彩、カンヴァス	227.0 × 182.0cm	国立国際美術館蔵

No.	タイトル	制作年	技法、素材	寸法	所蔵先
104	無題	不詳(1995年頃)	パステル、紙	75.5 × 96.0cm	
105	無題	不詳(1995年頃)	パステル、紙	65.5 × 75.5cm	
106	無題	不詳(1995年頃)	パステル、紙	65.4 × 76.0cm	
107	無題	不詳(1996-97年頃)	油彩・パステル、紙	76.0 × 57.5cm	
109	Oct-20-95	1995年	パステル、紙	66.4 × 75.4cm	
110	UNTITLED 95-11	1995年	油彩、カンヴァス	182.0 × 227.0cm	
111	Sept-7-2000	2000年	パステル、紙	76.5 × 57.5cm	
112	無題	不詳(1998年頃)	パステル・水彩、紙	76.5 × 57.0cm	
113	無題	不詳(1998年頃)	パステル、紙	76.0 × 57.0cm	
114	無題	不詳(2000-01年頃)	パステル・水彩、紙	76.0 × 57.0cm	
115	無題	不詳	パステル・水彩、紙	76.0 × 57.0cm	
116	Aug-2-2003	2003年	油彩、カンヴァス	291.0 × 218.0cm	
117	May-24-2007	2007年	アクリル、カンヴァス	162.0 × 130.0cm	
120	Pink line-Purple line III	2007年	油彩、カンヴァス	162.0 × 130.0cm	
121	無題	不詳	パステル・水彩、紙	88.0 × 66.0cm	
122	無題	不詳	パステル、紙	75.0 × 56.5cm	
123	Feb-26-2008	2008年	パステル、紙	77.0 × 57.5cm	
124	March-3-98	1998年	油彩、カンヴァス	291.0 × 218.0cm	国立国際美術館蔵
125	April-19-2001	2001年	油彩、カンヴァス	66.2 × 53.0cm	
126	Oct-1-98	1998年	水彩・鉛筆・コンテ、紙	26.0 × 20.0cm	
127	Oct-2-98	1998年	鉛筆、紙	25.8 × 20.2cm	
128	Oct-10-98	1998年	鉛筆・コンテ、紙	25.0 × 20.0cm	
129	Oct-11-98	1998年	鉛筆・コンテ、紙	25.0 × 20.0cm	
第七章					
130	F.T-1-2005	2005年	油彩、紙	53.0 × 45.5cm	
131	F.T-2-2005	2005年	油彩・木炭、紙	45.5 × 53.0cm	
132	F.T-3-2005	2005年	油彩・パステル・木炭、紙	45.5 × 53.0cm	
133	F.T-4-2006	2006年	パステル・木炭、紙	45.5 × 53.0cm	
134	F.T-5-2006	2006年	木炭、紙	45.5 × 53.0cm	
135	F.T-6-2006	2006年	油彩・木炭、紙	45.5 × 53.0cm	
136	F.T-7-2006	2006年	油彩・鉛筆、紙	45.5 × 53.0cm	
137	F.T-8-2006	2006年	木炭、紙	30.0 × 34.5cm	
138	F.T-9-2006	2006年	木炭、紙	30.0 × 34.5cm	
139	F.T-10-2006	2006年	木炭、紙	30.0 × 34.5cm	
140	F.T-11-2006	2006年	油彩・パステル、紙	30.0 × 34.5cm	
141	F.T-12-2006	2006年	パステル・木炭、紙	30.0 × 34.5cm	
142	F.T-13-2006	2006年	油彩・木炭、紙	34.5 × 30.0cm	
143	F.T-14-2006	2006年	パステル・木炭、紙	30.0 × 34.5cm	
144	F.T-15-2006	2006年	油彩・コンテ、紙	28.5 × 25.0cm	
145	F.T-16-2006	2006年	油彩・木炭、紙	25.0 × 28.5cm	
146	F.T-17-2006	2006年	木炭、紙	25.0 × 28.5cm	
147	F.T-18-2006	2006年	木炭、紙	25.0 × 28.0cm	
148	F.T-19-2006	2006年	油彩・パステル、紙	45.5 × 53.0cm	
149	F.T-20-2006	2006年	油彩、紙	25.0 × 28.5cm	
150	F.T-21-2006	2006年	油彩、紙	25.0 × 28.5cm	
151	F.T-22-2006	2006年	油彩、紙	25.0 × 28.5cm	
152	F.T-23-2006	2006年	木炭、紙	28.5 × 25.5cm	
153	F.T-24-2006	2006年	油彩・木炭、紙	28.5 × 25.5cm	
154	F.T-25-2006	2006年	油彩、紙	28.5 × 25.0cm	
155	F.T-26-2006	2006年	油彩、紙	28.5 × 25.5cm	
156	F.T-27-2006	2006年	油彩、紙	25.5 × 28.5cm	
157	F.T-28-2006	2006年	油彩、紙	26.0 × 29.0cm	
158	F.T-29-2006	2006年	油彩、紙	26.0 × 29.0cm	
159	F.T-30-2006	2006年	油彩、紙	26.0 × 29.0cm	
160	F.T-31-2006	2006年	鉛筆、紙	33.0 × 34.8cm	
161	F.T-32-2006	2006年	鉛筆・色鉛筆、紙	34.0 × 33.0cm	
162	F.T-33-2006	2006年	パステル、紙	34.0 × 33.0cm	
163	F.T-34-2006	2006年	鉛筆、紙	31.0 × 35.2cm	

No.	タイトル	制作年	技法、素材	寸法	所蔵先
164	F.T-35-2006	2006年	油彩、紙	33.0×34.0cm	
165	F.T-36-2006	2006年	木炭、紙	33.0×34.0cm	
166	F.T-37-2006	2006年	油彩、紙	33.0×34.0cm	
167	F.T-38-2006	2006年	油彩、紙	35.0×33.0cm	
168	F.T-39-2006	2006年	木炭・鉛筆、紙	31.0×35.0cm	
169	F.T-40-2006	2006年	油彩、紙	34.5×32.5cm	
170	F.T-41-2006	2006年	油彩、紙	43.7×53.0cm	
171	F.T-42-2006	2006年	鉛筆、紙	25.3×28.3cm	
172	F.T-43-2006	2006年	鉛筆、紙	32.2×34.2cm	
173	F.T-44-2006	2006年	テンペラ、ボード	36.4×47.5cm	
174	F.T-45-2006	2006年	油彩、紙	44.0×50.5cm	
175	F.T-46-2006	2006年	パステル・色鉛筆、紙	38.3×45.0cm	
176	F.T-47-2006	2006年	油彩、紙	32.0×40.5cm	
177	F.T-48-2006	2006年	油彩、紙	32.0×40.5cm	
178	F.T-49-2006	2006年	パステル、紙	34.3×32.4cm	
179	F.T-50-2006	2006年	パステル、紙	34.3×32.4cm	
180	F.T-51-2006	2006年	パステル、紙	34.3×32.5cm	
181	F.T-52-2006	2006年	油彩・パステル、紙	45.4×53.0cm	
第VIII章					
182	AIWIP-2	2011年	リトグラフ、紙	76.3×56.5cm	
183	AIWIP-5	2011年	リトグラフ、紙	81.0×60.0cm	
184	版画 AIWIP-2 と 5 の下絵	2011年	パステル、紙	76.0×57.0cm	
185	版画 AIWIP-2 と 5 の下絵	2011年	木炭、紙	66.0×51.0cm	
186	AIWIP-7	2011年	リトグラフ、紙	76.0×56.5cm	
187	版画 AIWIP-7 の下絵	2011年	木炭、紙	66.0×51.0cm	
188	AIWIP-9	2011年	リトグラフ、紙	63.2×88.5cm	
189	版画 AIWIP-9 の下絵	2011年	油彩・パステル・木炭、紙	66.0×90.0cm	
190	AIWIP-16	2011年	リトグラフ、紙	76.0×56.5cm	
191	版画 AIWIP-16 の下絵	2011年	パステル・木炭、紙	86.0×62.5cm	
192	AIWIP-17	2011年	リトグラフ、紙	60.0×77.0cm	
193	版画 AIWIP-17 の下絵	2011年	木炭、紙	51.0×66.0cm	
194	AIWIP-18	2011年	リトグラフ、紙	95.0×67.0cm	
195	AIWIP-19	2011年	リトグラフ、紙	95.0×67.0cm	
196	版画 AIWIP-18 と 19 の下絵	2011年	パステル・木炭、紙	90.0×66.0cm	
198	版画 AIWIP-18 と 19 の下絵	2011年	パステル、紙	76.0×56.8cm	
199	版画 AIWIP-18 と 19 の下絵	2011年	パステル、紙	76.5×57.0cm	
200	版画 AIWIP-18 と 19 の下絵	2011年	パステル・木炭、紙	90.0×66.0cm	
201	AIWIP-21	2012年	リトグラフ、紙	65.4×48.2cm	
202	版画 AIWIP-21 の下絵	2012年	パステル、紙	66.0×51.0cm	
203	AIWIP-22	2012年	リトグラフ、紙	79.5×61.0cm	
204	版画 AIWIP-22 の下絵	2012年	パステル、紙	83.0×63.0cm	
206	AIWIP-23	2012年	リトグラフ、紙	65.0×51.0cm	
207	版画 AIWIP-23 の下絵	2012年	パステル、紙	66.0×51.0cm	
208	AIWIP-25	2012年	リトグラフ、紙	69.3×87.0cm	
209	版画 AIWIP-25 の下絵	2012年	木炭、紙	63.2×82.2cm	
210	AIWIP-26	2012年	リトグラフ、紙	20.1×38.0cm	
211	AIWIP-28	2012年	リトグラフ、紙	49.3×65.5cm	
212	版画 AIWIP-26 と 28 の下絵	2012年	パステル、紙	45.0×65.0cm	
213	版画 AIWIP-26 と 28 の下絵	2012年	パステル、紙	45.0×65.0cm	
214	AIWIP-27	2012年	リトグラフ、紙	73.0×56.3cm	
215	望まれる領域 I	2012年	油彩、カンヴァス	162.0×130.0cm	国立国際美術館蔵

■インポッシブル・アーキテクチャー もう一つの建築史

Impossible Architecture Another History of Architecture

■会期：2019年2月2日(土)～3月24日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

■監修：五十嵐太郎

■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

■協力：Estate of Madeline Gins / Reversible Destiny Foundation、JR 東日本大宮支社、FM NACK5

■観覧料：一般1200円(960円)、大高生960円(770円)
()は団体20名以上の料金

■入場者数：18,785人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4変形/デザイン：
刈谷悠三+角田奈央(neucitora)

■担当学芸員：平野 到、五味良子、富安玲子

■開催趣旨

建築の歴史を振り返ると、完成に至らなかった素晴らしい構想や、あえて提案に留めた刺激的なアイデアが数多く存在している。未来に向けて夢想した建築、技術的には可能であったにもかかわらず社会的な条件や制度によって実施できなかった建築、実現よりも既存の制度に対して批評精神を打ち出す点に主眼を置いた提案など、いわゆるアンビルト/未完の建築には、作者の夢や思考がより直接的に表現されている。

この展覧会は、20世紀以降の国外、国内のアンビルトの建築に焦点をあて、それらを仮に「インポッシブル・アーキテクチャー」と称した。ここでの「インポッシブル」という言葉は、単に建築構想がラディカルで無理難題であるがゆえの「不可能」を意味しない。言うまでもなく、不可能に眼を向ければ、同時に可能性の境界を問うことにも繋がる。建築の不可能性に焦点をあてることによって、逆説的にも建築における極限の可能性や豊富な潜在力が浮かび上がってくる—それこそがこの展覧会のねらいであった。

約40人の建築家・美術家による「インポッシブル・アーキテクチャー」を、図面、模型、関連資料などを通して読み解きながら、未だ見ぬ新たな建築の姿を展望した。

■展覧会カタログ

規格：26.0×21.3×1.7cm

発行：平凡社/デザイン：刈谷悠三+角田奈央(neucitora)

内容・構成：建哲「インポッシブル・アーキテクチャー—批評的オルタナティブとしての建築」/五十嵐太郎「建築の可能性と不可能性のあいだ」/菊地尊也[編]年表/菊地尊也「ユートピアの影絵たち—川喜田煉七郎《ウクライナ劇場設計競技案》の舞台機構について」/梅宮弘光「戦前期日本のモダニズム建築運動におけるアンビルト—夢想からリアルへ」/松隈洋「前川國男の戦前期のコンペ応募案をめぐって」/平野利樹「コンピュータ・グラフィックスとインポッシブル・アーキテクチャー」/前山裕司「ロシア・アヴァンギャルド概観、飛行をめぐって」/藤井素彦「岸田日出刀、あるいはつくりえない建築家」/中井康之「メタボリズムの誕生とアジアへの敷衍」/平野到「イヴ・クラインの《空気の建築》をめぐって」/図版と各プロジェクト解説/作家略歴/出品リスト/クレジット/展覧会情報

価格：2,916円(税込)



B2 ポスター

■関連事業

- ・クロストーク／2月11日(月・祝)／五十嵐太郎(東北大学教授)×建畠哲(当館館長)／講堂／参加者：195名
- ・レクチャー「インポッシブル・アーキテクチャーの起源と未来」／2月23日(土)／今村創平(千葉工業大学教授)／講堂／参加者：145名
- ・ミュージアム・コンサート①「音で通う カルチャー・クロスロード」／2月24日(日)／出演：佐藤通弘(津軽三味線)、吉見征樹(タブラ)／センターホール／参加者：60名
- ・ミュージアム・コンサート②「バイアス」／3月3日(日)／出演：jaywalker(Zoo-Zoo、RiE-men)／館内各所／参加者：250名
- ・担当スタッフによるギャラリー・トーク vol.01／2月16日(土)／平野到／参加者：65名
- ・担当スタッフによるギャラリー・トーク vol.02／3月9日(土)／平野到／参加者：80名
- ・スペシャル・ギャラリー・トーク：設計者が語る「ザ・ハブ・アーキテクト+設計JV《新国立競技場》」／3月13日(水)／杉浦盛基(日建設 構造設計部長)／参加者：60名

■広報記録

<新聞>

- ・「未完建築に焦点」『読売新聞』2019年1月18日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『さいたま中央よみうり』2019年1月25日
- ・「Impossible Architecture another history of Architecture」『Japan Times』2019年1月30日
- ・「未完の建築 模型や設計図」『読売新聞』2019年2月3日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『北海道新聞』2019年2月11日
- ・「新たな建築の姿展望」『埼玉新聞』2019年2月19日
- ・窪田直子「常識や社会へ挑戦 柔軟な建築」『日本経済新聞』2019年2月20日
- ・五味良子「構造とデザインを融合」『読売新聞』(埼玉版)2019年2月28日
- ・平野到「目的に応じ自在に改変」『読売新聞』(埼玉版)2019年3月1日
- ・富安玲子「装飾性を排した外観」『読売新聞』(埼玉版)2019年3月2日
- ・「新国立競技場など幻の建築物 190点紹介」『産経新聞』

- 2019年3月5日
- ・大西若人「『夢と幻の建築』 想像力を刺激」『朝日新聞』2019年3月5日
- ・永田晶子「未完の建築の可能性」『毎日新聞』2019年3月6日
- ・森田睦「『実現しなかった建築』展」『読売新聞』2019年3月14日
- ・黒沢綾子「磯崎新さんにプリツカー賞」『産経新聞』2019年3月17日
- ・告知：『読売新聞』2019年1月10日／『さいたま新聞』1月22日／『毎日新聞』1月25日、2月2日、2月8日、2月15日、3月8日／『朝日新聞』1月29日、2月19日、2月26日、3月5日、3月12日／『埼玉新聞』1月29日、2月24日、2月26日、3月5日、3月12日／『東京新聞』1月31日、2月14日、2月28日／『産経新聞』2月10日
- <雑誌、ミニコミ誌等>
- ・『建設通信新聞』2018年11月27日
- ・『藝術新潮』12月号、2018年11月24日
- ・『リログラフ』2018年12月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Club ozon』2019年1月1日
- ・「実現しない構想に見る建築の未来」『埼玉よみうり』2019年1月3日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『アコレおおみや』2019年1月7日
- ・『東京消防』2019年1月10日
- ・『美術の窓』1月号、2019年1月20日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『SPUR』3月号、2019年1月23日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『ぼど』2019年1月25日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『美術展びあ』2019年1月30日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『美連協ニュース』2月号、2019年1月31日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『エクラ』2019年2月1日
- ・「建てられなかった建築の魅力」『たまろぐ』2019年2月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『生け花龍生』2019年2月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『新美術新聞』2019年2月1日

- ・「実現しなかった建築たち」『ミセス』3月号、2019年2月7日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『埼玉往来』2019年2月15日
- ・『シミュレーター』の3展覧会『クイックジャパン』2019年2月27日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『VOGUE ジャパン』2019年2月28日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『月刊ブレーン』3月号、2019年3月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『住宅建築』2019年3月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『月刊武州路』2019年3月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『月刊MOE』2019年3月3日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」(告知)『定年時代』2019年3月5日
- ・山口優「インポッシブル・アーキテクチャー」『Mdn』2019年3月6日
- ・「“翔んだ” アンビルド・コレクション」『週刊新潮』2019年3月7日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『PEN』2019年3月15日
- ・沼辺信一「インポッシブル・アーキテクチャー～建築家たちの見果てぬ夢～」『商工ジャーナル 4月号』2019年4月
- ・児島やよい「ART」『ヴォーグ ジャパン』2019年4月
- ・高階秀爾「幻の建築・建築の幻」『アステイオン 90』2019年5月
- < WEB >
- ・『ShareArt』2018年12月17日
- ・『Hollbein』2018年12月18日
- ・『JDN』2018年12月25日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『アコレおおみや』2019年1月6日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Artagenda』2019年1月16日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Confort』2019年1月23日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Art It』2019年1月25日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『びあ』2019年1月29日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Houzz』2019年2月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『美術手帖』2019年2月3日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『casa brutus』2019年2月4日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『アコレおおみや』2019年2月7日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『ケイティコム』2019年2月12日
- ・村田真「インポッシブル・アーキテクチャー」『Artscape』2019年2月15日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Numero』2019年2月15日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『インターネットミュージアム』2019年2月19日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『ファッションプレス』2019年2月19日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャーを観にいかなクチャ」『MonoMaxweb』2019年3月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『美術展ナビ(あーとてらー とに〜)』2019年3月1日
- ・『日経アーキテクチュア』2019年3月1日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『Lula Japan』2019年3月2日
- ・富安玲子「インポッシブル・アーキテクチャー展」『ときの忘れもの』2019年3月2日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『web Time Out 東京』2019年3月6日
- ・「インポッシブル・アーキテクチャー」『シネフィル』2019年3月7日
- ・「Impossible Architecture」『Tokyo Art Beat』2019年3月15日
- < テレビ、ラジオ >
- ・「日曜美術館・アートシーン」NHK、2019年2月24日
- ・「ニュース545」2019年3月5日
- ・「アフター6ジャンクション なんでも来ないんすか?」TBS、2019年2月4日

■担当後記

◆本展は2016年から監修者の五十嵐太郎氏、研究協力者の菊地尊也氏とともに会合を重ね、アンビルトの建築プロジェクトの様々な事例を持ち寄るところから準備を開始した。事例は膨大な数に及び、その中にはアジ

ア、中近東、南米といった地域のプロジェクトも含まれていた。展覧会で紹介できるプロジェクトは物理的に限界があるため、時代範囲を20世紀以降(タトリン「第3インターナショナル記念塔」からザハ・ハディドの「新国立競技場」まで)に定め、扱う地域も日本と欧米を中心とすることになった。残念ながら展示では取り上げることができなかったプロジェクトは、図録の年表のなかに反映されている。紹介する範囲に関してもうひとつ議論になったのが、建築を専門としない美術家などによるプロジェクトを展覧会に含めるかどうかであった。巡回開催館のなかで様々な意見が交わされたが、通例の建築とは異なる彼らのアイデアは、ややもすると現実的になりがちな建築家の思考に対して批評性を発揮し得るという理由で、厳選しながら紹介することになった。

◆「インポッシブル・アーキテクチャー」という展覧会名についても記しておきたい。実現しなかった建築、実現を目指さなかった建築は、建築の文脈では「アンビルト」と称される場合が多く、磯崎新氏などは「アンビルト」に関する優れた批評を展開している。本展では、「アンビルト」をめぐる議論を踏まえながらも、あえて「インポッシブル・アーキテクチャー」という展覧会名を掲げることで、建築の可能性と不可能性の境界の境界を問い、未来に向けて建築の潜在力を掬い取ることをねらいとした。こういった趣旨を汲み取って、「インポッシブル」という単語に見え消し線を付すタイポグラフィを提案してくださったのは、本展のグラフィック・デザインを担当したネウシトラの刈谷悠三氏と角田奈央氏であった。

このデザインに関しては多くの反響があり、本展の広報において極めて重要な役割を果たしたと言える。その一方、実現を念頭においてプロジェクトを進めてきた建築関係者の中には、「インポッシブル/不可能」という言葉のネガティブな響きに違和感を覚える人も存在し、最終的には出品が叶わなかったプロジェクトもあった。(平野 到)

◆本展の準備段階における難所の一つが出品作品の選定であった。具体的な展覧会開催を見据えた関係者会議が開かれるようになってからの数年間はもちろん、私が出た開催年度に入ってから、様々なプロジェクトに対してその意義や影響力など多方面から検討が続いた。同時に「紹介するのは『案』』という本展ならではの事情から、それぞれのプロジェクト案を展示室に持ち込む際の「作品としての形式」をも考慮

しながら粘り強く進められ、最終的な出品作品が確定したのは実に開幕後のことである。発案者である建昌館長や監修の五十嵐氏をはじめ、開催館担当者らの高い見識を、幹事館となった当館の蓄積と剛腕で支えて実現に至る様は内部においても圧巻であり、話題を集めた出品作品も多かった。一方で、出品作品の選定の過程で、これも様々な事情で紹介を断念した事案も少なくなく、いつかまた別バージョンでの実現を期待している。(富安玲子)



会場風景：レム・コールハース／OMA《フランス国立図書館》、磯崎新《東京都新都庁舎計画》など



会場風景：ザハ・ハディド・アーキテツト+設計JV《新国立競技場》

■出品リスト

- ・図録に掲載されている作品のうち、埼玉会場では出品していないものがある。
 - ・寸法は cm 単位で、「縦×横」、「高さ×幅×奥行」で記した。
 - ・一部の作品を前期と後期で展示替えした。
- ☆前期展示 2019年2月2日(土)－2月24日(日)
★後期展示 2019年2月26日(火)－3月24日(日)

カジミール・マレーヴィチ Kazimir Malevich

—
1-1 ☆
シュプレマティズムの素描 (断片)
c.1914-15
鉛筆、紙
11.3 × 16.3
東京国立近代美術館蔵

1-2 ★
黒い正方形と白い管状の形態
1915
鉛筆、紙
11.2 × 16.4
東京国立近代美術館蔵

1-5
制作：東北大学五十嵐太郎研究室 (千葉大)
アルヒテクトン、模型
2018
スチレンボードほか
h21 × 59 × 59

1-6
「シュプレマティズムのアルヒテクトン」
カジミール・マレーヴィチ、『無対象の世界』
(バウハウス叢書 11, 1927)
復刻版：フロリアン・クッパパーベルク出版、1980
25.2 × 18
個人蔵

1-7
「フラインド・アーキテクチャー、1923」
『ABC 建築のために』シリーズ第2号 (編集：ハンネス・マイヤー、1926)
復刻版：ラーズ・ミュラー出版、1993
34 × 24.4
埼玉県立近代美術館蔵

ウラジーミル・タトリン Vladimir Tatlin

—
2-1
『第3 インターナショナル記念塔』
(教育人民委員会造形芸術部門、1920)
表紙と図面：ウラジーミル・タトリン
テキスト：ニコライ・ブーニン
複製展示
早稲田大学図書館蔵

2-2
制作：野口直人建築設計事務所
第3 インターナショナル記念塔、模型 (1:500)
2019
オーク材
h84 × 70 × 70

長倉威彦 Takehiko Nagakura

—
3-1
映像制作・監督：長倉威彦
CG:アンドレ・ザルジッキ、長倉威彦、ダン・ブリック、
マーク・シッチ
ウラジーミル・タトリン、第3 インターナショナル
記念塔
1998
CG映像 3分11秒
作家蔵

ブルーノ・タウト Bruno Taut

—
4-1
書籍『アルプス建築』(フォルクヴァング出版、
1919)
40 × 33.5
東京都市大学図書館 (蔵田周忠文庫) 蔵
©スライドショー (4-1, 2, 3)

4-2
書籍『宇宙建築師』(フォルクヴァング出版、1920)
23.2 × 19
東京都市大学図書館 (蔵田周忠文庫) 蔵

4-3
書籍『都市の解体』(フォルクヴァング出版、1920)
28 × 22
東京都市大学図書館 (蔵田周忠文庫) 蔵 (2冊共)

5-1 ☆
生駒山嶺小都市計画、遠望図、1933年12月
1933
墨、紙
56.8 × 106.8
大和文華館蔵

5-2 ☆
生駒山嶺小都市計画、配置図 (1:600)、1933年12月
1933
水彩、紙
75.1 × 116.7
大和文華館蔵

5-3 ★
生駒山嶺小都市計画、鳥瞰図、1933年12月
1933
水彩、紙
57.3 × 100.1
大和文華館蔵

瀧澤真弓 Mayumi Takizawa

—
6-1
制作監修：瀧澤真弓
山の家、模型
1986
石膏
h42 × 72 × 52
個人蔵

6-2
「山の家」『分離派建築会の作品 第二刊』
(岩波書店、1921)
26 × 18.7
東京都市大学図書館 (蔵田周忠文庫) 蔵

ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ Ludwig Mies van der Rohe

—
7-1
ベルリン、フリードリヒ通り駅の摩天楼のコンペ案
c.1922
写真など | 複製展示
写真：マルクス・ハウリック
画像提供：ベルリン、バウハウス・アーカイヴ

7-2
「摩天楼」『曙光』第4号 (編集：ブルーノ・タウト、
カール・ペーターズ出版、1922)
28.5 × 21.5
個人蔵

山口文象 (岡村蚊象) Bunzo Yamaguchi (Okamura)

—
8-1
「丘上の記念塔」『分離派建築会の作品 第三刊』
(岩波書店、1924)
個人蔵

8-2
制作：杉浦晋悟 (ニホンディスプレイ)、梅宮弘光 (神
戸大学大学院)、竹葉文 (名古屋市美術館)
丘上の記念塔、模型 (1:400)
2009
スチレンボード、ジェッソ
h22 × 54 × 60
梅宮弘光蔵

川喜田煉七郎 Renshichiro Kawakita

—
9-1
山田耕柁「音楽の法悦境」『詩と音楽』第1巻第4号
(アルス、1922年12月)
25.8 × 18.5
個人蔵

9-2
霊楽堂の草案、立面図 (1:400)
1924
インク、紙
50.6 × 67.8
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代
音楽館蔵

9-3
霊楽堂の草案、第1階平面図 (1:400)
1924
インク、紙
51 × 68
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代
音楽館蔵

9-4
霊楽堂の草案、ドローイング
1924
インク、着色、紙
68.5 × 69
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代
音楽館蔵

9-5
霊楽堂 (ある音楽礼拝堂)、オウデイトリウム
1926
コンテ、白チョーク、紙
63.5 × 94
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代
音楽館蔵

9-6
壺楽堂 (ある音楽礼拝堂)、オウデイトリユムの天井全面
1926
コンテ、紙
64 × 94
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代音楽館蔵

9-7
壺楽堂 (ある音楽礼拝堂)、祈祷室、壁面の一部
1926
コンテ、紙
63.5 × 94.5
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代音楽館蔵

9-8
壺楽堂 (ある音楽礼拝堂)、喫煙室を兼ねた祈祷室
1926
コンテ、紙、ほか
64 × 94
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代音楽館蔵

9-9
壺楽堂 (ある音楽礼拝堂)、附属小劇場、フойエーの一
部
1926
コンテ、紙、ほか
63.5 × 94
明治学院大学図書館付属 遠山一行記念日本近代音楽館蔵

9-10
制作: たかいちとしふみ(おさる工房)、梅宮弘光(神戸大学大学院)
壺楽堂 (ある音楽礼拝堂)、模型
2009
石膏
13 × 72 × 60
梅宮弘光蔵

10-1
「ハリコフ国立劇場の応募案」『新建築』
(新建築社、1932年2月号、p.69)
30.6 × 22.5
個人蔵

10-2
制作: 諏佐遙也 (ZOUZOU MODEL)
ウクライナ劇場国際設計競技応募案、模型 (1:300)
2018
ABS、アクリル、真鍮
h30 × 44 × 77
梅宮弘光蔵

10-4
制作: 東北大学五十嵐太郎研究室 (福田晴也、高野、奥山晃平、ミルザデリア・デバナステイヤ、藤間優実、吉田宗一郎、菊池聡太郎、石津光、加川大樹、福岡咲紀、一色智仁、菊地尊也 [監修])
ウクライナ劇場国際設計競技応募案、舞台のための部分模型 (1:200、1:800)
2018
紙、ジェッソ

前川國男
Kunio Maekawa
—
11-1
監修: 松隈洋 (京都工芸繊維大学教授)、
制作: 京都工芸繊維大学松隈洋研究室 3 回生 (大友沙弥、田中ふみ、西口友晃、萩尾涼太、水野まりや)
東京帝室博物館建築設計図案懸賞募集 (前川國男案)
* 原図は焼失 再現配置図 (1:500)
2018 (Original: 1931)
インクジェットプリント、手彩色、紙
Image size: 146.5 × 85.5

11-2
監修: 松隈洋 (京都工芸繊維大学教授)、
制作: 京都工芸繊維大学松隈洋研究室 3 回生 (大友沙弥、田中ふみ、西口友晃、萩尾涼太、水野まりや)
東京帝室博物館建築設計図案懸賞募集 (前川國男案)、模型 (1:200)
2018
アクリル、スチレンボード
h16 (最大) × 60 × 109.4

ヤーコフ・チェルニホフ
Yakov Chernikhov

—
12-1
『建築ファンタジー 101 のカラー・コンポジション、101 の建築小図』
(メジドゥナロードヤナ・クーニガ [国際出版]、1933)
30.6 × 21.8
個人蔵
©スライドショー 8 分 33 秒

ジュゼッペ・テラーニ
Giuseppe Terragni

—
13-1
制作: 千葉工業大学今村創平研究室 (今村創平、小林美砂、中村篤志、根本飛鳥、武藤俊、村岡宗之、呉玉涵、阿部楓、菊野優、小林政晴、佐藤和、高岸大智、滝伶華、野中康、樋村彩乃、藤吉諒馬、佐々木悠、木村旭)
ダンテウム、模型 (1:100)
2018
シナベニヤ、アクリル
h20.5 × 84.1 × 59.4

コンスタン
(コンスタン・ニーヴェンホイス)
Constant (Constant Nieuwenhuys)

—
14-1
no.1-5 ☆
no.6-10 ★
ポートフォリオ『ニュー・バビロン』
1963
テキスト: ジーモン・ヴァインケノーグ
10 点組リトグラフ、紙
40 × 76 each
コンスタン財団蔵

14-2
ニュー・バビロンのセクターの眺望
1971
フォトモンタージュに手彩色 | 複製展示
写真: ヴィクトール・E・ニーヴェンホイス | トム・ハートセン
デン・ハーグ美術館蔵

14-3
『ニュー・バビロン・インフォメーション』1号
(マーストリヒトでのニュー・バビロン展用、アーティシヨック財団編、1965年7月)
52.8 × 35
コンスタン財団蔵

14-4
『ニュー・バビロン・インフォメーション』2号
(デン・ハーグ美術館コンスタン回顧展用、「アーキテクチャー」編、1965年10月)
52.8 × 35
コンスタン財団蔵

14-5
『ニュー・バビロン・インフォメーション』3号
(クルンのルドルフ・ツヴィルナー画廊でのコンスタン展用、ドイツ語版、「アーキテクチャー」編、1966年1月)
52.8 × 35
コンスタン財団蔵

14-6
『ニュー・バビロン・インフォメーション』4号
(第33回ヴェネツィア・ビエンナーレのオランダ・パビリオン用特別版、国際版、1966年)
52.8 × 70
コンスタン財団蔵

ヨナ・フリードマン
Yona Friedman

—
15-1
パイオソフィア; ザ・グローバル・インフラストラクチャー
2017
表紙を除き 10 枚 | 複製展示
協力: ヨナ・フリードマン/ドニーズ&ヨナ・フリードマン寄附基金

15-2
可動建築/空中都市
1956-
パネル 9 点 | 複製展示
協力: ヨナ・フリードマン/ドニーズ&ヨナ・フリードマン寄附基金

岡本太郎
Taro Okamoto

—
16-1
僕らの東京都設計図/いこい島拡太図
石川允、糸川英夫、安部公房、岡本太郎、丹下健三、勅使河原蒼風
「ぼくらの都市計画」『総合』
(東洋経済新報社、1957年6月号)
複製展示

ハンス・ホライン
Hans Hollein

—
17-1
プロジェクト: ゴールデン・スマート
1968
フォトコラージュ、厚紙
Image: 16.5 × 25.4
メンヒェングラートバッハ市アプタイベルク美術館蔵

17-2
超高層建築
1958
鉛筆、印刷物
28.2 × 19
メンヒェングラートバッハ市アプタイベルク美術館蔵

黒川紀章

Kisho Kurokawa

18-1 ★
農村都市計画、スケッチ (住宅単位、断面)
1960
ペン、水彩、紙、
トレーシングペーパー
21 × 29.7
森アートコレクション、東京

18-2
農村都市計画、模型
1995
木
h10.0 × 184.0 × 184.0
森アートコレクション、東京

18-3 ☆
農村都市計画、スケッチ
1960
インク、紙、トレーシングペーパー
21 × 29.7
森アートコレクション、東京

19-1
東京計画 1961 - Helix 計画、模型
1961
木、アルミニウム
h178.5 × 180 × 150
制作: 黒川紀章、植野石膏模型製作所
森アートコレクション、東京

19-2 ★
東京計画 1961 - Helix 計画、ドローイング
c.1961
鉛筆、色鉛筆 (黒)、インク、トレーシングペーパー
20 × 21.3
森アートコレクション、東京

19-3 ☆
東京計画 1961 - Helix 計画、ドローイング
c.1961
インク、鉛筆、トレーシングペーパー
25.5 × 38.6
森アートコレクション、東京

19-4 ★
東京計画 1961 - Helix 計画、ドローイング
c.1961
ペン (インク)、トレーシングペーパー
39.9 × 40.2
森アートコレクション、東京

19-5 ★
東京計画 1961 - Helix 計画、ドローイング
c.1961
ペン、トレーシングペーパー
38.7 × 48.7
森アートコレクション、東京

19-6 ☆
東京計画 1961 - Helix 計画、ドローイング
c.1961
ボールペン、紙
12.8 × 18.2
森アートコレクション、東京

ピエール=ジャン・ジルー
Pierre-Jean Giloux

20-1
見えない都市#パート1 #メタボリズム
2015
映像
11分
映像提供: ピエール=ジャン・ジルー

菊竹清訓

Kiyonori Kikutake

21-1
国立京都国際会館設計競技案、応募時の模型写真
1963
複製展示
撮影: 小山孝 (2点共)
画像提供: 早稲田大学古谷誠章研究室

21-2
制作: 早稲田大学古谷誠章研究室 (齋藤信吾、山田浩史、國分足人、吉田遼太、及川輝、長佑希、田村正、稲葉秀行、清水岳、進藤正人、武井光)
国立京都国際会館設計競技案、模型 (1:100)
2011
木、アクリル
h43.5 × 190 × 100

21-3
国立京都国際会館設計競技案、断面図 (1:200)
1963
鉛筆、トレーシングペーパー
80.5 × 117.3
株式会社情報建築蔵

21-4
国立京都国際会館設計競技案、断面詳細図 (1:50)
1963
鉛筆、トレーシングペーパー
81.3 × 111.7
株式会社情報建築蔵

21-5
『国立国際会館設計競技応募作品集』
1964
31 × 23.4
とんかつ文庫蔵

22-1
海上都市 1963、模型
1963
アクリル、木
h5 × 103 × 93
株式会社情報建築蔵

22-2
海上都市 1963、模型写真
1980s
模型制作: 植野石膏模型製作所
画像提供: 早稲田大学古谷誠章研究室
模型寸法: h88.5 × 62 × 62

22-3
《海上計画 1963》の原型になったスケッチ
鉛筆、トレーシングペーパー
42.2 × 23.4
株式会社情報建築蔵 | 国立近現代建築資料館協力

22-4
海上都市 1963
コンテ、トレーシングペーパー
28 × 19.3
株式会社情報建築蔵 | 国立近現代建築資料館協力

22-5
海上都市 1963、住居ユニット側面・断面・平面図
1963
インク、トレーシングペーパー
43.5 × 31
株式会社情報建築蔵 | 国立近現代建築資料館協力

23-1
菊竹清訓、川添登、大高正人、楳文彦、黒川紀章、粟津潔 [デザイン]
『メタボリズム 1960 - 都市への提案』
(美術出版社、1960)
複製版: 森美術館、2011
21 × 20.5
埼玉県立近代美術館蔵

アーキグラム Archigram

24-2
ロン・ヘロン/アーキグラム
ウォーキング・シティーニューヨーク
1964
彩色カラーージュ | 複製展示
画像提供: ロン・ヘロン・アーカイヴ

長倉威彦

Takehiko Nagakura

25-1
マイケル・ウェブ
ドライブ・イン・ハウジング (1968年)
1999
CG映像
2分6秒
映像制作・監督: 長倉威彦
CG: マリオス・クリストドリデス、長倉威彦
作家蔵

セドリック・プライス Cedric Price

26-1
ファン・パレス、内観透視図
1964
黒と白のインク、ゼラチン・シルバー・プリント
12.7 × 24.8
カナダ建築センター

26-2
ファン・パレス、内観透視図
1964
黒と白のインク、複写写真
11.1 × 24.3
撮影: デ・パー・ゴールウェイ
カナダ建築センター蔵

26-3
ファン・パレス、断面ダイアグラム
1963
インク、グラフィイト、スクリーントーン、色鉛筆、
トレーシングペーパー(ほか)
38 × 69.5
カナダ建築センター蔵

26-4
ファン・パレス、基準階平面図
c.1964
インク、グラフィイト、スクリーントーン、トレーシ
ングペーパー(ほか)
37.3 × 67.9
カナダ建築センター蔵

26-5
ファン・パレス、アクソメトリック図
1964
インク、スクリーントーン、グラフィイト、色鉛筆、
トレーシングペーパー(ほか)
32.1 × 32
カナダ建築センター蔵

26-6
ファン・パレス、基準短手断面図
1964年4月21日
インク、スクリーントーン、グラフィイト、トレーシ
ングペーパー(ほか)
38.1 × 75.1
カナダ建築センター蔵

26-7
ファン・パレス、内観透視図
c.1964
色鉛筆、インク、スタンプ、複写した紙
49.6 × 81.3
カナダ建築センター蔵

26-8
ファン・パレス、
ヘリコプターでの到着
c.1964
ゼラチン・シルバー・プリントほか
102 × 122
カナダ建築センター蔵

ジョン・ヘイダック
John Hejduk

—
27-1
ダイヤモンド・ハウスの素描
c.1967-74
コラーージュ、インク、グラフィイトほか
51 × 76
カナダ建築センター蔵

27-2
ダイヤモンド・ハウス B、平面図
1963-67
グラフィイト、トレーシングペーパー
72 × 93
カナダ建築センター蔵

27-3
ダイヤモンド・ハウス B、平面図
1963-67
グラフィイト、トレーシングペーパー
73 × 71
カナダ建築センター蔵

27-4
ダイヤモンド・ハウス B、平面図
1963-67
グラフィイト、インク、厚紙
50.9 × 76.3
カナダ建築センター蔵

27-5
ダイヤモンド・ハウス B、平面図
1963-67
グラフィイト、トレーシングペーパー
72 × 93
カナダ建築センター蔵

27-6
ダイヤモンド・ハウス B、アクソノメトリック図
1963-67
層状に重ねた色付き陽画シート、インク、厚紙
77 × 51
カナダ建築センター蔵

27-7
制作：早稲田大学古谷誠章・藤井由理研究室（斎藤信吾、青木陸、高橋まり、大谷美帆、廣西航多、鄭彦愷、頼凡伊、池欣芮、杜達、真木友哉、風間健、荒川怜音名、伊藤丈治、小田切寛樹、徳田華、輪嶋優一）
ダイヤモンド・ハウス B、模型 (1:75)
2019
アクリル、塩ビ板、スタイロフォーム
h17.51 × 27.3 × 27.3

27-8
制作：早稲田大学古谷誠章・藤井由理研究室（斎藤信吾、青木陸、高橋まり、大谷美帆、廣西航多、鄭彦愷、頼凡伊、池欣芮、杜達、真木友哉、風間健、荒川怜音名、伊藤丈治、小田切寛樹、徳田華、輪嶋優一）
ダイヤモンド・ハウス B、アクソノメトリック、レリーフ (1:75)
2019
アクリル
91 × 91

スーパースタジオ
Superstudio

—
28-1
理性の王国への旅
1968-69
シルクスクリーン、紙
68.5 × 86.5
個人蔵

28-2
建築のヒストグラム
1969
シルクスクリーン、紙
68.5 × 86.5
個人蔵

28-3
ナイアガラ、あるいはハリフレクティッド・アーキテクチャー
1970
オフセット印刷、紙
69.3 × 86.7
個人蔵

28-4
『スーパースタジオ & ラディカルス』
(『ジャパン・インテリアデザイン別冊、インテリア出版、1982年11月])
29.7 × 22
個人蔵

村田豊
Yutaka Murata

—
29-1
ボンビドゥー・センター競技設計案、概念図
1971
インク、紙
42 × 59.5
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

29-2
ボンビドゥー・センター競技設計案、概念図
1971
インク、紙
42 × 59.5
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

29-3
ボンビドゥー・センター競技設計案、断面図
1971
インク、紙
163.1 × 86.4
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

29-4
ボンビドゥー・センター競技設計案 | 配置図 (1:500)、断面図 (1:500)、平面図 (1:200)
1971
インク、紙
163.1 × 86.4
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

29-5
ボンビドゥー・センター競技設計案、アクソノメトリック図 (1:500)
1971
インク、紙
178 × 86.5
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-1
ソビエト青少年スポーツ施設、模型写真
c.1972
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力
©スライドショー 2分30秒

30-2
ソビエト青少年スポーツ施設、ソ連邦気象記録
1972
インク、透明シート
42 × 59.5
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-3
ソビエト青少年スポーツ施設、
空気構造 テニスコート図面 (1:200)
1972
インク、透明シート
41.5 × 82.1
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-4
ソビエト青少年スポーツ施設、
ボーリング場図面 (1:500)
1972
インク、透明シート
41 × 58.8
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-5
ソビエト青少年スポーツ施設、
体育館図面 (1:500)
1972
インク、透明シート
42.4 × 104.2
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-6
ソビエト青少年スポーツ施設、
水泳場図面 (1:500)
1972
インク、透明シート
43.2 × 82.3
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-7
ソビエト青少年スポーツ施設、
水泳場+アイススケート場 (1:500)
1972
インク、透明シート
42.2 × 117.2
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

30-8
ソビエト青少年スポーツ施設、
空気構造レクリエーション公園計画 (1:2000)
1972
インク、透明シート
42.5 × 105.4
村田あが蔵 | 国立近現代建築資料館協力

エットレ・ソットサス
Ettore Sottsass

—
31-1 ☆
祝祭としての惑星：室内楽を聴くための筏
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
53 × 41.6
埼玉県立近代美術館蔵

31-2 ☆
祝祭としての惑星：ワルツ、タンゴ、ロック、チャチャの音楽を提供する巨大な自動販売機
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
56.3 × 41.6
埼玉県立近代美術館蔵

31-3 ☆
祝祭としての惑星：星をみるためのスタジアム
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
54.5 × 42
埼玉県立近代美術館蔵

31-4 ★
祝祭としての惑星：香、LSD、マリファナ、阿片、笑気ガスを提供する自動販売機
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
49.8 × 41.5
埼玉県立近代美術館蔵

31-5 ★
祝祭としての惑星：巨大コンサートを開くためのスタジアム
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
53.5 × 41.5
埼玉県立近代美術館蔵

31-6 ★
祝祭としての惑星：瞑想にふけるための屋上
1972
リトグラフ、紙 | 原画：タイガー立石
56.5 × 46.3
埼玉県立近代美術館蔵

31-7
「祝祭としての惑星：室内楽を聴くための筏」
『カザベラ』365号表紙、1972年5月号
31 × 24.5
埼玉県立近代美術館蔵

荒川修作+マドリン・ギンズ Shusaku Arakawa and Madeline Gins

32-1
問われているプロセス/天命反転の橋
1973-89
ミクスト・メディア
Model : h178 × 1308 × 61
raised floor plan : h27.5 × 1308 × 165
エステート・マドリン・ギンズ蔵

32-2
問われているプロセス/天命反転の橋 (展示風景、ウィリアムズカレッジ、マサチューセッツ、1990年)
1990
写真 | 複製展示
撮影：ニコラス・ホイットマン
画像提供：エステート・マドリン・ギンズ

32-3
左右上下反転ホール 習作
《問われているプロセス/天命反転の橋》の部分
1980-90
写真 | 複製展示
撮影：デニス・カウリー
画像提供：エステート・マドリン・ギンズ

32-4
問われているプロセス/天命反転の橋 (プラン)
1989 / 2018
グラフィート、紙 | 複製展示
画像提供：エステート・マドリン・ギンズ

32-5
まなざしのつながり
《問われているプロセス/天命反転の橋》の習作)
1978
グラフィート、紙
61 × 76
エステート・マドリン・ギンズ蔵

32-6
光の中で肉体的に推しはかること/共同で見つめること
の奥で/新しい失われた環
《問われているプロセス/天命反転の橋》の部分)
1974-75
グラフィート、紙
61 × 91.5
エステート・マドリン・ギンズ蔵

32-7
みどりの街 / 長寿のテーマパーク (仮称) 2002
2002
CG、ターボリン地
150 × 223.7
エステート・マドリン・ギンズ蔵

ダニエル・リベスキンド Daniel Libeskind

—
33-1
マイクロメガス : 終末空間の建築
表紙、庭、時の断片、漏出、小宇宙、北極の花、穴の法則、ダンス・サウンド、マルドロールの方程式、鉛直水平線、夢の微積分
1979
10点組+タイトルページ
手刷りシルクスクリーン、インク、紙
92 × 66 / 66 × 92
リベスキンド・スタジオ蔵

ジョン・ヘイダック John Hejduk

34-1
犠牲者たち
1984
ペン、インク、黄色の罫線の入った紙
27.7 × 21.4
カナダ建築センター

34-2
ホテル (ランカスター/ハノーバーの仮面劇)
1980-82
インク、淡彩、色鉛筆、紙
28.5 × 31.9
カナダ建築センター

34-3
死神の家 (ランカスター/ハノーバーの仮面劇)
1980-82
インク、淡彩、紙
31.4 × 27.7
カナダ建築センター

34-4
プレゼンテーションのための素描
(ランカスター/ハノーバーの仮面劇)
1980-82
グラフィート、色鉛筆、紙
89 × 149.9
カナダ建築センター

磯崎 新 Arata Isozaki

—
35-1
東京都新都庁舎計画、南北断面図
1986
シルクスクリーン、紙
58.5 × 115
磯崎新アトリエ蔵

35
東京都新都庁舎計画
1986
シルクスクリーン、紙
磯崎新アトリエ蔵

35-3
東京都新都庁舎計画、天・地・人
の間
1986
シルクスクリーン、紙
60 × 40
磯崎新アトリエ蔵

35-4
東京都新都庁舎計画、断面模型 (1:200)
1991
公益財団法人福岡文化財団蔵 | 大分市美術館寄託

35-5
東京都新都庁舎計画、関連スケッチ
1985-86
鉛筆、トレーシングペーパー
46 × 47.5
磯崎新アトリエ蔵

35-6
東京都新都庁舎計画、関連スケッチ
1985-86
木炭、トレーシングペーパー
46 × 71
磯崎新アトリエ蔵

35-7
東京都新都庁舎計画、コンピュータ・グラフィックス
CG: 1986、プリント: 1991
インクジェットプリント、紙
58 × 76.5
磯崎新アトリエ蔵

35-8
東京都新都庁舎計画、コンピュータ・グラフィックス
CG: 1986、プリント: 1991
インクジェットプリント、紙
イメージサイズ: 58 × 76.5
磯崎新アトリエ蔵

35-9
東京都新都庁舎計画、構想メモ
1985-86
インク、紙
28.2 × 20.9
磯崎新アトリエ蔵

35-10
東京都新都庁舎計画、構想メモ
1985-86
インク、紙
28.2 × 20.9
磯崎新アトリエ蔵

35-11
東京都新都庁舎計画、構想メモ
1985-86
インク、紙
28.2 × 20.9
磯崎新アトリエ蔵

35-12
東京都新都庁舎計画、構想メモ
1985-86
インク、紙
28.2 × 20.9
磯崎新アトリエ蔵

35-13
東京都新都庁舎計画、構想メモ
1985-86
インク、紙
28.2 × 20.9
磯崎新アトリエ蔵

安藤忠雄 Tadao Ando

—
36-1
中之島プロジェクトII-アーバンエッグ2 (計画案)、公会堂、断面図
1988
シルクスクリーン、鉛筆、紙
105 × 175
ギャラリー ときの忘れもの蔵

36-2
中之島プロジェクトII-アーバンエッグ 1 (計画案)、
公会堂、平面図
1988
シルクスクリーン、鉛筆、紙
105 × 175
ギャラリー ときの忘れもの蔵

レム・コールハース / OMA
Rem Koolhaas / OMA

—
37-1
フランス国立図書館、立面図
1989
画像提供: OMA

37-2
フランス国立図書館、断面図 3
1989
画像提供: OMA

37-3
フランス国立図書館、断面図 4
1989
画像提供: OMA

37-4
フランス国立図書館、7階平面図
1989
画像提供: OMA

37-5
フランス国立図書館、6階平面図
1989
画像提供: OMA

37-6
フランス国立図書館、地下3階平面図
1989
画像提供: OMA

37-7
フランス国立図書館、模型 (1:100)
1989
石膏、ほか
h150 × 75 × 88
株式会社大林組蔵

石上純也
Junya Ishigami

—
38-1-a
t-project、模型
h56 × 70 × 38.5
石上純也建築設計事務所蔵

38-1-b
t-project、スケッチ
CG 画像など
90 × 90
石上純也建築設計事務所蔵

38-2
park in a building、模型
h40 × 105 × 95
石上純也建築設計事務所蔵

38-5
house of wind and rain、コンセプト模型
h98 × 35 × 25
石上純也建築設計事務所蔵

38-6-a
group home、模型
h9 × 68 × 74.5
石上純也建築設計事務所蔵

38-6-b
group home、スケッチ
54 × 77 (3点共)
石上純也建築設計事務所蔵

藤本壮介
Sou Fujimoto

—
39-1
ベトンハラ・ウォーターフロントセンター設計競技 1
等案、周辺図
2012
CG 画像
画像提供: 藤本壮介建築設計事務所

39-2
ベトンハラ・ウォーターフロントセンター設計競技 1
等案、完成予想図
2012
CG 画像
画像提供: 藤本壮介建築設計事務所

39-3
ベトンハラ・ウォーターフロントセンター設計競技 1
等案、内観図
2012
CG 画像
画像提供: 藤本壮介建築設計事務所

39-4
ベトンハラ・ウォーターフロントセンター設計競技 1
等案、内観図
2012
CG 画像
画像提供: 藤本壮介建築設計事務所

39-5
ベトンハラ・ウォーターフロントセンター設計競技 1
等案、模型 (1:200)
スチレン・ボード、スチレン・ペーパー、プラスチック板、プラスチック棒、ドライフラワー、発泡スチロールほか
h40 × 135 × 100
藤本壮介建築設計事務所蔵

ザハ・ハディド・アーキテクト+設計JV
(日建設計、梓設計、日本設計、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン設計共同体)
Zaha Hadid Architects + Architects JV
(Nikken Sekkei, Azusa Sekkei, Nihon Sekkei, and Ove Arup & Partners Japan)

—
40-1
新国立競技場、イメージ・パース
CG 画像
画像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト、
レンダリング: メタノイア

40-2
新国立競技場、歩廊
CG 画像
画像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト、
レンダリング: メタノイア

40-3
新国立競技場、イメージ・パース
CG 画像
画像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト、
レンダリング: メタノイア

40-4
新国立競技場、断面図
CG 画像
画像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト、
レンダリング: メタノイア

40-5
新国立競技場、イメージ・パース
CG 画像
画像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト、
レンダリング: メタノイア

40-6
新国立競技場、キールアーチ標準詳細図
2015
図面提供: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体)
協力: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、オーヴ・
アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン設計共同体)

40-7
新国立競技場、下・南北断面図 (キールアーチタイ
部分)、中・南北断面図、上・東西断面図
2015
図面提供: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体)

40-8-a
新国立競技場 キールアーチジオメトリ定義図
2015
図面提供: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体)

40-8-b
新国立競技場 クロスタジオメトリ定義図
2015
図面提供: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体)

40-9
構造用風洞実験模型、高さ75mのプラン (1:300)

40-10
構造用風洞実験模型、高さ70mのプラン (1:300)
/周辺模型
協力: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、オーヴ・
アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン設計共同体)

40-12-a
新国立競技場
CG 映像
4分20秒
映像提供: ザハ・ハディド・アーキテクト

40-12-b
新国立競技場
CG 映像 BIM & コンピューターショナルデザイン/開
閉式遮音装置/避難シミュレーション/屋根施工計
画
2分45秒
映像提供: 設計JV (日建設計、梓設計、日本設計、
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体)

マーク・フォスター・ゲージ
Mark Foster Gage

—
41-1
ヘルシンキ・グッゲンハイム美術館
2014
CG 画像 / CG 映像 1分44秒
映像提供: マーク・フォスター・ゲージ・アーキテ
クト

42-1
西57丁目のタワー
2015
CG 画像 / CG 映像 2分
映像提供: マーク・フォスター・ゲージ・アーキテ
クト

会田誠

Makoto Aida

—

43-1
シン日本橋
2018-2019
クレヨン、アクリル絵具、紙
140 × 179.7
作家蔵

43-2
東京都庁はこうだった方が良かったのでは？の図
2018
鉛筆、色鉛筆、紙
40.2 × 29.5
個人蔵

山口晃

Yamaguchi Akira

—

44-1
新東都名所 東海道中「日本橋 改」
2012
木版画（手摺り）
39.2 × 26.9
制作：アダチ版画研究所
ミヅマアートギャラリー蔵

44-2
都庁本案圖
2018
油彩、水彩、墨、カンヴァス
116.7 × 91
個人蔵

参考出品

- ・制作：千葉工業大学今村創平研究室（今村創平、呉玉涵、中村篤志、根本飛鳥、武藤俊、小林美砂、村岡宗之）
ジュゼッペ・テラーニ「ダンテウム」、CG 映像
2分50秒
2018
- ・ヨナ・フリードマン「モバイル・アーバニズム」
コンスタン「ニュー・バビロン」
『今日の建築』誌 102号
1962年6-7月
今日の建築（パリ、フランス）
個人蔵
- ・ハンス・ホライン「航空母艦都市」1964
図録『シカゴのホライン』展（1969年6月22～28日）
リチャード・フェイゲン・ギャラリー（シカゴ、アメリカ合衆国）
個人蔵
- ・ハンス・ホライン「あらゆるものが建築である」
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1970年2月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵
- ・アーキグラム「進行中のインスタントシティ」
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1970年11月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵
- ・アーキグラム「リビング・ボッド」
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1966年11月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵

- ・アーキグラム特集
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1965年11月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵
- ・アーキグラム「コントロール・アンド・チョイス
リビング」
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1967年10月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵
- ・アーキグラム「アーキグラム 1970-71」
『アーキテクチュラル・デザイン』誌
1971年8月
スタンダード・カタログ社（ロンドン、イギリス）
千葉工業大学今村創平研究室蔵
- ・ザハ・ハデド・アーキテツツ+設計JV（日建設計、
梓設計、日本設計、オーヴ・アラップ・アンド・パ
ートナース・ジャパン 設計共同体）「新国立競技
場」、実測設計図書・他
提供：設計JV（日建設計、梓設計、日本設計、オ
ーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン 設
計共同体）
2015
- ・ザハ・ハデド・アーキテツツ+設計 JV（日建設計、
梓設計、日本設計、オーヴ・アラップ・アンド・
パートナーズ・ジャパン 設計共同体）「新国立競
技場」各部詳細
模型①～④（1:100）
協力：設計 JV（日建設計、梓設計、日本設計、オ
ーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン
設計共同体）

■ MOMASコレクション

MOMASコレクション（埼玉県立近代美術館常設展）では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を4つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるよう構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示し、企画性を高めている。このような姿勢を明確に提示するため、平成20年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMASコレクション」という名称を用いている。

平成30年度は展示の内容や規模にあわせて、各回を2～4コーナーで構成した。昨年度から継続して「セレクトション」のコーナーを毎回設け、西洋の近代美術の主要作品に日本の近代絵画を交え、コレクションのエッセンスを紹介した。第4期の「セレクトション」では新規に収蔵したポール・シニャックの《アニエールの河岸》をお披露目し、印象派や点描技法に関わる所蔵作品と関連づけて展示を行ったことは特筆すべきであろう。

学芸員の調査・研究を基にした企画性の高い展示としては、第2期の「吉田克朗:プランと実践」、第3期の「激動/変貌—1940-50年代の絵画」、「特集:小茂田青樹」、「光—線|空—間」、第4期の「瑛九と光春—イメージの版/層」などが挙げられる。また、第4期では、瑛九の《田園》（特別出品・加藤南枝氏蔵）を暗室に展示し、見る人が光量を調整できる「特別展示:瑛九の部屋」を開催し、好評を博した。

なお、会期中の5月16日、10月24日には、子育て中の家族を応援するファミリー鑑賞会を開催し、多くの方にご参加いただいた。

■ MOMASコレクション [I]

■会期: 2018年4月21日(土)～7月8日(日)

■主催: 埼玉県立近代美術館

■協力: JR 東日本大宮支社

■入場者数: 9,426人

■広報印刷物: ポスター B1・B2 / デザイン: 川村格夫

■担当学芸員: 渋谷 拓、鳴原 悠



B1・B2 ポスター

■展示室A (1階)

《セレクトション: シャガールとかフジタとか》

人気の高いマルク・シャガールやレオナルド・フジタの作品を中心に西洋・日本の近代絵画を紹介した。

作者名	作品名	制作年
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920
熊谷守一	ケシ	1956
斎藤豊作	フランス風景 I	1910
倉田白羊	房州風景	1918
森田恒友	丘	1911
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
田中保	窓辺の裸婦	1920-1940
マルク・シャガール	二つの花束	1925
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
小林真二	庭	1931
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
長谷川潔	二つのアネモネ	1934
駒井哲郎	庭の一隅	1958
山本容子	麦の穂〈静物画〉	2001-2004
山本容子	アブ〈静物画〉	2001-2004
山本容子	ハチ〈静物画〉	2001-2004
山本容子	クマバチ〈静物画〉	2001-2004
山本容子	笹の葉〈静物画〉	2001-2004
山本容子	コバンソウ〈静物画〉	2001-2004
山本容子	ススキ〈静物画〉	2001-2004
山本容子	ハモニカ〈静物画〉	2001-2004

《さいきんのたまもの》

近年、新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
木内克	トルソ	1950
渡邊武夫	南仏カミアニュ＝シュル＝メール	1992 頃
斎藤三郎	秋の華	1967
ヨーゼフ・ボイス	プリント1、プリント2	1971
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
ヨーゼフ・ボイス	氷河、スポンジ、死の床	1979
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
ピエール・アレシンスキー	プレートVI：ポートフォリオ「パピエ・トレア」より	1978
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
アンディ・ウォーホル	KIKU 1	1983
	※前期展示	5/22～6/10
アンディ・ウォーホル	KIKU 2	1983
	※前期展示	5/22～6/10
アンディ・ウォーホル	KIKU 3	1983
	※後期展示	6/12～7/8
川村親光	奥武蔵 鎌北湖早春	1995 頃
クレス・オルデンバーグ	テムズ・ボールとロンドン上空の舌状雲	1979
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
寺井力三郎	武甲山四月	1995 頃
ジム・ダイン	赤いバンダナ	1974
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
清水晃	焔・理髪店	1969
清水晃	焔・ホテル	1969
清水晃	焔・胸	1970
清水晃	漆黒から	1983
清水晃	漆黒から	1990
ヤン・フォス	風の便り	1996
デイヴィッド・ホックニー	テーブルのヘンリー	1976
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
デニス・オッペンハイム	コバルト・ベクトル	1979
	※寄託作品	山口秀樹氏蔵
吉野辰海	双頭犬	1987
吉野辰海	水犬	1988
日和崎尊夫	KALPA-REQUIEM	1987
黒田克正	交錯する時	1998
出店久夫	《鏡カラクリ90 - VALNICAR》の原版	1990
出店久夫	私風景'98 - DNA	1998
出店久夫	《私風景'98 - DNA》の原版	1998
出店久夫	私風景'01 - 内接宙	2001
竹岡雄二	《プロトタイプII - 背面補強》のプラン	1991
竹岡雄二	プロトタイプII - 背面補強	1992
丸山直文	puddle in the woods 6	2010
	※寄託作品	牧野光氏蔵

■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワヌ・ブールデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ピアノキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1886 頃

■ 広報記録

<新聞>

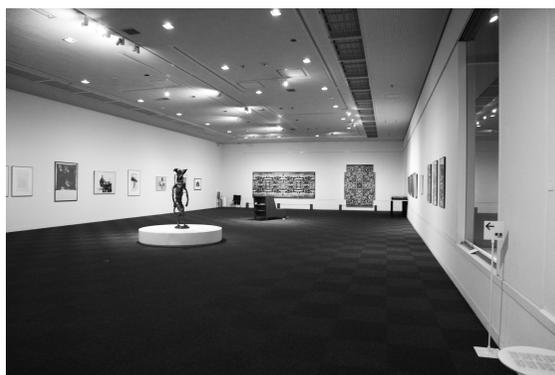
- ・「シャガールの名作や新収蔵品など 58 点展示」『東京新聞』2018 年 7 月 1 日
- ・告知：『毎日新聞』2018 年 6 月 1 日／『読売新聞』2018 年 6 月 12 日／『埼玉新聞』2018 年 6 月 13 日／『読売新聞』2018 年 6 月 19 日／『埼玉新聞』2018 年 6 月 20 日／『読売新聞』2018 年 7 月 3 日

<テレビ、ラジオ>

- ・J:COM 2018 年 5 月 7 日
- ・REDSWAVE 2018 年 4 月 18 日、5 月 7 日

<WEB>

- ・ウェブマガジンきんぼう 2018 年 6 月 10 日



《さいきんのたまもの》の展示

■ MOMASコレクション [II]

- 会期：2018年7月14日(土)～10月14日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：14,976人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：川村格夫
- 担当学芸員：富安玲子、菊地真央、渋谷 拓、平野 到



B1・B2 ポスター

■展示室A (1階)

《セレクション：ピカソとかデルヴォーとか》

キュビズムの画家パブロ・ピカソやシュルレアリスムの画家ポール・デルヴォーなど、西洋の名画に日本近代の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ワジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
※登録美術品 丸沼芸術の森蔵		
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
ポール・ゴーギャン	川岸の女たち	1893-1894
ポール・ゴーギャン	大いなる夜	1893-1894
ポール・ゴーギャン	かぐわしい、かぐわしい	1893-1894
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
パブロ・ピカソ	静物	1944
ポール・デルヴォー	森	1948
難波田龍起	水のある街	1969
瑛丸	青の中の黄色い丸	1957-1958
元永定正	みつつのかたちはしろいせん	1984
ロイ・リキテンスタイン	積みわら 7	1969
宮脇愛子	作品 74-B	1980
宮脇愛子	作品 77-A	1980
宮脇愛子	Golden Egg A	1982
宮脇愛子	Golden Egg B	1982
李禹煥	線より	1980
佐藤時啓	Breath-graph I	1990

《大熊家コレクションの名品から》

平成 19 年度および 25 年度に寄贈された日本画のコレクションから、選りすぐりの作品を紹介した。

※前期展示 (7月14日～9月2日)

作者名	作品名	制作年
野口小嶺	僊人観瀑図	1913
渡辺省亭	水中遊鯉之図	制作年不詳
横山大観	海辺巖	1930
横山大観	漁村曙	1940
横山大観	日本心神	1944 頃
寺崎廣業	李太白観瀑之図	制作年不詳
大林千萬樹	編笠茶屋	制作年不詳
川村曼舟	芦ノ湖	制作年不詳
猪飼嘯谷	養老の滝	制作年不詳
橋本閑雪	峡雲夜雨	制作年不詳
橋本閑雪	訪隠図	制作年不詳

※後期展示 (9月4日～10月14日)

作者名	作品名	制作年
野村文挙	近江八景 唐崎夜雨	1907 頃
鈴木華邨	秋景山水	制作年不詳
横山大観	春雨 秋雨	1923 頃
横山大観	朧夜	1924 頃
横山大観	武蔵野の秋	1926 頃
下村観山	巖に鳥	1915-1916 頃
木島桜谷	秋山群禽図	制作年不詳
富田溪仙	糺の森	制作年不詳
橋本閑雪	春秋山水	制作年不詳

《埼玉の洋画》

寺内萬治郎、高田誠、塗師祥一郎など、埼玉の洋画を代表する画家たちの作品をコレクションから紹介した。

作者名	作品名	制作年
小島喜八郎	9月の庭にて	2005
寺井力三郎	出発	1988
高田誠	花咲く海辺	1967
小川游	砂丘・平砂浦	1992
塗師祥一郎	陶土	1963
寺内萬治郎	画家 K 君の像	1947

《吉田克朗：プランと実践》

吉田克朗 (1943 - 1999) の《650 ワットと 60 ワット》が生み出された背景について、資料を交えて紹介し、「もの派」の作例として語られてきた本作品を、新たな視点から再考した。

作者名	作品名	制作年
吉田克朗	650 ワットと 60 ワット	1970
吉田克朗	制作ノート	※個人蔵

■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワーヌ・ブルデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1886 頃

■ 広報記録

<新聞>

・「ピカソと大観が共演」『産経新聞』2018年8月31日

<ミニコミ誌>

・『中央よみうり』2018年8月24日

■ 担当後記

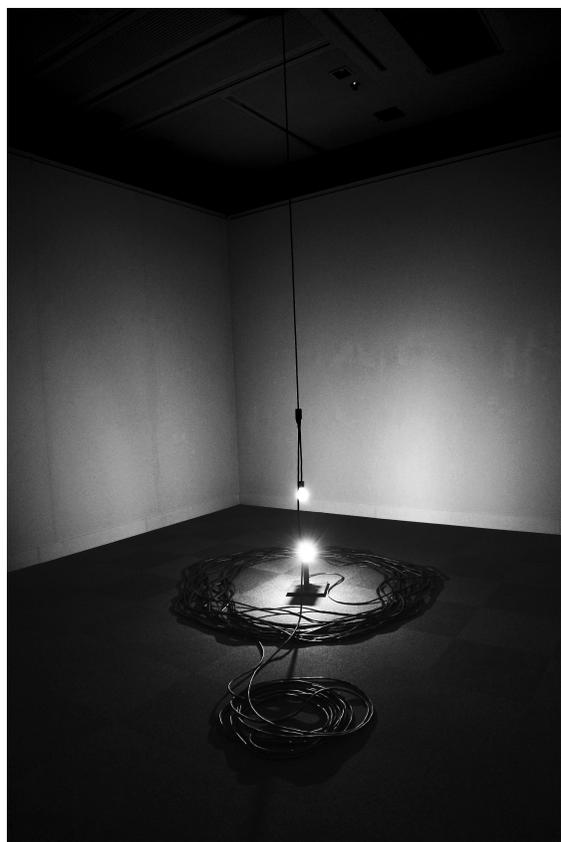
◆吉田克朗は埼玉県深谷市出身の美術家である。多摩美術大学に進学し、卒業後は横浜市富士見町の共同アトリエで、関根伸夫、菅木志雄、小清水漸らと制作を行った。1969年から物体の素性から知覚されるものを手掛かりにする作品を精力的に制作し、後にそれらはもの派という動向の典型的な作例として評価された。異質な物体の組み合わせ、物体の状態への着眼、重力やテンションの視覚化、即物的な光の導入など、もの派の作法の多くは吉田のプランが先んじていたといっても過言ではない。ところが、こういった傾向を示す作品を吉田が手掛けたのはわずか数年に過ぎず、その後、もの派の作風からいち早く撤退し、版画や絵画へと制作の比重を移していった。

◆昨今、もの派の動向が世界的に再評価され、「吉田克朗＝もの派の美術家」という捉え方が先行するきらいがある。しかし、そもそももの派はグループとして存在した訳ではなく、事後的な批評を通して浮かび上がった動向である。その点を念頭に置くと、この時代の吉田の制作を正確に把握していくには、もの派についての議論も踏まえつつ、まずは作者自身の思考から辿っていく必要がある。

◆そのケース・スタディとなる格好の作例が、当館の所蔵する《650ワットと60ワット》(1970年)である。もの派に関連する作品は一定の状態を保持しにくい特性があるため、既に多くの初出作品が失われているが、《650ワットと60ワット》は貴重なオリジナル作品である。素材の選択や組合せなどにおいて、作者の当時の思考と感覚が凝縮されている。加えて、ほとんど存在が知られていなかった作者の制作ノートも、ご遺族の協力を得て初めて公開した。その中には《650ワットと60ワット》に関連する、電源ケーブルや電球を用いたプランも複数、記されており、鑑賞者にもたらず視

覚的な印象などを検討しながら、実践に向けて思索を重ねていた様子が窺える。また、当時の制作ノートには自己と外的世界との関係を哲学的に問いかける記述も登場する。制作ノートは、これまであまり語られてこなかった、吉田の知られざる一面を垣間見させてくれる、極めて重要な資料と言える。

◆多大なご助言をいただいた吉田築子氏が展示終了後に逝去された。ご冥福を心よりお祈り申し上げたい。また調査にご協力をいただいた山本雅美氏に御礼を申し上げます。(平野 到)



《吉田克朗：プランと実践》の展示

■ MOMASコレクション [III]

■会期: 2018年10月20日(土) ~ 2019年1月6日(日)

■主催: 埼玉県立近代美術館

■協力: JR 東日本大宮支社

■入場者数: 7,278人

■広報印刷物: ポスター B1・B2 / デザイン: 川村格夫

■担当学芸員: 菊地真央、嶋原 悠、吉岡知子、梅津 元



B1・B2 ポスター

■展示室A (1階)

◀セレクション: モネとか斎藤豊作とか▶

印象派の画家、クロード・モネなど西洋近代絵画に、斎藤豊作など日本の近代絵画を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
	※登録美術品 丸沼芸術の森蔵	
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
斎藤豊作	フランス風景 I	1910 頃
斎藤豊作	フランス風景 II	1910 頃
武内鶴之助	アラシの夕	1912
森田恒友	ブルターニュの丘	1915
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ = クール寺院	1919
マルク・シャガール	二つの花束	1925
倉田白羊	山ふところ	1933
田中保	背を向ける裸婦	1919-1920
佐伯祐三	門と広告	1925

◀激動/変貌- 1940-50年代の絵画▶

白木正一、渡辺武、堀田操、鬘嘸など、1940年代から50年代にかけて描かれた作品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
山路真護	水の幻想	1947
早瀬龍江	屋上	1956
	※特別出品 個人蔵	
須田剋太	不協雑音	1955
古川弘	写真機のある静物	1943
瑛九	出発	1949
白木正一	なめくじ	1954
白木正一	いのちあれば	1954
	※特別出品 個人蔵	
渡邊武夫	戦時生活絵巻 お正月・おせち	1937-1941 頃
渡邊武夫	戦時生活絵巻 軍楽隊	1937-1941 頃
渡邊武夫	戦時生活絵巻 天長節の閨兵	1937-1941 頃
渡邊武夫	戦時生活絵巻 田植え	1937-1941 頃
渡邊武夫	戦時生活絵巻 収穫	1937-1941 頃
渡邊武夫	戦時生活絵巻 年の瀬・夜	1937-1941 頃
渡辺武	母子像	1943
斎藤三郎	敗戦の自画像	1948
斎藤三郎	露天街	1947
堀田操	墓標	1954
堀田操	対話	1955
泉茂	題名不詳	1953
因藤壽	こんばんは	1951
鬘嘸	秘密	1954

◀特集: 小茂田青樹▶

川越ゆかりの日本画家、小茂田青樹(1891-1933)の画業を、スケッチや資料から浮かび上がる新たな視点を交えてたどった。

※前期展示 (10月20日~11月25日)

作者名	作品名	制作年
小茂田青樹	寒牡丹	1911 頃
小茂田青樹	養老の滝	1911 頃
	※特別出品 個人蔵	
小茂田青樹	素描(麦踏)	1920
	※特別出品 金乗院 山口観音蔵	
小茂田青樹	素描(狭山)	1920 頃
	※特別出品 金乗院 山口観音蔵	
小茂田青樹	秋叢	1925-1926 頃
小茂田青樹	樹上猿	1929
小茂田青樹	春の夜	1930
	『伯林日本画展覧会図録』	1931
下村観山	牧童	1911 頃
今村紫紅	龍虎	1913
富取風堂	野の花	制作年不詳

※後期展示 (11月27日~1月6日)

作者名	作品名	制作年
小茂田青樹	水辺牧童	1912
	※特別出品 個人蔵	
小茂田青樹	鯉	1911 頃
	※特別出品 個人蔵	
小茂田青樹	素描(麦踏)	1920 頃
	※特別出品 金乗院 山口観音蔵	
小茂田青樹	素描(狭山)	1920 頃
	※特別出品 金乗院 山口観音蔵	
小茂田青樹	山兔	1921 頃
小茂田青樹	晚秋	昭和初め
小茂田青樹	鳴鶏	1930
小茂田青樹	鳥心	制作年不詳
横山大観	仙果	1934 頃

作者名	作品名	制作年
堅山南風	鷺	制作年不詳
速水御舟	夏の丹波路	1915

※通期展示

作者名	作品名	制作年
小茂田青樹	麦踏	1919 頃
小茂田青樹	素描(秩父 子ノ権現)	1920
	※特別出品	金乗院 山口観音蔵
小茂田青樹	素描(秩父 子ノ権現)	1920 頃
	※特別出品	金乗院 山口観音蔵
小茂田青樹	素描(狭山 金乗院)	1920
	※特別出品	金乗院 山口観音蔵
小茂田青樹	商人雇人風俗画帳	1907
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹	写生帖	1908-1914 頃
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹	写生帖(茂原)	1916
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹	写生帖(月ヶ瀬)	1917
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹	写生帖(野火止)	1923 頃
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹	写生帖	1930-1931 頃
小茂田青樹筆書簡	澤田竹治郎宛	1920
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹筆書簡	石川幸三郎宛	1929
小茂田青樹筆書簡	堅山南風宛	1932 頃
	※特別出品	個人蔵
小茂田青樹遺作展目録		1934
	※特別出品	個人蔵
糸井新樹	石榴に鳥	制作年不詳
	※特別出品	金乗院 山口観音蔵

《光一線 | 空一閃》

「速度」や「密度」を手がかりに、写真作品を中心に紹介した。

作者名	作品名	制作年
エディエンヌ=ジュール・マレ	鴨、1秒に10イメージ	1885 頃
エディエンヌ=ジュール・マレ	飛ぶ鳥	1885 頃
マン・レイ	レイヨグラフ	1921 頃
マン・レイ	レイヨグラフ	1923 頃
マン・レイ	レイヨグラフ	1924
	(ピストルとアルファベット盤)	
マン・レイ	レイヨグラフ	1925 頃
杉浦邦恵	Hoppings' 96 F (posi3)	1996
杉浦邦恵	Eel (posi)	1996
市川美幸	「空のすみか/在る・あいだ」シリーズより	1997
市川美幸	「空のすみか/在る・あいだ」シリーズより	1997
市川美幸	「空のすみか/在る・あいだ」シリーズより	1997
市川美幸	「テレ・シッパ・スコープ」シリーズより	1999
市川美幸	「テレ・シッパ・スコープ」シリーズより	1999
市川美幸	「テレ・シッパ・スコープ」シリーズより	1999

■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール=アントワーヌ・チリーの女		1921
ブールデル		
シャルル・デスピオ	ピアノキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ピエー	1884-1986 頃
	ルの頭像	

■展示室A入口

作者名	作品名	制作年
吉野辰海	水犬	1988

■広報記録

<テレビ>

- ・テレビ埼玉「小茂田特集」2018年10月30日

■担当後記

◆埼玉県川越市に生まれた小茂田青樹(1891-1933)は、大正期から昭和初期にかけて、再興院展などで活動した日本画家である。当館では9点の作品を所蔵している。この特集展示では、《春の夜》や《鳴鶏》など代表作も含め当館が所蔵している作品に加え、県内外の所蔵者から拝借した作品資料を紹介し、初期から晩年まで青樹の画業をたどった。

◆今回の展示では、特に、狭山の金乗院に滞在した時期に描かれた作品《麦踏》に注目した。金乗院にはコンテによる素描が残されており、その中には《麦踏》に似た作品もある。今回、新たに発見された子ノ権現で描かれた2点を含むこれらの素描を拝借し、《麦踏》と併せて展示した。本画の下絵としても制作していたと推測できるこれらの素描は、下絵と本画の関係や、コンテという西洋画材を用いて空間や対象の量感の表現を研究していたことなど、青樹の作風の変遷を追う上で非常に興味深い問題を提起している。

◆また、本画と併せて、風景や身近な動植物を写したスケッチや素描を紹介した。旅先や滞在先の印象を簡潔ながら自由で的確な線で描写した写生帖や、蜘蛛や草花といった小さな生命を画面にとどめたスケッチは、画家にとって、見たものを単に描きとめるにとどまらず、創作の重要な源泉であったように思われる。これらは本画作品を理解するための重要な資料となるだけでなく、それ自身が愛らしく魅力的なものである。その魅力を味わっていただく一助になればと思い、各写生帖から抜粋したスライドを上映した。

◆小規模の展示ではあったが、ご所蔵者や関係者のご厚意を賜り、青樹の多くの側面を紹介することができた。改めて感謝申し上げますとともに、今後も継続的に調査研究を進めていきたい。(鳴原 悠)



《特集：小茂田青樹》の展示

■ MOMASコレクション [IV]

- 会期：2019年1月12日(土)～4月14日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：14,909人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：川村格夫
- 担当学芸員：渋谷 拓、吉岡知子、梅津 元



B1・B2 ポスター

■展示室A (1階)

《セクション：ユトリロとかパスキンとか》

モーリス・ユトリロなど西洋近代絵画に、日本の近代絵画を交えてコレクションを紹介し、併せて新収蔵品のポール・シニャック《アニエールの河岸》もお披露目した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854-1857
	※登録美術品 丸沼芸術の森蔵	
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
	※登録美術品 丸沼芸術の森蔵	
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885
斎藤豊作	フランス風景 I	1910 頃
斎藤豊作	フランス風景 II	1910 頃
斎藤豊作	初冬の朝	1914
森田恒友	城址	1916
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレクール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
斎藤与里	朝	1915
斎藤与里	暁の金剛山	1938
田中保	海の中の裸婦	1915-1920
マルク・シャガール	二つの花束	1925
高田博厚	ポール・シニャックの肖像	
	※特別出品 東松山市蔵	

《瑛九と光春—イメージの版／層》

瑛九と山田光春における「版」や「層」に注目し、「イメージの搬送」の過程を探った。近年収集した瑛九の油彩、フォト・デッサン、コラージュ、山田光春のガラス絵、素描を中心に紹介した。

作者名	作品名	制作年
瑛九	十三子姉	1929
瑛九	女性像	
瑛九	面影	1936
瑛九	作品(42)	1936
瑛九	作品(72)	
瑛九	作品名不詳	1935 頃
瑛九	女 A	1935
資料	瑛九 型紙	
瑛九	金魚	1935
瑛九	街	1935
資料	杉田秀夫「フォトグラムの自由な制作のために」『フォトタイムズ』1930年8月号	
資料	杉田秀夫「アマチュア・ポートレート」『フォトタイムズ』1931年10月号	
瑛九	作品II	1936 頃
瑛九	作品I	1936 頃
山田光春	作品	1935
山田光春	作品	1935
山田光春	スケッチブック	1934-1935
山田光春	スケッチブック	1934-1935
山田光春	スケッチブック	1935-1937 頃
山田光春	スケッチブック	1936
瑛九	作品(45)	
瑛九	作品(7)	1937
瑛九	作品(69)	
瑛九	風	1937
瑛九	作品(40)	1936
山田光春	作品	1936-1937 頃
瑛九	作品II	1939
瑛九	作品I	1937
瑛九	声	1937 頃
瑛九	作品V	
瑛九	作品IV	1937
瑛九	兄妹	1944
瑛九	ともだち	1944
瑛九	風	1956
瑛九	海と少年	1956
瑛九	子供のプロフィール	1956
瑛九	花	1956
瑛九	雲	1959
瑛九	青の中の黄色い丸	1957-1958
瑛九	作品(31)	
瑛九	作品(51)	
瑛九	宇宙	1959
瑛九	海	1955
瑛九	くもり日	1958
瑛九	かぎ	1956
瑛九	落書	1956
瑛九	タバコ	
瑛九	オペラグラス	1953
瑛九	手	1957
資料	瑛九《手》の制作に用いたと思われる型紙	
瑛九	作品(1)	
瑛九	コンポジション A	1948
瑛九	作品(78)	

瑛九	作品 (61)	1954
山田光春	作品	1951 頃
山田光春	作品	1951
山田光春	作品	1950 年代
瑛九	作品 (50)	
瑛九	光	1954
瑛九	作品 (14)	
資料	瑛九 フォト・デッサン型紙、原型等	
資料	山田光春『瑛九油絵作品写真集』	1977
資料	山田光春『瑛九・関係展覧会』	1964
資料	山田光春『瑛九・関係論文・その他』	1964

《特別展示：瑛九の部屋》

瑛九《田園》を暗室に展示し、見る人が光をコントロールできるようにした。「絵を感じる」ための特別展示とした。

作者名	作品名	制作年
瑛九	田園	1959
		※特別出品 加藤南枝氏蔵
資料	瑛九「田園」展ポスター(紀伊国屋画廊／1975年8月21日-8月26日)	

■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワーヌ・ブルデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ピアノキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1986 頃

■展示室A入口

作者名	作品名	制作年
吉野辰海	水犬	1988

■関連事業

- ・特別講演会「ポール・シニャックと西洋近代絵画の展開」／2月16日(土)／高階秀爾(大原美術館館長・東京大学名誉教授)／講堂／参加者：103名／ポール・シニャックの《アニエールの河岸》の新規収集を記念して、特別講演会を開催した。
- ・学芸員によるギャラリー・トーク／新収蔵品のポール・シニャック《アニエールの河岸》について、学芸員が解説した／①1月12日(土)／渋谷拓／参加者：28名、②1月27日(日)／渋谷拓／参加者：16名、③3月2日(土)／嶋原悠／参加者：15名、④3月16日(土)／菊地真央／参加者：19名

■広報記録

<新聞>

- ・「3億円の絵画展示 県立近代美術館で国内初公開」『産経新聞』2019年1月18日
- ・「命燃やし尽くした点描」『東京新聞』2019年2月10日

<雑誌、ミニコミ誌>

- ・告知：『定年時代』2019年1月7日
- ・「美術館コレクションの未来」(座談会：梅津元・横山由季子・富井大裕)『美術手帖』2019年4月号
- ・成相肇「焦がれるほどのライトアップ」『芸術新潮』2019年6月号

<WEB>

- ・「埼玉県民に親しまれる作品に『アニエールの河岸』アコレおみや 2019年1月12日
- ・「2019 MOMASコレクション第4期」Artagenda 2019年1月16日
- ・「『瑛九の部屋』で傑作《田園》に出会う。埼玉県立近代美術館のコレクション展第4期をチェック」Web版美術手帖 2019年2月11日
- ・「MOMASコレクション第4期『瑛九と光春—イメージの版／層』『特別展示：瑛九の部屋』美術手帖マガジン 2019年2月18日
- ・「粒子が交流し、はじめて成立する底なき世界。沢山遼評 『特別展示：瑛九の部屋』美術手帖マガジン 2019年3月15日

■担当後記：《セレクトション》

- ◆「セレクトション」のコーナーにおいて、美術作品取得基金を活用して新規に収蔵したポール・シニャック《アニエールの河岸》(1885年)をお披露目した。パリの郊外の北西に位置する、セーヌ川沿いの街アニエールを描いたこの絵画は、新印象主義を推進した画家シニャックの初期作品にあたり、1886年の第8回印象派展に出品された来歴を持つ。最後の印象派展となったこの展覧会には、スーラの《グラント・ジャット島の日曜日の午後》(1884-86年)も出品されており、同展を通して、光と色彩の科学的理論に基づいた点描技法を導入した新印象派の様式が注目を集めるようになった。
- ◆今回のお披露目では特設コーナーを設え、シニャックの画業や作品の背景を説明した年譜や解説パネルとともに《アニエールの河岸》を多角的に紹介した。また、この作品が印象派から新印象派の転換期に制作された点を踏まえ、印象派のモネやピサロの作品に加え、点描技法に取り組んだ埼玉ゆかりの画家、斎藤豊作の作品などと関連付けて展示全体を構成した。さらに、東松山市のご協力を得て、シニャックと交流のあった彫刻家、高田博厚によるドローイング《ポール・シニャックの肖像》も特別出品した。

◆会期中には、高階秀爾氏（大原美術館館長・東京大学名誉教授）をお招きし、記念講演会も開催した。開場前から列ができ、会場は即座に満席となった。ポール・シニャックや新印象派だけでなく、その前後左右の時代的な文脈を丁寧にかつ明快にお話しいただいた講演は、シニャックを理解する上でまたとない機会になった。



ポール・シニャック《アニエールの河岸》のお披露目

■担当後記：《特別展示：瑛九の部屋》

◆この展示は、「瑛九と光春：イメージの版／層」とセットで実現したことで、相乗効果が生まれたと思う。「瑛九と光春：イメージの版／層」では、近年収集した瑛九と山田光春の作品を中心に、既存のコレクションと組合せ、二人の影響関係を探る展示を試みた。無意識の表出を切望するデッサンでは二人の画風が近似し、光春のガラス絵と瑛九のフォト・デッサンは、技法的にもイメージ的にも、深いレベルで共鳴していることが見て取れた。

◆「特別展示：瑛九の部屋」では、瑛九の最重要作品《田園》を暗室に展示し、鑑賞者が照明の照度をコントロールすることができる展示に挑戦した。この作品の所蔵者である加藤南枝氏からの提案を受け、手紙のやりとりから始め、実現まで4年を要した。開催を決めてからは、展示コンセプトの提案者である加藤氏の監修を仰ぎながら、暗室の設計、光源の選定、調光の方法などを、時間をかけて、丁寧に、ひとつずつ進めていった。

◆展示の意図や装置の操作方法の説明が過多になってはいないかと懸念されたが、最終的には、極めてシンプルな装置として仕上り、鑑賞者が感覚的に展示の意図を把握して思い思いの体験をしている様子が窺えて、安堵した。光の量の変化だけで、《田園》は、見事その姿をかえてゆく。仕上がった暗室で、こだわりのダイヤル式のコントローラーをゆっくりと回しながら《田園》と対峙する加藤氏の姿が忘れられない。この場を

借りて、加藤南枝氏と、この展示の実現にご協力くださった方々に、深く感謝します。（梅津 元）



《特別展示：瑛九の部屋》の展示

■サンデー・トーク

年間で10回程度、日曜日の15時から展示室Aで開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度の解説を行った。平成30年度は、以下のように計10回実施した。参加者：計200名。

- ・4月8日／小特集：小村雪岱のイラストレーション（コーナー全体を解説）／担当学芸員：大越久子／参加者：17名
- ・5月13日／吉野辰海《双頭犬》／担当学芸員：平野到／参加者：35名
- ・6月17日／ヨーゼフ・ボイス《プリント1、プリント2》（寄託作品）／担当学芸員：大浦周／参加者：31名
- ・7月8日／竹岡雄二《プロトタイプII 背面補強》／担当学芸員：渋谷拓／参加者：14名
- ・8月19日／大林千萬樹《編笠茶屋》／担当学芸員：五味良子／参加者：12名
- ・9月9日／野村文挙《近江八景 唐崎夜雨》／担当学芸員：菊地真央／参加者：18名
- ・10月28日／杉浦邦恵《Hoppings '96 F (posi3)》／担当学芸員：梅津元／参加者：21名
- ・11月25日／渡辺武《母子像》／担当学芸員：吉岡知子／参加者：15名
- ・12月9日／小茂田青樹《麦踏》／担当学芸員：嶋原悠／参加者：12名
- ・2月3日／瑛九《田園》（特別出品）／担当学芸員：梅津元／参加者：25名

■ 収集事業

今年度は、美術資料取得基金により、ポール・シニャックの油彩作品《アニエールの河岸》を購入した。新印象主義の画家の作品が加わったことで、より体系的に西洋近代絵画史の展開を紹介できるコレクションとなった。今後、積極的な展示活用を行っていききたい。

寄贈作品は、20点中10点が当館開催の展覧会や所蔵作品に関連した作品となった。当館の「アーティスト・プロジェクト# 2.02」（2016年）での展示のために制作された2点を含む、北野謙「光を集めるプロジェクト」写真作品6点、北浦和公園内に設置されている《果実の中の木もれ陽》の増殖を実施するにあたって、作家が最終的な完成イメージとして描いたドローイング3点、今年度開催した「浦沢直樹展—描いて描いて描きまくる!」関連資料一式である。また、これまで寄託されてきた寺内萬治郎の風景画を寄贈いただくこととなった。そのほか、早瀬龍江と白木正一の作品9点は、日本のシュルレアリスム絵画を多角的に検証するための重要な作品である。

寄託作品としては、瑛九の《田園》および菊沢武江の《双鶏》がある。ともに県ゆかりの作家の作品であり、寄託いただけた意義は大きい。瑛九の晩年の重要作《田園》は、今年度MOMASコレクション[IV]において、寄託者の意向を大いに汲んだ方法で展示したことで話題となった。また、企画展「日本の70年代 1968-1982」（2012年）で展示した北辻良央の《WORK-HH》も寄託となった。

■ 平成30年度収集作品数と収蔵作品総数

平成31年3月31日現在

区分	平成30年度収集点数			収蔵作品 総数
	購入	寄贈	保管転換	
日本画	0	0	0	449
油彩画ほか	1	8	0	649
ドローイング	0	4	0	626
版画	0	1	0	1314
写真	0	6	0	211
平面その他	0	0	0	17
彫刻	0	0	0	197
立体その他	0	0	0	11
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料I	0	1	0	141
資料II	0	0	0	31
合計	1	20	0	3,727

■新収蔵作品一覧

1

ポール・シニャック 1863 - 1935

Paul SIGNAC

アニエールの河岸

Bank of the Seine. Asnières

1885年 油彩、カンヴァス

1885 Oil on canvas

60.2 × 92.2cm

右下に署名・年記「P.Signac 85」

平成30年度購入

0-0641



2

北野謙 1968 (昭和43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から(東)

2015 冬至 - 2016 夏至

"Gathering Light Project" Urawa Ward, Saitama City, Saitama, (the eastern direction)

from winter solstice in 2015 to summer solstice in 2016

平成29年 インクジェットプリント

2017 Inkjet print

67.0 × 100.0cm

右下にタイトル・年記・署名

平成30年度寄贈

PH-0206



3

北野謙 1968 (昭和43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から(西)

2015 冬至 - 2016 夏至

"Gathering Light Project" Urawa Ward, Saitama City, Saitama, (the western direction)

from winter solstice in 2015 to summer solstice in 2016

平成29年 インクジェットプリント

2017 Inkjet print

66.2 × 100.0cm

右下にタイトル・年記・署名

平成30年度寄贈

PH-0207



4

北野謙 1968 (昭和43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」石灰の積出港 大分県津久見市

2015 冬至 - 2016 夏至

"Gathering Light Project" Tsukumi City, Oita

from winter solstice in 2015 to summer solstice in 2016

平成29年 インクジェットプリント

2017 Inkjet print

67.5 × 100.0cm

右下にタイトル・年記・署名

平成30年度寄贈

PH-0208



5

北野謙 1968 (昭和 43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」 ニコンプラザ新宿から 東京都新宿区
2016 夏至 -2016 冬至

"Gathering Light Project" Shinjuku, Shinjuku Ward, Tokyo
from summer solstice in 2016 to winter solstice in 2016
平成 29 年 インクジェットプリント

2017 Inkjet print

66.8 × 100.0cm

右下にタイトル・年記・署名

平成 30 年度寄贈

PH-0209



6

北野謙 1968 (昭和 43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」 清里フォトアートミュージアムから
山梨県北杜市 2016 冬至 -2017 夏至

"Gathering Light Project" Kiyosato, Hokuto City, Yamanashi
from winter solstice in 2016 to summer solstice in 2017
平成 29 年 インクジェットプリント

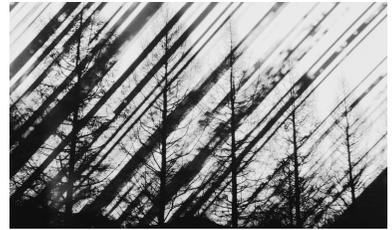
2017 Inkjet print

67.4 × 100.0cm

右下にタイトル・年記・署名

平成 30 年度寄贈

PH-0210



7

北野謙 1968 (昭和 43) -

KITANO Ken

「光を集めるプロジェクト」 ダイヤモンドグリッド・東京 (反復)
2015 冬至 -2016 夏至

"Gathering Light Project" Diamond Grid, Tokyo (repetition)
from winter solstice in 2015 to summer solstice in 2016
平成 29 年 インクジェットプリント

2017 Inkjet print

100.0 × 64.5cm

右下にタイトル・年記・署名

平成 30 年度寄贈

PH-0211



8

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

願望

Desire

昭和 28 年 油彩、カンヴァス

1953 Oil on canvas

51.8 × 44.2cm

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0642



9

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

屋上

Rooftop

昭和 31 年 油彩、カンヴァス

1956 Oil on canvas

71.3 × 60.0cm

左下に署名「T.HAYASE」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0643



10

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

作品名不詳

Title Unknown

昭和 31 年 油彩、カンヴァス

1956 Oil on canvas

111.5 × 69.5cm

左下に署名・年記「T.HAYASE 56」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0644



11

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

太古

Ancient Times

昭和 50 年 油彩、カンヴァス

1975 Oil on canvas

45.8 × 56.2cm

右下に署名・年記「75 T・HAYASE」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0645



12

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

パンのある静物

Still Life with Bread

制作年不詳 油彩、カンヴァス

Oil on canvas

30.5 × 36.5cm

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0646



13

早瀬龍江 1905 (明治 38) - 1991 (平成 3)

HAYASE Tatsue

作品名不詳

Title Unknown

制作年不詳 インク、紙

Ink on paper

29.1 × 14.5cm

右下に署名「T.H」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

D-0623



(表)



(裏)

14

白木正一 1912 (大正 1) - 1995 (平成 7)

SHIRAKI Shoichi

いのちあれば

If I am alive

昭和 29 年 油彩、カンヴァス

1954 Oil on canvas

73.0 × 61.0cm

画面右下に署名・年記「S.Shiraki 54」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0647



15

白木正一 1912 (大正 1) - 1995 (平成 7)

SHIRAKI Shoichi

生れくる

Come into Being

昭和 31 年 油彩、カンヴァス

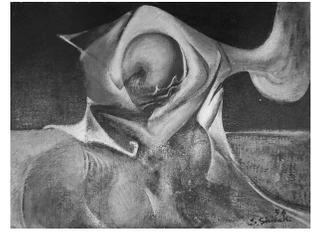
1956 Oil on canvas

31.7 × 40.9cm

画面右下に署名・年記「S. Shiraki 56」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

0-0648



16

白木正一 1912 (大正 1) - 1995 (平成 7)

SHIRAKI Shoichi

地上にて

On the Earth

昭和 34 年 エッチング・アクアチント、紙

1959 Etching, Aquatint on paper

紙寸: 33.7 × 49.0cm、画面寸: 25.1 × 30.1cm

画面右下に署名・年記「S. Shiraki 1959」

平成 30 年度木崎信尚氏寄贈

P-1316



17

寺内萬治郎 1890 (明治 23) - 1964 (昭和 39)

TERAUCHI Manjiro

風景

View with Trees

油彩、カンヴァス

Oil on canvas

60.7 × 73.0cm

平成 30 年度寺内千晴氏寄贈

0-0649



18

橋本真之 1947 (昭和 22) -

HASHIMOTO Masayuki

《果実の中の木もれ陽》増殖予想図 (東側から)

Conceptual Drawing of "Sunlight Penetrating Fruit"

(the view from east side)

平成 28 年 鉛筆、紙

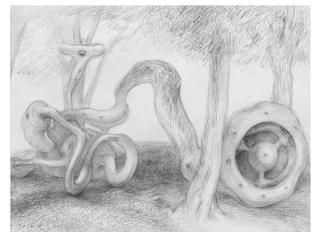
2016 Pencil on paper

20.2 × 27.0cm

左下に署名、年記「2016 真之」

平成 30 年度寄贈

D-0624



19

橋本真之 1947 (昭和 22) -

HASHIMOTO Masayuki

《果実の中の木もれ陽》増殖予想図 (北側から)

Conceptual Drawing of "Sunlight Penetrating Fruit"

(the view from north side)

平成 28 年 鉛筆、紙

2016 Pencil on paper

26.8 × 38.0cm

右下に署名、年記「2016 真之」

平成 30 年度寄贈

D-0625



20

橋本真之 1947 (昭和 22) -

HASHIMOTO Masayuki

《果実の中の木もれ陽》増殖予想図(南西側から)

Conceptual Drawing of "Sunlight Penetrating Fruit"

(the view from southwest side)

平成 28 年 鉛筆、紙

2016 Pencil on paper

27.0 × 38.0cm

右下に署名、年記「2016 真之」

平成 30 年度寄贈

D-0626



21

浦沢直樹 1960 (昭和 35) -

URASAWA Naoki

ライブ&ドローイングイベント

「浦沢直樹のひとり漫勉 歌って語って描きまくる!」関連資料一式

Series of referential works related on the live

and drawing event by Naoki Urasawa

平成 30 年 油性ペン、紙

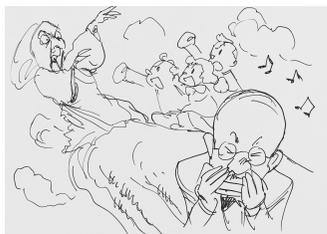
2018 Permanent marker on paper

各 21.0 × 29.7cm

1 式 5 点。それぞれのドローイングは作家著作『20th Century Boy』、『赤い実の歌』、『いつもそこに君がいた』、『カーニバルがやって来るみたいだ』、『Bob Lennon』に関連。

平成 30 年度寄贈

RI-0141



■美術資料貸出等一覧

■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：16 件（展覧会） 51 点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
熊谷守一	裸	没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび	愛媛県美術館	4/14-6/17
熊谷守一	柴たく男	没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび	愛媛県美術館	4/14-6/17
寺井力三郎	寝る子	ねこがいっぱい ねこアート展 エジプトのねこか ら浮世絵、フジタのねこまで	ひろしま美術館	4/21-6/24
小林清親	猫と提灯	ねこがいっぱい ねこアート展 エジプトのねこか ら浮世絵、フジタのねこまで	ひろしま美術館	4/21-6/24
木村直道	さかりのついた猫	ねこがいっぱい ねこアート展 エジプトのねこか ら浮世絵、フジタのねこまで	ひろしま美術館	4/21-6/24
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	モネ それからの 100 年	名古屋美術館	4/21-7/1
クロード・モネ	ルエルの眺め（登録美術品 丸沼 芸術の森蔵）	モネ / ブーダン	ティッセン・ボルネミッサ美 術館	6/26-9/30
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景（登録美術 品 丸沼芸術の森蔵）	モネ / ブーダン	ティッセン・ボルネミッサ美 術館	6/26-9/30
本多天城	蓬萊山之図（寄託作品）	狩野芳崖と四天王 近代日本画、もうひとつの水脈	泉屋博古館分館	9/15-10/28
本多天城	羅浮仙図（寄託作品）	狩野芳崖と四天王 近代日本画、もうひとつの水脈	泉屋博古館分館	9/15-10/28
岸田劉生	路傍初夏	岸田劉生展—実在の神秘、その謎を追う	ふくやま美術館	9/15-11/4
制作：関根伸夫、埼玉 県立近代美術館	映像版・位相—大地	1968 年—激動の時代の美術	千葉県美術館	9/19-11/11
駒井哲郎	足場	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	ラジオ アクティビティ イン マ イ ルーム	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	小さな幻影	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	夢の推移	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	記号の静物	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	饜とマルドロオル	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	私は汚らしい	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	鬼火	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	ある空虚	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	樹木	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	食卓 I	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	食卓 II	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	鳥と果実	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	個展案内状	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	死んだ鳥の静物	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	からみあい	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	粗らな剛毛と長い爪と太い指を備 えた大きな掌が不意と左辺の上方 に…	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	闇の中の黒い馬 II	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	二樹	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	森の中の空地（小）	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	風景	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	丘（日本の四季 春）	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	樹木（日本の四季 秋）	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	影（日本の四季 冬）	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	ピンとコップなど	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	河岸（仮題）	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
駒井哲郎	夢の始まり	駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	横浜美術館	10/13-12/16
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	没後 50 年 藤田嗣治展	京都国立近代美術館	10/19-12/16
大久保喜一	熊中正門風景	没後 70 周年記念～光の油彩画・大久保喜一展	熊谷市立熊谷図書館	10/27-12/2
制作：関根伸夫、埼玉 県立近代美術館	映像版・位相—大地	1968 年—激動の時代の美術	北九州市立美術館分館	12/1-1/27
相原求一朗	初雪ふる	生誕 100 年 没後 20 年 相原求一朗の軌跡 一 大地への挑戦—	川越市立美術館	12/1-3/24（展示は 12/1-1/27）
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	藤田嗣治：生涯の作品 1886-1968	パリ日本文化会館	1/15-3/16

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
制作：関根伸夫、埼玉 県立近代美術館	映像版・位相一大地	1968 年—激動の時代の美術	静岡県立美術館	2/10-3/24
辰野登恵子	WORK 76-D-5 (寄託作品)	辰野登恵子 ON PAPERS	名古屋市美術館	2/16-3/31
辰野登恵子	UNTITLED N-79 (寄託作品)	辰野登恵子 ON PAPERS	名古屋市美術館	2/16-3/31
辰野登恵子	UNTITLED T-79 (寄託作品)	辰野登恵子 ON PAPERS	名古屋市美術館	2/16-3/31
辰野登恵子	WORK 80-N-1 (寄託作品)	辰野登恵子 ON PAPERS	名古屋市美術館	2/16-3/31
辰野登恵子	WORK 80-N-2 (寄託作品)	辰野登恵子 ON PAPERS	名古屋市美術館	2/16-3/31
関口文雄	玉淀	玉淀今昔物語—田山花袋が絶賛した溪谷美—	埼玉県立川の博物館	3/9-5/12

■特別利用

写真原板貸出：25 件 59 点

作品熟覧：3 件 59 点

作品撮影：2 件 2 点

作品模写：0 件

■原板貸出

作者名	作品名	発行元等	媒体
クロード・モネ	ルエルの眺め(登録美術品)	株式会社 花美術館	『花美術館』 vol.60
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	株式会社 花美術館	『花美術館』 vol.60
斎藤与里	海女	日本共産党中央委員会	『女性のひろば』9月号
上田薫	ジュリーにスプーン C	株式会社 求龍堂	『上田薫画集』
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	株式会社 東京美術	『藤田嗣治作品集』
小村雪岱	落葉	株式会社 小学館	『小学館ウィークリーブック ニッポンの国宝 100』
小村雪岱	青柳	株式会社 小学館	『小学館ウィークリーブック ニッポンの国宝 100』
小村雪岱	雪の朝	株式会社 小学館	『小学館ウィークリーブック ニッポンの国宝 100』
小茂田青樹	春の夜	株式会社 一色出版	『うつくしの街 川越 一小江戸成長物語』
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	株式会社 エクスナレッジ	『猫と藤田嗣治』
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社 デジタル SKIP ステーション	彩の国ビジュアルプラザ映像公開ライブラリー 平成30年度第8回上映会とトークショー「映像で辿る 日本画家・小村雪岱」広報用チラシ
小村雪岱	青柳	株式会社 デジタル SKIP ステーション	彩の国ビジュアルプラザ映像公開ライブラリー 平成30年度第8回上映会とトークショー「映像で辿る 日本画家・小村雪岱」広報用チラシ
小村雪岱	おせん	株式会社 デジタル SKIP ステーション	彩の国ビジュアルプラザ映像公開ライブラリー 平成30年度第8回上映会とトークショー「映像で辿る 日本画家・小村雪岱」広報用チラシ
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社 デジタル SKIP ステーション	彩の国ビジュアルプラザ映像公開ライブラリー 平成30年度第8回上映会とトークショー「映像で辿る 日本画家・小村雪岱」広報用「公開ライブラリーだより」
駒井哲郎	闇の中の黒い馬II	Nicole Competizione 合同株式会社	「Nicole Christmas Party」(横浜美術館)招待状
ジャコモ・マンズー	枢機卿	株式会社 秀学社	『時代別美術鑑賞(仮称)』
ジャコモ・マンズー	枢機卿	株式会社 秀学社	中学校用美術科副読本『時代別美術鑑賞(仮称)』
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	株式会社 平凡社	『別冊太陽 藤田嗣治』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	株式会社 東京美術	『クロード・モネ作品集』
クロード・モネ	ルエルの眺め(登録美術品)	株式会社 東京美術	『クロード・モネ作品集』

作者名	作品名	発行元等	媒体
駒井哲郎	星座	有限会社 玲風書房	『ポストカードブック 駒井哲郎』
駒井哲郎	レースのある静物	有限会社 玲風書房	『ポストカードブック 駒井哲郎』
小村雪岱	青柳	株式会社 小学館	『未来の国宝・MY 国宝』
小村雪岱	落葉	株式会社 小学館	『未来の国宝・MY 国宝』
小村雪岱	雪の朝	株式会社 小学館	『未来の国宝・MY 国宝』
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	日本文教出版株式会社	『図画工作 5・6下 教師用指導書』 朱書編
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	日本文教出版株式会社	『図画工作 5・6下 教師用指導書』 教師用 デジタルデータ DVD-ROM
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	日本文教出版株式会社	『図画工作 5・6下』 拡大教科書
森田恒友	山村早春	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
須田剋太	作品 A	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
吉田克朗	650 ワットと 60 ワット	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
福田美蘭	湖畔	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
橋本真之	果実の中の木もれ陽	株式会社 東京美術倶楽部	『The 20th Century Art in Japan』
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	見沼 100 年構想の会	『彩の国みどりの基金 埼玉県立近代美術館を囲む緑の再生プロジェクト』
エクストレム	エクストレム	ケイアイエヌ有限会社	「人間ってナンだ?超 AI 入門」番組内 VTR
渡辺省亭	水中遊鯉之図	個人	摘水軒記念文化振興財団 平成 29 年度日本近世絵画研究助成制度報告書
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	株式会社 新潟日報事業社	『ブックレット新潟大学: 基本の「き」からの美術鑑賞入門』
倉俣史郎	ミス・ブランチ	株式会社 青幻舎	『日本の色彩百科 明治・大正・昭和・平成』
その他 4 件 20 点の原板貸出あり			

■作品撮影

作者名	作品名	展覧会名	媒体
岸田劉生	路傍初夏	テレビ朝日映像株式会社	「じゅん散歩」番組内 VTR
梅田正徳	Ran	株式会社 LIXIL	LIXIL BOOKLET『小さな建築 宮本茂紀の椅子づくり』

■作品熟覧

作者名	作品名	発行元等	媒体
斎藤与里	海女	日本共産党中央委員会	『女性のひろば』9月号
瑛九	面影	個人	博士論文
瑛九	作品 I	個人	博士論文
瑛九	作品IV	個人	博士論文
瑛九	声	個人	博士論文
瑛九	作品 II	個人	博士論文
瑛九	作品 III	個人	博士論文
瑛九	作品V	個人	博士論文
瑛九	コンポジションB	個人	博士論文
瑛九	作品 (42)	個人	博士論文
瑛九	作品 (45)	個人	博士論文
瑛九	手	個人	博士論文
瑛九	十三子姉像	個人	博士論文
瑛九	女A	個人	博士論文
瑛九	女B	個人	博士論文
瑛九	動	個人	博士論文
瑛九	裸婦	個人	博士論文
瑛九	金魚	個人	博士論文
瑛九	女曲馬師	個人	博士論文
瑛九	作品 I	個人	博士論文
瑛九	作品 II	個人	博士論文
瑛九	コンポジションA	個人	博士論文
瑛九	作品 III	個人	博士論文

作者名	作品名	発行元等	媒体
瑛九	二人	個人	博士論文
瑛九	街	個人	博士論文
瑛九	作品名不詳	個人	博士論文
瑛九	愛I	個人	博士論文
瑛九	作品名不詳	個人	博士論文
山田光春	スケッチブック	個人	博士論文
山田光春	スケッチブック	個人	博士論文
山田光春	スケッチブック	個人	博士論文
山田光春	スケッチブック	個人	博士論文
山田光春	ドローイング一式	個人	博士論文
山田光春	作品	個人	博士論文
山田光春	作品	個人	博士論文
山田光春	作品	個人	博士論文
山田光春	作品	個人	博士論文
山田光春	作品	個人	博士論文
瑛九	風	個人	博士論文
瑛九	二人	個人	博士論文
瑛九	タバコ	個人	博士論文
瑛九	作品 (1)	個人	博士論文
瑛九	作品 (2)	個人	博士論文
瑛九	作品 (3)	個人	博士論文
瑛九	作品 (4)	個人	博士論文
瑛九	作品 (5)	個人	博士論文
瑛九	作品 (6)	個人	博士論文
瑛九	作品 (7)	個人	博士論文
瑛九	作品 (8)	個人	博士論文
瑛九	作品 (9)	個人	博士論文
瑛九	作品 (11)	個人	博士論文
瑛九	作品 (12)	個人	博士論文
瑛九	作品 (13)	個人	博士論文
瑛九	作品 (14)	個人	博士論文
瑛九	作品 (15) (青い鳥)	個人	博士論文
瑛九	作品 (16)	個人	博士論文
瑛九	作品 (17)	個人	博士論文
瑛九	作品 (18)	個人	博士論文
瑛九	作品 (19)	個人	博士論文

■教育・普及事業

■美術館講座

■映像の可能性

■開催趣旨

昨年度、新たな美術館講座として立ち上げた「映像の可能性」の第2回。第1回に引き続き、映像に造詣が深く、自らも映像作品の制作を手がける建築家の鈴木了二氏を講師に迎え、昨年度は未紹介の《断層建築》シリーズ3本を上映した。また、写真家の金村修氏と小松浩子氏をゲストに迎え、両氏の映像をあわせて上映した。テーマは、第1回のテーマ「建築と映像の交差点」をふまえて、「物質と写真の衝突」とした。都市、建築、物質と、写真／映像が交錯する作品の上映を交え、刺激的な議論が交わされた。

■概要

日時：2019年3月24日(日) 11:00～17:00

タイトル：物質と写真の衝突

講師：鈴木了二(建築家)

ゲスト：金村修(写真家)、小松浩子(写真家)

場所：埼玉県立近代美術館 講堂

参加者：38名

第1部 [作品上映]

ゲストとしてレクチャーとディスカッションにも参加いただく二人の写真家、金村修氏と小松浩子氏の映像を上映。金村氏は、モノクロプリントの作品が良く知られているが、近年はカラープリントの作品も多く手がけ、映像作品の制作・発表にも積極的に取り組んでいる。今回は2014年以降に制作された映像作品を上映した。また、小松氏は、自作の過去の展示空間を8mmカメラで撮影した映像を展示空間で流しているが、これは展示を構成する要素であり、映像作品単独の上映・紹介の機会は稀である。今回は、撮影した写真をスライドショー形式で紹介する映像と、自作の展示空間を撮影した映像を上映した。

1-1: 金村修「Chaos From Cash」

制作年：2017年／媒体：DVD／上映時間：5分31秒／
発表：MUNO(名古屋, 2017)

1-2: 金村修「Dead Stick Landing」

制作年：2014年／媒体：DVD／上映時間：12分21秒／
発表：void+(東京, 2014)／出版：void+(2014, DVD+Essay), Osiris(2016, DVD+Essay)

1-3: 金村修「Life is a Gift」

制作年：2016年／媒体：DVD／上映時間：17分7秒／
発表：The White(東京, 2016)／出版：私家版(2017, DVD+Essay/Limited edition of 100)

1-4: 金村修「Material Snail Theater」

制作年：2018年／媒体：DVD／上映時間：9分19秒／
発表：HIJU Gallery(大阪, 2018)

2-1: 小松浩子「Slideshow」

制作年：2015年／媒体：スチル写真/DVD／
上映時間：7分

2-2: 小松浩子「6th Fotofestival 2015」

制作年：2015年／媒体：8mmフィルム/DVD／被写体：
生体衛生保全(6th Fotofestival - Mannheim
Ludwigshafen Heidelberg ZEPHYR - Raum für
Fotografie, マンハイム, ドイツ, 2015)／
上映時間：7分53秒

2-3: 小松浩子「Gallery α M 2017」

制作年：2017年／媒体：8mmフィルム/DVD／
被写体：人格的自律処理(Gallery α M, 東京, 2017)
／上映時間：10分5秒

2-4: 小松浩子「RAINROOTS 2018」

制作年：2018年／媒体：8mmフィルム/DVD／被写体：
限界非効用(RAINROOTS, 2018)／上映時間：5分11秒

2-5: 小松浩子「MUNO 2018」

制作年：2018年／媒体：8mmフィルム/DVD／被写体：
限界非効用(MUNO, 2018)／上映時間：5分9秒

第2部

[作品上映]

今回の講座の中心となる鈴木了二氏の《断層建築》シリーズ3本を上映(昨年度の講座では未紹介)。

3-1: 鈴木了二「断層建築Ⅰ」

制作年：1985年／媒体：16mmフィルム/DVD／上映
時間：11分
被写体：断層建築Ⅰ(物質試行 16)
会期：1985.6.7-6.10
会場：トランスフォーム・ギャラリー(神宮前)
共同：松浦寿夫、坂野正明、笹崎直弘、上村均、
遠藤正純、桜田滋、中尾寛、青島和男

3-2: 鈴木了二「断層建築Ⅱ」

制作年：1985年／媒体：16mmフィルム/DVD
上映時間：18分
被写体：断層建築Ⅱ(物質試行 18)
会期：1985.10.21-11.2
会場：モリスギャラリー(銀座)
共同：坂野正明、笹崎直弘、桜田滋、上村均、
内藤久、箕原真、BINJI M.D.、茅野拓司

3-3: 鈴木了二「断層建築Ⅲ」

制作年: 1989年 / 媒体: 16mm フィルム / DVD / 上映時間: 30分
被写体: 断層建築Ⅲ (物質試行 29)
会期: 1989.5.8-5.20
会場: モリスギャラリー (銀座)
共同: 上村均、桜田滋、遠藤正純、BINJI M.D.、岡部忍、玉置順、社本善幸、藤原啓之

[レクチャーおよびディスカッション]

レクチャーは、第1部と第2部の上映をうけて、金村修氏と小松浩子氏から、鈴木了二氏に質問を投げかける形で進行した。ディスカッションを通して、鈴木氏が映像制作を手がけるようになった経緯、映像を制作する上で考えていることはどのようなことか、建築と映像の関係、物質と写真の関係とはいかなるものかについて、深いレベルでのディスカッションが交わされた。鈴木氏の刺激的な著作と、昨年度の「建築と映像の交差点」において提示したマトリクスも参照し、「建築映画」とは何か、「マテリアル・サスペンス」とは何か、「物質そのものの記憶」とは何か、といった核心に迫る議論が展開された。

[エンディング]

開催中のMOMASコレクション「特別展示: 瑛九の部屋」をモチーフに金村氏と小松氏に制作を依頼した関連映像と、美術館講座「近現代建築探検ツアー」最終回に見学した鈴木氏の「池田山の住宅」の関連映像を上映。

1-5 金村修「Shotgun Q-Ei Method」

制作年: 2019年 / 媒体: DVD / 被写体: 「特別展示: 瑛九の部屋」(埼玉県立近代美術館, 2019) / 音楽: duenn / 上映時間: 3分19秒 / 発表: 埼玉県立近代美術館 (YouTube)

2-6 小松浩子「Rorschach Q-Ei」

制作年: 2019年 / 媒体: 8mm フィルム / DVD / 被写体: 「特別展示: 瑛九の部屋」(埼玉県立近代美術館, 2019) / 音楽: duenn / 上映時間: 5分10秒 / 発表: 埼玉県立近代美術館 (YouTube)

3-4 鈴木了二「物質試行 43「CAHIERS」覚書」

制作年: 2001年 / 媒体: CD-ROM/DVD / 上映時間: 8分51秒 / 被写体: 「池田山の住宅」(物質試行 42) / 備考: 『建築文化』2001年6月号の企画

■ミュージアムシアター

■開催趣旨

美術館講座関連上映会として、昨年度の美術館講座「映像の可能性」の第1回「建築と映像の交差点」において紹介した鈴木了二氏の映像作品の上映会を開催。

■概要

日時: 2019年3月23日(土) 11:00 ~ 13:00, 13:30 ~ 15:30
タイトル: 鈴木了二映像作品上映会
場所: 埼玉県立近代美術館 講堂

[上映作品]

1: 物質試行 35「空地・空洞・空隙」(映画)

制作年: 1996年 / 媒体: 16mm フィルム / 被写体: 物質試行 35「空地・空洞・空隙」(展覧会 ギャラリー間 1994.7/1-31) / 上映時間: 16分

2a: FOLLY4 Melody Gardot ver.

2b: FOLLY4 Michel Legrand ver.

制作年: 2015年 / 媒体: 16mm フィルム, DVD / 被写体: 物質試行 31「国際花と緑の博覧会」(ミノルタ・フォーリー) / 上映時間: 各1分48秒

3: RING Chet Baker ver.

制作年: 2015年 / 媒体: 16mm フィルム, DVD / 被写体: 物質試行 37「佐木島プロジェクト」(広島県三原市 1995年) / 上映時間: 3分18秒

4: Biblioteca Charles Mingus ver.

制作年: 2015年 / 媒体: 16mm フィルム, DVD / 被写体: 物質試行 39「Biblioteca」(展覧会 ICC 1998.9/18-10/25) / 上映時間: 1分56秒

5: WHITE ROTHKO

制作年: 2012年 / 媒体: 16mm フィルム, DVD / 被写体: 物質試行 50「下田の住宅」 / 上映時間: 13分

6: 物質試行 43「CAHIERS」覚書」

制作年: 2001年 / 媒体: CD-ROM, DVD / 被写体: 物質試行 42「池田山の住宅」 / 上映時間: 8分51秒 / 備考: 『建築文化』2001年6月号の企画

7: 物質試行 52「DUBHOUSE」

制作年: 2012年 / 媒体: 35mm フィルム / 被写体: 物質試行 51「DUBHOUSE」(展覧会「建築はどこにあるの?」東京国立近代美術館 2010.4/29-8/8) / 上映時間: 17分 / 制作協力者: 七里圭

8: 物質試行 58「A RETURN OF BROUNO TAUT 2016」

制作年: 2016年 / 媒体: Blu-ray / 被写体: 物質試行 56「MUSEUM」(展覧会「ジャパン・アーキテクツ 1945-2010」金沢 21世紀美術館 2014.11/1-3/15) / 上

映時間：20分／制作協力者：三宅唱

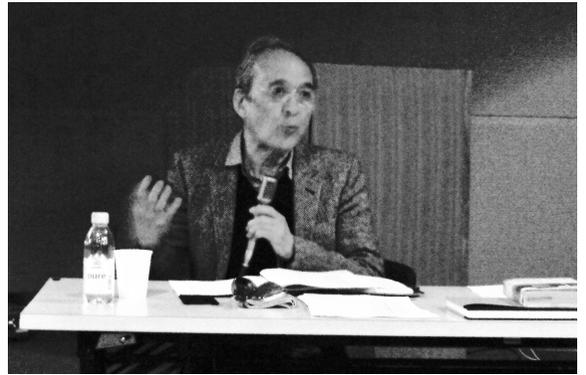
※ 8 の作品のみ昨年度の上映と異なるバージョンを上映。

■担当後記

◆昨年度立ち上げた美術館講座「映像の可能性」の第1回「建築と映像の交差点」(2017年10月開催)では、講師を引き受けてくださった鈴木了二氏の映像作品をできるだけ多く上映するプログラムを組んだ。そのため、上映後のレクチャーとディスカッションの時間が十分とはいえ、反省点となった。また、初期の重要な映像である《断層建築》シリーズ3本を、時間的な制約から、上映プログラムから外さざるを得なかったことも心残りだった。そこで、「映像の可能性」の第2回は、まず、鈴木了二氏の《断層建築》シリーズ3本を上映し、引き続き、同氏に講師をつとめていただくことを考えた。《断層建築》とあわせて上映する作品の調査を進めるうちに、金村修氏と小松浩子氏という、二人の写真家による映像が浮上した。

◆鈴木了二の《断層建築》を、金村修と小松浩子の映像によって、挟み撃ちにする。金村修の映像に表出する「表層／都市」と、小松浩子の映像が抉り出す「深層／物質」によって「拘束＝バインド」された「建築」が、その「断層」を見せる。その局面で見えてくるであろう「建築の断層」が、鈴木了二の《断層建築》と交錯する時、「断層としての建築」へと回転するモーメントが発生する。挟み撃ちされた《断層建築》の逆襲が始まり、「表層／都市」と「深層／物質」の関係が反転する。その時、「表層／物質」と「深層／都市」の「断層」が、「瓦礫」を想起する。《断層建築》という映像は、表層と深層、都市と物質の関係を逆転させる装置の別名であり、その装置の核には、おそらく、写真装置が位置している。だからこそ、《断層建築》を迎え撃つために、金村修と小松浩子という二人の写真が招かれることになったのである。

◆直感と熟考を経て、上映プログラムを練り、タイトルを「物質と写真の衝突」とした。昨年度のタイトルは「建築と映像の交差点」であったが、まさに、交差点で起こる出来事のひとつが、「物質と写真の衝突」なのである。今回、ゲストとして参加いただき、上映プログラムに映像を提供してくださった金村修氏と小松浩子氏、ご多忙な中、講師をつとめていただいた鈴木了二氏に、この場を借りて深く感謝申し上げます。(梅津 元)



鈴木了二氏



右：金村修氏／左：小松浩子氏



美術館講座ちらし



ミュージアムシアターちらし

■一般団体対応

平成27年度より、希望する一般団体（成人を中心とする2名～100名の団体。学校団体や子供中心の団体と区別）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展またはMOMASコレクション展を観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成や見どころ等を聞くことで、「より関心をもった」「展覧会観覧がますます楽しみになった」という声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、出張講座も受け付けている。遠方の社会教育施設を利用する成人の団体を主な利用者として想定し、当館所蔵作品を中心に美術史や美術鑑賞の基礎的な講義を行っている。アートカードを活用しながら体験を交えて講義を行うと共に、所蔵作品の画像を活用することで、美術館になかなか来られない地域の方の美術についての興味や関心に応えるとともに、埼玉県のアート文化財への理解を促す取り組みとなっていく可能性がある。

■対応実績

対応数：34団体、計852名（出張講座3件含む）

主な団体種：公民館、生涯学習グループ、旅行会社ツアー、友人グループ、PTA、視覚障害者団体など

■担当後記

◆事業開始から4年目を迎え、また、事業名称を「スライド・トーク」と改めてから2年が経過した。昨年度から配布しているチラシや広報カードを見ての問い合わせや、以前「スライド・トーク」を利用した団体による再度申し込みなど、本事業が当館のサービスとして着実に根付きつつある。基本的には、企画展の案内を別室でスライドを見せながら30分程度で行っているが、団体の要望によって時間や内容、実施場所等を変更し、柔軟に対応している。

◆今年度は初の試みとして、複合施設内のフリースペースで、不特定多数の参加者を対象とする出張講座を行った。講座終了後の参加者アンケートでは、当館に是非来館してみたいという記述をいくつか見ることができた。このことから、出張講座は、美術の魅力を伝える教育普及活動としてだけでなく、当館への来館を促す広報活動としても有用であると考えられる。

◆また、もう一つの新たな試みとして、今年度は6団体・23名（介助者を含む）に向けて、視覚障害者向けの作品案内を行った。収蔵作品2点と、デザイナーズチェアを約30分程度で案内した。視覚に制限のある利用

者にとっては、普段馴染みのない視覚芸術を楽しむきっかけとなり、感想もおおむね好意的であった。また、美術館側としても、今後の一般団体対応の体制や方法論について再考する良い契機となった。

◆視覚障害者のみならず、美術館を訪れる人々はすべて、多種多様なバックグラウンドを持ち、必要なサービスも人それぞれである。美術に関心のある人が、1人でも多く当館での美術鑑賞を楽しむことができるよう、柔軟な対応を続けるとともに、方法論の精査を積み重ねていきたい。くわえて、将来的に来館者になりうる人々に向けても、事業を通して積極的な働きかけを継続していきたい。（喜多春月）

あなたの鑑賞時刻：
時 分 ～ 時 分（厳守）

2018年1月31日（木）
アートに親しむ2日間：2日目
2018年度MOMASコレクション第4期：「特別展示：瑠丸の部屋」

鑑賞ワークシート

「特別展示：瑠丸の部屋」に展示されている瑠丸《田園》（1959）を観賞して、以下の質問に自由にご回答ください。

1. 作品のなかにどんな色や形が見えていますか？
2. 作品のなかでどのような出来事が起きていると思いますか？
3. あなたなら、この作品をどんな場所に展示したいですか？

← →

※時間が余ったら、裏面にMOMASコレクション展や2日間の講義のご感想をお書きください。
埼玉県立近代美術館 教育・広報担当

長時間滞在する団体用に作成した鑑賞ワークシート



視覚障害者向け作品案内の様子

■ファミリー鑑賞会

赤ちゃんや小さいお子様連れのパパやママがゆっくり気兼ねなく美術館を楽しむきっかけとなるよう、MOMASコレクションをスタッフが案内する。また、飽きてしまいがちな子供たちのために、スタッフが一緒に遊ぶコーナーを展示室内に設置している。

■開催実績

- ① 5月16日(水) 11:00～12:00 / 参加者数: 19組 44名
 / 参加者の感想(抜粋): 子どもを見てくれるスタッフがいたので、安心して鑑賞できた。/ 小さい子がいるとなかなか行けなくなるので、うれしい企画だと思った。
- ② 10月24日(水) 11:00～12:00 / 参加者数: 13組 27名
 / 参加者の感想(抜粋): 解説付きで見られる機会が、子連れであるのは素晴らしい。

(参考) 平成25年度～平成29年度

平成29年度

- ① 5月18日(木) / 参加者数: 19組 40名
- ② 10月25日(水) / 参加者数: 5組 10名

平成28年度

- ① 5月11日(水) / 参加者数: 4組 8名
- ② 10月12日(水) / 参加者数: 27組 56名

平成27年度

- ① 5月13日(水) / 参加者数: 14組 29名
- ② 11月26日(木) / 参加者数: 10組 22名

平成26年度

- ① 5月15日(木) / 参加者数: 12組 26名

平成25年度

- ① 7月19日(金) / 参加者数: 10組 20名

(平成25・26年度後期は大規模改修のため休館)

■担当後記

◆ 6年目を迎えたファミリー鑑賞会も、30年度は合計32組71名という多くの方々に参加いただけた。しかし、子供を連れての鑑賞をためらう方はまだまだ多い。今後も気兼ねなく鑑賞できる機会の提供を充実させていきたい。
 (塩野谷孝志)



ちらし(平成30年5月16日/表面・裏面)



ちらし(平成30年10月24日/表面・裏面)



作品解説の様子



子どもが遊べるスペースの様子

■ 子供のためのプログラム

■ アート体感ワークショップ 「MOMASのとびら」

0. 「MOMASのとびら」とは

2010年4月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、一人ひとりの新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、参加対象は、幼児（4才）から大人まで幅広く、参加人数は1回につき30名程度。作品鑑賞と制作が一体となったプログラムでは、毎回変化のある趣向を用意している。

1. MOMASコレクション みる+つくる

MOMASコレクションや美術館の建物などをまわり、対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

- ・「うす暗い闇の中で感じた世界」6月16日／参加者：28名
- ・「風の中はどんな色？」9月8日／参加者：17名
- ・「やすって！磨いて！彫刻を知ろう！」12月15日／参加者：26名
- ・「なりきり瑛丸☆光を使って描こう！」3月16日／参加者：27名

2. MOMASコレクション 親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館の建物などを親子で鑑賞する。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親。

- ・「1枚の板から椅子ができた！」6月30日／参加者：31名
- ・「絵の具をボンボン！まる・マル・丸」10月13日／参加者：27名
- ・『『こんばんは』真夜中の出来事』11月24日／参加者：24名
- ・「小さな小さな点々から生まれる世界」2月16日／参加者：25名

3. 企画展物語 みる+つくる

開催中の企画展の魅力や楽しむためのヒントをわかり

やすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行った。対象枠：小・中学生。

- ・「解体絵画の大変身！」4月28日／参加者：30名
- ・「うつつして かさねて オン・ペーパーズ！」12月1日／参加者：18名
- ・「どこまで増える?! MOMAS計画2019」3月9日／参加者：28名

4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行った。対象枠：小・中学生+親。

- ・「たまごからパカ☆くねくねアートで発見！」10月27日／参加者：14名
- ・「発見！自分だけの形の世界☆」1月12日／参加者：28名
- ・「インポッシブル?! アッタライナタワー☆」2月23日／参加者：28名

5. SMFプログラム

埼玉県内の様々な場所で展覧会やワークショップを行っているSMF (Saitama Muse Forum) に所属している方を招き、作品制作を楽しむプログラムを実施した。

- ・「ぞうが美術館に遊びにきたぞう！」2月9日／講師：みゃうか（アーティスト）／対象枠：どなたでも／参加者：71名
- ・「フワリつばさで 鏡の国を飛んでみよう！」3月23日／講師：加藤典子（造形作家）／対象枠：幼児（4～6才）とその親／参加者：29名

6. み〜つけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4才～6才）とその親。

- ・「びしょびしょアート！」6月9日／参加者：33名
- ・「キラキラ枢機卿に大変身！」7月14日／参加者：28名
- ・「リズムにのって絵を描こう！」11月10日／参加者：27名

7. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。子供から大人まで、互いに刺激されながら楽しく制作した。対象枠：小学生～一般。

- ・「なりきりジャガール～思いを込めて花束を～」5月26日／参加者：16名
- ・「自分だけの“たからもの”をつくろう！」7月21日／

参加者：27名

- ・「かくかくしかくでランプを作ろう！」9月22日／参加者：29名
- ・「MOMASに宇宙人がやってきた!？」12月8日／参加者：23名
- ・「思い出ストップモーション!!」1月19日／参加者：24名

8. アート★ビンゴ

9つのクイズを解きながら、美術館を巡って気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者はエントランス・ホールでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、スタンプをもらう。想像力を問う問題にファンも多く、少人数でもグループ単位でも楽しめる。対象枠：どなたでも。

- ・4月21日、7月7日、10月20日、12月22日、3月2日／参加者：計332名

9. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ（学芸員）やボランティア・スタッフに教えてもらいながら、彫刻作品を一生懸命洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。彫刻に触れる貴重な体験として人気のプログラムである。対象枠：小・中学生+親。

- ・「あらって見よう!彫刻作品」5月19日／参加者：35名
- ・9月29日／雨天のため中止

10. わくわく鑑賞ツアー

スタッフと会話をしながら、美術館の作品を鑑賞して楽しむプログラム。参加者は1階ロビーからスタートし、館内外を巡って、スタッフと対話をしながら2～3作品を鑑賞する。子供たちから大人まで、気軽に作品と関われる人気のプログラムである。対象枠：どなたでも。

- ・4月14日、9月15日、10月6日、1月26日／参加者：計116名

11. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運べない遠方の方にも参加しやすく、美術に触れ、美術の価値を見出す機会を提供するスペシャル・プログラムである。

- ・「カラダで発見!絵具の世界」8月4日／講師：前沢知子（美術家）／参加者：31名
- ・「ビュートレス～美術館から見える景色をなぞる～」8月11日／講師：松田るみ（美術家）／参加者：50名
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「キラキラ★カチカチスプ

ーンワールド」 「つなげて遊ぼう!」8月18日／参加者：382名

- ・「旅する主人公」8月25日／参加者：31名



「カラダで発見!絵具の世界」

12. フリープログラム

誰でも参加できるプログラム。洗濯ばさみやスプーンを使って造形遊びをしたり、青空の下で風を感じて描いたり、ストローをカクカクつなげたりして楽しむ。対象枠：どなたでも。

- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「レゴブロックでなにを作ろう!」4月7日／参加者：174名
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「つなげて遊ぼう!」7月28日／参加者：38名
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」11月3日／参加者：74名



「つなげて遊ぼう!」

13. もますまつり

ゴールデンウィークや県民の日に1日行う、フリープログラムの拡大版。対象枠：どなたでも。

- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「風を描こう!」「レゴブロックで遊ぼう!」5月5日／参加者：625名
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう!」「リキシャカメラ再登場!」11月14日／参加者：415名

■夏休みの特別プログラム

1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子供たちをサポートするコーナー。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じたりした。また、県内の中学生が作成した美術館紹介のレポート例を掲示するなど、子供のサポートを充実させた。

・7月21(土)～8月26日(日)の休館日以外の毎日/
エントランス・ホール/対応数:計2,773名

2. 夏休み鑑賞ガイドツアー

夏休み期間中に3日間限定で行う30分のミニ・ツアー。美術館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。

・7月27日、8月2日、8月23日/対応数:計41名



サポート・スタッフによる鑑賞ツアーの様子

■広報記録

<雑誌、ミニコミ誌等>

・「浦和エリアの美術館・博物館特集(MOMASのとびら)」「リプロマヴィ」2018年4月14日

・「もますまつり」「たまログ」2018年5月1日

<WEB>

・「「レゴブロック」ワークショップ「ブロック博士」が指導」『浦和経済新聞』2018年4月2日

・「埼玉県立近代美術館 アート体感ワークショップMO

MASまつり『リセマム』2018年6月15日
<テレビ、ラジオ>

・「MOMASまつり」REDSWAVE、2018年5月2日

■担当後記

◆土曜日のワークショップ「MOMASのとびら」には毎回多くの方に参加いただいている。美術館ならではの作品鑑賞や造形活動の中で、参加者の満足した笑顔が多く見られ、スタッフも達成感を得ている。

◆事前申し込み制のプログラムだけでなく、どなたでも参加できるフリープログラムを行うことで、公園に遊びに来た家族や幼児連れの家族、初めて美術館に来る子供たちにも気軽に楽しんでもらうことができた。

◆多くの方が美術館を身近に感じ、アートにふれて楽しむことができるよう、魅力あるプログラムづくりを行っていきたい。
(矢嶋梨恵)

■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子供のための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASのとびら」のスタッフとしてプログラムの企画・運営をしている。教員等を目指す学生が積極的に企画することで、学生は、子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけることができる。美術館という社会教育施設での学びの在り方、学校での図工・美術の学び、社会や子供と図工美術のつながりなどを広く学ぶ場になっている。

■担当後記

◆「ミュージアム・コラボレーション」を履修する学生の人数は年々減少傾向にあるものの、学生一人ひとりが活躍する機会が増え、主体的に活動しようという意欲の高まりにつながった。作品鑑賞において学生自身が作品について深く調べたり、よさを感じ取ったりし、子供たちへの伝え方やプログラムの進め方を熱心に検討する姿も見られた。実際に子供たちや保護者とふれあうことにより、教員を目指すうえで必要な資質を育むことができたと考える。

◆学生が企画、運営したプログラムは4回であったが、いずれも魅力的な内容となり、参加者が大いに楽しむことができた。来年度も、大学と連携を取りながら、学生がそれぞれの力を発揮できる場面をつくっていききたい。そして、「MOMASのとびら」をより充実させていきたいと考える。
(矢嶋梨恵)



埼玉大学の学生プログラムの様子：ジャコモ・マンズー《枢機卿》の鑑賞



埼玉大学の学生プログラムの様子：ジャコモ・マンズー《枢機卿》の鑑賞をもとにした制作

■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子供のためのプログラムなどでも幅広く活用している。必要に応じて小・中学校、高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

平成30年度は次の3種を作成した。

①「モダンアート再訪 グリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展」／作成：菖蒲澤 侑

もだんあーとって なんだろう？②

もだんあーとって なんだろう？③

もだんあーとって なんだろう？①

(上) 表面、(下) 裏面

もだんあーとって なんだろう？①

もだんあーとって なんだろう？②

もだんあーとって なんだろう？③

(上) 表面、(下) 裏面

②「阿部展也—あくなき越境者」／作成：矢嶋梨恵

阿部展也 —あくなき越境者—
2018.9/15 sat-11/4 sun

阿部展也さんは—
世界を歩き回って、その国の文化や人の暮らしを学ばれました。

阿部展也さんは—
材料を組み合わせて作品をつつたり、新しい技法をいそいそと試していました。

阿部展也さんは—
無言で、シンプルな色と形で作品ができています。

阿部展也さんには 顔がいっぱい！！

顔をつないで、阿部展也さんのように 顔を描いてみよう！

この顔を見せながら見つけられるかな？

顔の中の人にゆっぺー！

顔にも顔に見える作品はあるかな？探してみよう。

(上) 表面、(下) 裏面

③「インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史」／作成：矢嶋梨恵

IMPOSSIBLE ARCHITECTURE
インポッシブル・アーキテクチャー

上に乗っているのを見て、この顔を描いてみよう！

顔をつけているか、この中で使ったか？

よく見ると、生き物がたくさん！ 何が長かったかな？

君のインポッシブル・アーキテクチャーを描いてみよう！

顔をつけているか、この中で使ったか？

よく見ると、生き物がたくさん！ 何が長かったかな？

(上) 表面、(下) 裏面

■学校との連携

■教員美術講座

■第1回教員美術講座「名画を動かす！

～ピクシレーションで動く絵画をつくる～

- ・2月22日(水) / 講師：米徳信一(武蔵野美術大学芸術文化学科教授) / 参加者：22名
- ・「鑑賞と映像」をテーマに講座を開催した。日常にあふれる「映像」を意識してみると、巧みな表現や構成によって見る人を刺激している。生徒の世代は、静止画も動画も加工が簡単にできる時代である。制作者の思いを受けとめたり、様々な表現を広げたりするツールとしてどう向き合うのか、映像の楽しみ方の講義と制作や編集などを交え学んだ。
- ・参加者の感想(抜粋)：カメラの使い方がわかり、勉強になりました。学習の中で子供に教えられればと思います。(小学校教諭) / 生徒の発想を形にするという点から、映像表現は取り組んでみたかったので、大変有意義な時間となりました。(特別支援学校教諭)



第1回教員美術講座 活動の様子

■第2回教員美術講座「日本の魅力を伝える、スーベニア タンブラーをつくろう!～社会とつながる造形や美術～」

- ・3月29日(金) / 講師：小西悟士(さいたま市立本太中学校 教諭) / 参加者：9名
- ・図工・美術では、教室での制作だけに留まらず、美術で育んだ力を生活や地域の中でどう生かすかが題材の中に含まれてきた。本講座では「日本の魅力を伝える」を主題にタンブラーのカバーをデザインしたが、制作後に生徒作品を地域の店に展示したり、企業と交流を深めたりしながら授業を展開する小西教諭の思いや進

め方について具体的に教えていただき、深い学びとなった。

- ・参加者の感想(抜粋)：生徒の意欲を引き出すヒントを教えてくださいました。自身の作品について、知らない人から感想がもらえることで喜びを感じ、その後の制作につなげられると思います。(中学校教諭)



第2回教員美術講座 活動の様子

■担当後記

- ◆今年度は、公募展「カラダで・みる、うごいて・みる!」に関連する教員美術講座は準備段階のため開催できなかった。しかし、撮影した動画を提出することが応募条件になっていることから、映像のできる表現も押さえておくことが必要と考え、第1回の講座を企画した。映像は道具や編集が難しいというイメージがあるが、参加した先生方は授業のヒントとなるよう興味深く参加していた。
- ◆第2回の講座では、美術教育が児童生徒の思いを社会に発信できる可能性があること、授業の展開や事前事後の活動によって創作意欲が高まることを学ぶことができた。実態に応じ地域の特性を生かすことで、どの校種でも活用できる内容となった。
- ◆来年度は、公募展に合わせた内容がよいという要望もあるため、自分の感じたことを身体で表現する専門家を招く予定である。美術鑑賞の新しい視点を、先生方と研究していきたい。(矢嶋梨恵)

■ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、授業の枠を広げ、鑑賞や創作体験をすることを通じて小中学生に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施した。

■「オレンジボックス」

講師に井上尚子（現代美術家）を迎え、美術家としての生き方や考え方にふれたり、匂いをもとに自己を表現する創作体験をしたりして、児童の創造力を育んだ。

・11月30日（金）／美里町立東児玉小学校5年生、54名



ミュージアム・キャラバン「オレンジボックス」の様子

■「鉄のワークショップ」

講師に青木野枝（彫刻家）を迎え、初めて特別支援学校で実施した。生徒にとっては、自分のイメージを立体に表現することも、硬い鉄を材料とした制作も、何もかもが初めての大きな挑戦となった。事前学習会を実施し、制作の流れや装備を確認して当日を迎えた。各自が思い思いのアイデアを出し、溶断・溶接に積極的に参加して素敵な作品をつくることができた。多くの方に見てもらい、生徒に自信をもたせるとともに、この事業の広報活動も含め、美術館1階ギャラリーで3月19日から4月14日まで作品を展示した。

・2月18日（月）／埼玉県立騎西特別支援学校1年生、25名

■担当後記

◆美術館から遠方の学校との連携を深めるため今年度も2校2プログラムを実施した。アーティストを含む3者にとって有意義な内容が達成されて初めて、この事業

の意義が証明される。美術館スタッフが、学校側とアーティストの間に入り、児童生徒の実態把握や授業の目標の設定、安全管理に時間をかけ、丁寧にディスカッションの場を設けながら取り組んだ。

◆毎回課題はあるものの、未来を担う子供たちへ届けたい共通の思いを抱き充実した事業になっている。今回は、第2回の生徒作品を美術館で展示することになった。生徒に自信を与えるきっかけとなり、多くの人に事業を知ってもらうきっかけになることを願っている。

（笠原たまき）



ミュージアム・キャラバン「鉄のワークショップ」の様子

■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

■学校団体の受け入れ

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内した。さらに、別室にてグッドデザインの椅子の鑑賞体験学習や、造形遊びワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう!」なども実施した。美術館では椅子の座り心地を体感したり、館内の雰囲気を感じたり、作品の魅力を感じ取ることができる。利用した学校のアンケートからは「面白かった!興味をもった」「もっと利用したい」と良好な結果がでている。しかし、「実際に本物を見せたい、美術にふれさせる機会をつくりたい」という教師の声もある中、来館できない学校も多い。バスの利用などアクセスのしやすさ、多くの団体が利用できるようにするための運営も検討していきたい。

学校団体対応数: 82 団体、計 2582 名



対話による鑑賞の様子(彫刻作品のポーズを真似しているところ)

■授業協力

収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。美術館利用研究会が考案したプログラムを軸に、事前の先生との打ち合わせで生徒の実態やねらいに合わせて授業を計画していった。利用した学校の教師からは、「教師自身も勉強になり、夢中になった。」「鑑賞授業のやり方がわからなかったけど鑑賞に興味がわいた。」「普段と違う児童・生徒の発言が見られた。」など鑑賞授業を通して、自身の授業の見直しにもなり、児童・生徒にとっては美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなった。学校全体で年間指導計画に組み込むなどくり返し依頼される傾向が増えた。

授業協力数: 51 校、119 学級、計 3697 名



小学校での鑑賞授業の様子

■複製画等の貸し出し

教師が授業で活用できるよう、当館所蔵作品の複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。複製画や鑑賞キットは、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》から選ぶことができる。教員向けの研修や公開授業で知ったり、利用している先生の実践を聞いたりして、問い合わせる先生が増えている。その際には、授業の流れを実際に見せたり、美術館利用研究会が考案した授業例なども紹介したりしている。

貸出数: 32 件

■第1回「カラダで・みる、うごいて・みる!」

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒を対象に本事業を開催した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。12 校、41 グループ、計 182 名が参加した。詳しくは p.84 を参照。

■職場体験の受け入れ

対応数: 7 校、19 名 (中学校 6 校、高校 1 校)

■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、下記の15大学19名の実習生を受け入れ、全7日間の日程で実施した(学習院女子大学、京都造形芸術大学、埼玉大学、実践女子大学、十文字学園女子大学、成城大学、清泉女子大学、多摩美術大学、筑波大学、東京造形大学、東北芸術工科大学、長岡造形大学、日本大学、武蔵野美術大学、立教大学)。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月24日(火) / 開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、これからの美術館について
- ・7月25日(水) / 彫刻のメンテナンス、企画展の概要について、企画展の実務について、学校と美術館の連携について、館独自の教育普及プログラムについて(ワークショップ「MOMASのとびら」・大学との連携について)
- ・7月26日(木) / 図書とその取り扱いについて、日本画とその取り扱いについて、版画・写真とその取り扱いについて
- ・7月27日(金) / 油彩画とその取り扱いについて、「浦沢直樹展」見学、新採用の学芸員から、広報と刊行物について、広報活動について

■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営などに実際に参加してもらった。原則として8月中に3日間の実習を行った。

■美術館ボランティア

■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、各会期最初の火曜日から毎日、14時から30分程度、MOMA Sコレクション展示室で解説ガイドを行っている。その活動は美術館を代表するひとつの顔となりつつあり、各方面からの取材があるなど関心も高く、来館者もリピーターが増え、美術館を身近なものにしてくれている。

30年度の登録人数：33名（男性6名、女性27名）。

■研修日程

- ・4月28日（土）美術館と聖性—遠藤利克のテキスト
「消える美術館、現れる美術館」／渋谷学芸員
- ・5月26日（土）「色を織り、光を綴る—斎藤豊作の絵画」
／前山裕司（新潟市立美術館館長）
- ・6月30日（土）特別講演「これからの美術館」／建畠哲館長
- ・7月21日（土）「吉田克朗：プランと実践 人物について」
／平野学芸員
- ・8月25日（土）館外研修 東京都写真美術館「杉浦邦恵展 美しい実験—ニューヨークとの50年」
- ・9月22日（土）「阿部展也—あくなき越境者」／吉岡学芸員
- ・10月27日（土）「小茂田青樹」／鳴原学芸員
- ・11月24日（土）「初任学芸員のお話」／菊地学芸員
- ・12月22日（土）「新収蔵作品ポール・シニャック《アニエールの河岸》について」／渋谷学芸員／情報交換会
- ・1月26日（土）「オフ・ミュージアム」／大浦学芸員
- ・2月23日（土）集中講義「フォト・デッサン」／梅津学芸員
- ・3月23日（土）年間総括

■その他のガイド

- ・5月16日（水）ファミリー鑑賞会：1名
- ・10月24日（水）ファミリー鑑賞会：2名
- ・小学校団体対応 適宜

■担当後記

◆今年度も、美館サポーターからの要望をもとに研修会を実施した。当館の学芸員による研修では、MOMA Sコレクションや企画展と連動させ、各学芸員の専門性や個性を発揮してもらうことを意図して実施した。館

外研修では東京都写真美術館へ伺い、作家の杉浦さんご本人や学芸員のお話を聞き、充実した研修となった。

◆美術館ボランティアは、多くの美術館の展示、美術館講座やギャラリートークに足を運び、互いのガイドを聞き合うなど日々研鑽を積んでいる。また、自身で制作したり、地域のアートイベントに参加したりと活動的である。その探求心、培われた見識の広さが、充実したガイド、生き生きとしたガイドにつながっており、美術館の活動がボランティアによって支えられていることを実感する。参加者の反応などをもっとフィードバックし、より良いガイドにつなげたい。

◆運営面では、ボランティア組織を継続していく中で、いくつかの課題を共有し、円滑な運営ができるよう協議してきた。結束して今後も話し合い、支え合いながら質の高いガイドを行えることを期待している。

（笠原たまき）



ファミリー鑑賞会の様子

■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、平成30年度の登録人数は74名。

■研修日程

- ◆新規スタッフ研修：美術館でのサポート・スタッフの役割と子供の鑑賞活動について理解してもらい、美術館と子供たちのつなぎ役として研修を実施した。その中で、美術館の目的や収蔵作品、平成30年度の活動内容と運営計画などについて講義した。／6月17日(日)、6月22日(金)
- ◆ガイドスタッフ特別研修：夏休み期間に展示中の作品を実際に見て、対話型の鑑賞の練習をした。／7月20日(金)

■担当後記

- ◆4月に、埼玉大学、埼玉学園大学、東京家政大学、文教大学、武蔵野美術大学など、美術や教育の学科のある大学を中心に連携を図り、ガイダンスを行って参加を呼びかけた。多くの大学生スタッフが集まり、意欲的に活動する姿が見られた。
- ◆夏休みの鑑賞ガイドツアーには、中学生を中心に、多くの参加者が集まった。ガイドスタッフ特別研修を受け、ファシリテーターを担当できるサポート・スタッフも増え、充実したガイドを行うことができた。来年度も継続して取り組んでいきたい。(矢嶋梨恵)



鑑賞ガイドツアーの様子

■MOMAS彫刻ボランティア

埼玉県立近代美術館(MOMAS)彫刻ボランティアは、2003(平成15)年に発足した。現在は、土曜日開催のワークショップ「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムのボランティア講師を務めることを活動内容にしている。「MOMASのとびら」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぎ、彫刻の洗浄方法と屋外彫刻の意義などを教えている。登録者数9名。

■活動概要

- ◆5月19日(土) / 「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導。p.69参照。
- ◆9月29日(土) / 「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導することを計画したが雨天のため中止。

■ 広聴・広報・刊行物

■ 広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMASコレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。また、「美術館にひとこえを！」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。美術館講座やMOMASのとびら、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

- ・企画展調査：「モダンアート再訪」4月7日～5月20日の39日間。回答数：265／「浦沢直樹展」7月7日～8月23日の43日間。回答数：322／「阿部展也」9月15日～11月4日の47日間。回答数：158／「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」11月14日～1月20日の53日間。回答数：239／「インポッシブル・アーキテクチャー」2月2日～3月24日の45日間。回答数：296。
- ・MOMASコレクション調査：「Ⅰ」4月21日から6月29日の58日間。回答数：270／「Ⅱ」7月14日から8月23日の37日間。回答数：270／「Ⅲ」10月20日から11月18日の26日間。回答数96／「Ⅳ」1月12日から3月26日の65日間。回答数287。

2. その他

- ・当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。

■ 広報

1. 印刷物の作成・配布

- ・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるB2ポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMASコレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社の協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内等にも設置している。その他、美術館講座やミュージアム・コンサート、学校向けの利用案内、ファミリー鑑賞会などは手づくりのちらしを作成した。
- ・以上の印刷物や広報紙『ソカロ』、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

2. パブリシティ

- ・展覧会やイベント、教育・普及事業等について記者発表し、新聞、テレビ、雑誌、WEB等の各種メディアに掲載されるよう努めた。
- ・企画展では、会期初日等に報道関係者や雑誌社、美術ブロガー等を招いたプレスカンファレンスを開催した。

3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL：<http://www.pref.spec.ed.jp/MOMAS/>

- ・情報項目：お知らせ（ニュース、ソカロ、スタッフ募集、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂）、展覧会（企画展、MOMASコレクション、年間スケジュール、一般展示室）、イベント（企画展関連イベント、MOMASコレクション関連イベント、MOMASのとびら・カレンダー、イベント・カレンダー）、教育・普及事業（MOMASのとびら、学校と美術館、彫刻あらいぐま、近現代建築探検ツアー）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、北浦和公園・野外彫刻、ファミス、ミュージアム・ショップ、レストラン・ペペロネ）、リンク、サイトマップ、English、過去の展覧会図録の販売など。
- ・年間ページビュー数：1,038,985

4. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

- ・ツイッター公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を定期的にツイートしている。
URL：https://twitter.com/MOMAS_kouhou
ツイート数：7,980、フォロワー数：19,296（3月末現在）
- ・YouTube公式アカウント（2014年1月～）では、展覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。
URL：<https://www.youtube.com/user/MOMASjp>
- ・フェイスブック公式ページ（2014年7月～）では、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子など、幅広い情報発信を随時行っている。
URL：<https://www.facebook.com/MOMASpr>
いいね!数：1,966（2019年3月末現在）

5. その他

- ・県展開催期間限定で、MOMASコレクション観覧料

を半額にする割引サービスを実施した。

- ・企画展情報(「阿部展也 あくなき越境者」、「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」、「インボッシブル・アーキテクチャー」)を英語翻訳し、ホームページ上で提供した。また、館内案内パンフレットを日本語、英語、スペイン語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国語の6言語で作成し、ホームページで公開した。
- ・埼玉そな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる企画展告知映像の配信を行った。
- ・グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加しており、2019年3月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像99点(日英の解説付き)および館内・北浦和公園のストリートビューをWEB上で閲覧することができる。
- ・近隣のディスクユニオン北浦和店と連携し、展覧会半券による割引サービスを行った。

■広報記録

<埼玉県立近代美術館>

- ・「浦和エリアの美術館・博物館特集」『リプロマヴィ』2018年4月14日
- ・「見どころはここ 近代美術館」『埼玉りそな銀行』2018年4月20日
- ・「近代美術館(告知)」『美術展&美術館びあ』2018年4月30日
- ・「おすすめぶらり旅 近代美術館」『くらすぶらす』2018年6月1日
- ・「自由研究&ミュージアム」『まっぷる夏休み』2018年6月1日
- ・「浦和駅周辺のおすすめの お散歩スポット近代美術館」『ハウスメイトweb』2018年6月21日
- ・「公園選定委員が選んだ、いま行くべき公園25。北浦和公園」『BRUTUS』2018年7月17日
- ・「自然と共生 人誘う魅力 名古屋市美術館と埼玉県立近代美術館」『日本経済新聞』2018年8月22日
- ・「太田治子の美術散歩」『女性の広場』2018年9月1日
- ・「我が町“埼玉” ぶらり散歩道」『ハッピーさいたま』2018年9月30日
- ・「見ておきたい、ニッポンのミュージアム建築」『Disocover Japan』2018年10月6日
- ・「晴れた日にはちょっとお散歩 近代美術館」『ニチイホーム』2018年11月1日
- ・「県民の日どこ行く」『産経新聞』2018年11月14日
- ・「埼玉県民が選んだ!ワタシのデートスポット100」『街ドキ』2018年12月1日
- ・「驚きと感動、そして遊び心がいっぱい詰まった「埼玉

- 県立近代美術館」『東京消防1月号』2019年1月10日
- ・「現在進行形で問いかける 近代再考」『埼玉新聞』2019年1月13日
- ・「隊員御用達のお店」『MAMOR』2019年1月22日
- ・「お花見スポット」『たまろぐ3月号』2019年3月1日
- ・「埼玉県立近代美術館」『美術手帖』2019年3月1日

■担当後記

- ◆入館者数800万人突破に合わせて、800万人目の来館者への記念品贈呈及び写真撮影を行い、記者発表した。新聞にも掲載され、美術館を盛り上げることに貢献した。(谷田昇平)
- ◆広報の新しい試みとして、MOMASコレクション[IV]「特別展示:瑛九の部屋」(鑑賞者が照明の照度を変化させながら絵画を体験する仕組み)の広報動画を制作した。この展示を提案くださった、瑛九の《田園》を所蔵する加藤南枝氏からの提案を受けての手探りの試みだった。当館の企画展に参加したことのあるミュージシャン/映像作家の町田良夫氏と、美術館講座への参加を依頼していた映像を手がける写真家の金村修氏と小松浩子氏の協力を得て、計9本の動画を制作・配信した。美術館に関心を持ってくれる層を広げるためにも、時代に即した方法での広報が必要であることを実感した。(梅津 元)

■刊行物

平成29年度版年報、平成30年度版要覧、平成30年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロ、美術館概要パンフレットを刊行した。年報、要覧はホームページでも閲覧できる。

■広報紙ソカロ

広報紙ソカロ(A3版2面・カラー印刷、2018年12-1月号『ZOCALO & Deluxe Vol.3』はA2版2面・カラー印刷)を、2か月毎(年6回、各13,000部)に編集・発行・配布した。

■2018年6-7月号(#90 5月31日発行)

- ・漫画家 浦沢直樹の世界「浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる!—埼玉の巻—」(加藤哲之)
- ・さくねんのたまもの 近年の新収蔵作品を展示・紹介します(渋谷拓)
- ・さいきんのたまもの②—現代版画センターエディション・コレクション作品を収蔵しました(鳴原悠)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「フラワーベース」(名古屋仁美)
- ・MUSEUM NEWS 6-7



■ 2018年8-9月号 (#91 7月31日発行)

- 企画展「阿部展也—あくなき越境者」(吉岡知子)
- MOMASコレクション第2期「吉田克朗:プランと実践」《650ワットと60ワット》を制作ノートから読み解く(平野到)
- どうぞよろしく!(嶋原悠)
- ミュージアム・ショップおすすめ商品「ひびのこづえ/折りたたみバッグS」(信山恵理子)
- MUSEUM NEWS 8-9

■ 2018年12-2019年1月号『ZOCALO & Deluxe Vol.3』 (#86 9月30日発行)

- 「特別展示: 瑛九の部屋」(梅津元)
- 瑛九と光春—イメージの版/層(梅津元)
- サマー・アドベンチャー「カラダで発見! 絵具の世界」(笠原たまき)
- 組替え絵画—カーテン 2018「共鳴、ロダン彫刻と」(前沢知子、梅津元)
- 企画展: インポッシブル・アーキテクチャー(平野到)
- 特別記事: 辰野登恵子が「画家になるまで」 企画展「辰野登恵子 オン・ペーパーズ A Retrospective 1969-2012」(大浦周)
- ミュージアム・ショップおすすめ商品「いのししファミリーの置物」(野溝円香)
- MUSEUM NEWS 12-1



■ 2018年10-11月号 (#92 9月30日発行)

- 企画展「辰野登恵子 紙の上の表現」(大浦周)
- MOMASコレクション第3期 特集: 小茂田青樹—一家の眼と手の軌跡をたどる(嶋原悠)
- 激動/変貌—1940-1950年代の絵画(吉岡知子)
- ミュージアム・ショップおすすめ商品「kaze guru ma」(浜田幸代)
- MUSEUM NEWS 10-11



■ 2019年2-3月号 (#94 1月31日発行)

- ・企画展「インポッシブル・アーキテクチャー ―もうひとつの建築史― 建昌哲館長インタビュー (聞き手: 五味良子)
- ・日本初公開! ポール・シニャック《アニエールの河岸》のお披露目です。(渋谷拓)
- ・新規公募展「カラダで・みる、うごいて・みる!」受賞作品をロビーにて上映中! (矢嶋梨恵)
- ・『日本橋』をめぐる友情の再発見 (大越久子)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「カディコットンのふきん」(曾根久美子)
- ・MUSEUM NEWS 2-3



■ 2019年4-5月号 (#95 3月31日発行)

- ・文化的アイデンティティの表現としての椅子 企画展 ブラジル先住民の椅子 (渋谷拓)
- ・レオナルド・フジタ《横たわる裸婦と猫》クーリエ報告(菊地真央)
- ・スライド・トークの現場から (喜多春月)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「シュプア」(深山いづみ)
- ・MUSEUM NEWS 4-5



■ 埼玉県立近代美術館ニュース『ZOCALONG』

広報紙『ソカロ』のスピンオフとして、『ZOCALONG』を編集・発行した。

規格: 840 × 145mm、蛇腹8つ折り / 2019年度ミュージアム・カレンダー裏面に掲載(付録) / 執筆・編集: 渋谷拓、梅津元 / デザイン: 川村格夫 (ten pieces)

内容・構成:

- ・1982年11月-2019年3月 #03
- ・組立式 MOMAS (反転版) + 新収蔵品 ポール・シニャック《アニエールの河岸》のご紹介

■ 広報動画

MOMASコレクション [IV] 「特別展示: 瑛九の部屋」に関連して制作した広報動画を YouTube にて配信した。

- [1] カノン「田園」の光と影～「瑛九の部屋」へ行こう #1.1
- [2] トランス「田園」の宇宙～「瑛九の部屋」へ行こう #1.2
- [3] ニルバーナ「田園」の彼岸～「瑛九の部屋」へ行こう #1.3 / 以上 [1]～[3]: 原案・監修: 加藤南枝 / 撮影・編集: 町田良夫 / 音楽: パッヘルベルのカノンによる変奏 / 選曲: 埼玉県立近代美術館 / 編曲: 町田良夫
- [4] ゆれるまなざし: これは催眠術ではない～「瑛九の部屋」へ行こう #2.1
- [5] ゆらめく残像: 心眼を開く～「瑛九の部屋」へ行こう #2.2 / 以上 [4]、[5]: 題名原案: 加藤南枝 / 映像・音楽: 町田良夫
- [6] Shotgun Q-Ei Method ～「瑛九の部屋」へ行こう #3.1 / 撮影・編集: 金村修 / 音楽: duenn
- [7] Shotgun Q-Ei Method: silent ～「瑛九の部屋」へ行こう #3.2 (上記6のサイレント版)
- [8] Rorschach Q-Ei ～「瑛九の部屋」へ行こう #4.1 / 撮影・編集: 小松浩子 / 音楽: duenn
- [9] Rorschach Q-Ei: silent ～「瑛九の部屋」へ行こう #4.2 (上記8のサイレント版)

■ 図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で必要な、基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

■ 蔵書冊数一覧

・一般書

	分 類	平成 29 年度まで	平成 30 年度	計
購入	A 美術総記	2,451	6	2,457
	B 日本美術	2,671	9	2,680
	C 西洋美術	3,140	6	3,146
	D 東洋 その他の美術	186	0	186
	E 図録	882	4	886
	F 埼玉資料	242	3	245
	G 関係諸学	787	4	791
	小 計	10,361	32	10,393
	受贈 (一般図書・他館図録)	32,414	1,766	34,180
	合 計	42,775	1,798	44,573

・美術雑誌 (バックナンバーを除く)

購入 25 タイトル (うち洋雑誌 4 タイトル)

受贈 12 タイトル

計 37 タイトル

・開室日数 303 日

・利用者数 2,779 人

・レファレンス受付件数 71

■ 椅子の美術館

約 70 種類所蔵している内外のグッド・デザインの椅子やアートな椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展や MOMAS コレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時 20 ～ 30 脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

■ ハイビジョン・コーナー

1 階エントランス・ホールの休憩コーナーでは、65 インチの大画面により、随時、企画展、収蔵品、椅子等の紹介映像を上映している。また今年度は、新規公募展「カラダで・みる、うごいで・みる!」の優秀作品を上映し、公募展のさらなる周知を図った。

■トピックス

■ [1] 公募展「カラダでみる、うごいてみる！」

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、埼玉県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒を対象に本事業を開催した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。12校から41グループ、計182人が参加した。

10月19日(金)に当館創作室において、建畠哲館長、加藤哲之副館長、ダンスアーティスト/体奏家・新井英夫氏、大越久子学芸主幹が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

受賞作品は11月14日(水)から3月31日(日)まで、1階エントランス・ホールのテレビモニターにて上映し、広くアピールした。

■入賞作品

※学校名/グループ名/鑑賞作品の順に記載。

①総合グランプリ

伊奈町立南中学校/Natto's/小島喜八郎《9月の庭にて》



②総合準グランプリ

伊奈町立小針小学校/五人島/元永定正《みつつのかたちはしろいせん》



③小学校グランプリ

伊奈町立小針小学校/チームD/ポール・ゴーギャン《大いなる夜》



④小学校準グランプリ

上尾市立尾山台小学校/3年1組GETくん4班/瑛九《青の中の黄色い丸》



⑤中学校グランプリ

川口市立北中学校/北中美術部Bチーム/瑛九《青の中の黄色い丸》



⑥中学校準グランプリ

新座市立第二中学校／ミステリーアート／元永定正《みつつのかたちはしろいせん》



⑦中学校準グランプリ

新座市立第二中学校／のんびりアートマッシュルーム／今村紫紅《龍虎》



⑧特別支援学校(級) グランプリ

埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園／アクアティック／瑛丸《青の中の黄色い丸》



⑨特別支援学校(級) 準グランプリ

東松山市立白山中学校／チーム白3／元永定正《みつつのかたちはしろいせん》



■担当後記

- ◆今年度、第1回の開催となった「カラダで・みる、うごいて・みる!」だが、集まった動画作品には、身体全体をダイナミックに使ったもの、指先で繊細に表現したもの、奥行きや高低差を生かしたものなど、多様な身体表現があり、子供たちの感性の豊かさが表れていた。
- ◆参加した学校からは、言葉以外での表現に挑戦したことで、動きながらイメージを伝え合い、鑑賞を深めることができたという声や、美術部の活性化や子供たちの励みとなったという評価があった。
- ◆子供たちが美術作品にふれるきっかけをつくり、幅広い鑑賞方法を提示すること、また児童生徒の作品発表の場を設けることで、学校と美術館とのつながりを深められるよう、次年度も実施していきたいと考える。

(矢嶋梨恵)

■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス(fam.s = friends of art museum, saitama)。

■会員数

517 件 (人) (平成 31 年 3 月 31 日現在)

内訳：一般会員 331 人、ペア会員 65 人、学生会員 9 人、家族会員 53 家族 (190 人)、賛助会員 (個人) 20 人、賛助会員 (法人) 17 団体、特別賛助会員 22 団体

■活動内容

1. 企画委員会

- ①ファミス日帰り見学会「羽生から足利へ美・発見旅」
／5月23日(水)／見学地：寺井力三郎氏アトリエ、サトエ 21 世紀美術館、妻沼聖天山、栗田美術館、あしかがフラワーパーク／参加者：31 名 (うち会員 27 名)
- ②ファミス現地集合見学会「魅惑の落合探訪会」／9月22日(土)／見学地：目白 (中村彝アトリエ記念館、アダチ版画研究所、佐伯祐三アトリエ記念館、目白聖公会、他)／参加者：21 名 (会員限定)
- ③ファミス特別鑑賞会「草間彌生美術館 鑑賞会」／10/12(金)／見学地：草間彌生美術館／参加者：30 名 (会員限定)

2. 広報委員会

- ①『ファミス通信』第 39 号の発行 (5 月)
- ②『ファミス通信』第 40 号の発行 (11 月)

3. ミュージアム・ショップ運営委員会

- ①サマーセール開催／8月1日(水)～8月31日(金)
- ②ショップレイアウトの変更
- ③ポール・シニャック《アニエールの河岸》クリアファイル作成

4. 事務局

- ①『平成 29 年度フレンド年報』の発行 (7 月)
- ②会員募集キャンペーンの実施
- ③館内の広報強化
- ④『橋本省作品集』出版記念トークの開催
- ⑤会員限定ギャラリー・トークの実施 (5/14、1/26、2/18)

■担当後記

◆会員限定ギャラリー・トークを美術館の協力を得て、事務局と企画委員会の合同で、年 3 回実施した。通常の美術館の開館時間外に実施したことにより、ゆっくり作品を鑑賞することができ、会員の方から大変好評を得ることができた。次年度も様々な事業を開催し、美術館活動に貢献したい。(事務局・野口恵子)

■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田 和子	秩父地域利用者	副会長
丸山 晃	県西地域利用者 (株)埼玉新聞社相談役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア 代表	広報委員
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
水野 晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ 運営委員長
金川 京子	県南地域利用者	広報委員長
遠藤 俊明	東部地域利用者	ミュージアム・ショップ 運営委員
依田 衣恵	県南地域利用者	企画委員
武島 裕	秩父地域利用者	
真砂 和敏	県東利用者 (株)テレビ埼玉常務取締役	
小口 良三	県南地域利用者	監事
田沼 利将	県南地域利用者 (公財)長島記念財団常務理事	監事

■貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申し込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。平成30年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

一般展示室

- ・利用単位:1週間(月曜日の午後1時→翌週月曜日正午)。連続の場合は最長3週間。
- ・使用料(1週間につき):
一般展示室 1—234,360円、2—90,720円、3—52,920円、4—30,240円

講堂

- ・利用単位:1時間
- ・使用料:1時間あたり2,160円

■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H30年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	U展	4月3日	4月8日	6	1・2	水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻	162	1,301	216
2	第27回溪水会展	4月3日	4月8日	6	3	日本画、水彩、油彩、書、水墨画ほか	54	578	96
3	第12回彫ボタニカルアート展	4月3日	4月8日	6	4	水彩	46	693	115
4	群英美術協会 埼玉支部展	4月10日	4月15日	6	2	水彩、油彩、彫刻、工芸、写真ほか	62	489	81
5	第35回自然写真の会 写彩、写真展	4月10日	4月15日	6	3	写真	30	499	83
6	五彩展	4月10日	4月15日	6	4	油彩	54	677	112
7	浦和写真クラブ「自然と風」展	4月17日	4月22日	6	2	写真	89	1,052	175
8	2018阿佐見昭彦写真展 記憶の欠片、	4月17日	4月22日	6	3	写真	38	810	135
9	第10回版画展	4月17日	4月22日	6	4	日本画、水彩、油彩	41	755	125
10	第12回フォト・トルトゥーガ展	4月24日	4月29日	6	2	写真	76	1,502	250
11	祈りのかたち 仏像彫刻展	4月24日	4月29日	6	3	彫刻	55	1,367	227
12	女流画家石田雪雅(絵画&陶展)	4月24日	4月29日	6	4	油彩、版画、陶器ほか	40	954	159
13	埼玉女流工芸展	4月26日	4月29日	4	1	工芸	163	1,789	447
14	埼玉二科展	5月1日	5月6日	6	1~4	油彩、彫刻、デザイン	96	1,541	256
15	第68回埼玉県美術展覧会(県展)	5月29日	6月20日	20	1~4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	2,026	30,267	1,513
16	第37回埼玉県高等学校写真連盟写真展	6月27日	7月1日	5	1	写真	1,136	1,487	297
17	キャンフォトクラブ浦和写真展	6月27日	7月1日	5	3	写真	36	591	118
18	埼玉独立展	7月3日	7月8日	6	1	油彩、アクリル、半立体作品	66	698	116
19	2018埼玉モダンアート展	7月3日	7月8日	6	2・3	水彩、油彩、版画、スペースアート	24	697	116
20	Last Setten	7月3日	7月8日	6	4	ドローイング、彫刻	32	545	90
21	武蔵野美術大学卒業生会東京埼玉支部展	7月10日	7月15日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻、工芸	102	1,246	207
22	第25回基の会	7月10日	7月15日	6	2	油彩、アクリル	21	665	110
23	第31回白の会洋画展	7月10日	7月15日	6	3	油彩	25	589	98
24	第45回埼玉二女展	7月17日	7月22日	6	1~4	油彩、彫刻	105	953	158
25	第56回公募新構造物埼玉展	7月24日	7月29日	6	1	油彩、水彩、ドローイング、版画ほか	98	1,119	186
26	第6回華権会展	7月24日	7月29日	6	2	日本画	70	625	104
27	第7回樺の会展	7月24日	7月29日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	38	671	111
28	第28回旺女会埼玉支部展	7月31日	8月5日	6	3・4	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル	65	820	136
29	第14回水彩連盟展埼玉西支部展	8月7日	8月12日	6	1	水彩	63	1,091	181
30	親子三代展	8月7日	8月12日	6	2	写真、フラワーアート、折り紙	141	930	155
31	合同絵画展<オリブトクリュー><クレアール>	8月7日	8月12日	6	3	水彩、油彩、ミクストメディア	44	852	142
32	第52回埼玉平和美術展	8月14日	8月19日	6	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	351	2,293	382
33	第22回西遊会美術展	8月21日	8月26日	6	2	水彩、油彩、ドローイング、版画	63	677	112
34	第20回「保倉勝美の世界展」	8月21日	8月26日	6	4	ボスケッチ	100	839	139
35	第32回墨芳展	8月22日	8月26日	5	1・3	書	132	869	173
36	一般社団法人公募ZEN展	8月28日	9月2日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	210	1,002	167
37	第52回埼玉三軌展	8月28日	9月2日	6	2・3	日本画、水彩、油彩	38	734	122
38	ソドール・ズパネア展 ヨンズミトシオ展	8月28日	9月9日	12	4	油彩、ドローイング、アクリルほか	46	1,375	114
39	第32回(公募)埼玉創元展	9月4日	9月9日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	91	1,065	175
40	フォトサークル・オプト写真展	9月4日	9月9日	6	2	写真	206	907	151
41	ア・メーション(学生芸術研究会) 書ばなし(スチレイト) (体験型) 展	9月4日	9月9日	6	3	アニメーション作品の資料ほか	350	882	147
42	第62回埼玉書道展	9月13日	9月16日	4	1~4	書	757	1,469	367
43	第35回埼玉県写真サロン	9月18日	9月23日	6	1	写真	546	1,264	210
44	ART PHOTOGRAPHY ICHIE 2018展	9月18日	9月23日	6	2	写真	38	739	123
45	第32回Photo Group WAVE 写真展	9月18日	9月23日	6	3	写真	66	785	130

No.	展覧会名	開催期間 H30年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
46	「自写自賛」写真展 小中四平個展	9月18日	9月23日	6	4	写真	59	752	125
47	第27回工芸新術会公募展	9月25日	9月30日	6	2	工芸	57	505	84
48	第6回「私の自然展」	9月25日	9月30日	6	3	写真	54	464	77
49	境栄子個展	9月25日	9月30日	6	4	油彩	47	435	72
50	第28回全国平成水墨画展	9月26日	9月30日	5	1	水墨画	105	786	157
51	第51回第一美術協会埼玉支部展	10月2日	10月7日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画、彫塑、工芸	167	998	166
52	第34回アート現字展	10月2日	10月7日	6	2	油彩、アクリル、コラージュ	33	575	95
53	第5回審の会油彩画展	10月2日	10月7日	6	3	油彩	46	698	116
54	第10回松本珍男子個展	10月2日	10月7日	6	4	水彩、油彩	54	727	121
55	キルトリーダーズ埼玉 バッチワークキルト作品展2018	10月9日	10月14日	6	1	バッチワークキルト	250	1,204	200
56	第18回美術協会純展・埼玉支部展	10月9日	10月14日	6	2	日本画、水彩、油彩	54	710	118
57	第28回溪水会展	10月9日	10月14日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画ほか	63	792	132
58	佳羊会	10月10日	10月14日	5	3	油彩	33	434	86
59	第39回太平洋埼玉展	10月16日	10月21日	6	1	水彩、油彩、版画	131	1,098	183
60	水彩ロマン展	10月16日	10月21日	6	2	水彩	147	1,239	206
61	20th BANSEI EXHIBITION	10月16日	10月21日	6	4	インスタレーション	62	519	86
62	第29回全日中展・日中書画芸術大展	10月23日	10月28日	6	1~3	日本画、水彩、書、水墨画、岩彩	350	1,721	286
63	全日写連浦和支部写真展	10月23日	10月28日	6	4	写真	47	529	88
64	第19回地平展	10月30日	11月4日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	76	1,027	171
65	悠友展	10月30日	11月4日	6	2・3	水彩、油彩	45	1,029	171
66	永山佐和子水彩画展	10月30日	11月4日	6	4	水彩	42	1,138	189
67	2018CAFネビュラ展	11月7日	11月18日	11	1~4	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻ほか	102	2,204	200
68	第57回高校書道展	11月20日	11月25日	6	1~4	書	762	1,676	279
69	第61回埼玉県高校美術展	11月28日	12月2日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	879	4,196	839
70	第9回埼玉植物業の会作品展	12月4日	12月9日	6	2	水彩	137	1,221	203
71	第5回ポローニア展	12月4日	12月9日	6	3	水彩、油彩、彫刻、工芸、バステルほか	40	485	80
72	川内松男写真展	12月4日	12月9日	6	4	写真	66	588	98
73	第52回全日本書道芸術展	12月11日	12月16日	6	1・2	書、墨象、ペン字、墨アート	247	408	68
74	龍龍写真展 水景色、ワークショップそれぞれの瞬	12月11日	12月16日	6	3	写真	67	342	57
75	第22回藤の会展	1月8日	1月13日	6	1・4	水彩、油彩、彫刻、写真	123	688	114
76	猫とも新聞写真展 猫×人写真 猫がいてよかった	1月15日	1月20日	6	2	写真	80	541	90
77	宝船展 2019KOMAS	1月16日	1月20日	5	1	現代アート	37	1,037	207
78	第42回埼玉国展	1月22日	1月27日	6	1	油彩、写真	78	657	109
79	文教大学教育学部学校教育課程美術専修卒業制作展	1月29日	2月3日	6	1	日本画、油彩、版画、彫刻、工芸、映像	40	492	82
80	平成30年度埼玉県美術系高等学校作品展・卒業制作展	2月6日	2月10日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	800	2,155	431
81	野美展	2月12日	2月17日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	59	811	135
82	埼玉県ネーチャーアフォト支部写真展	2月12日	2月17日	6	4	写真	99	1,073	178
83	埼玉県小中学校児童生徒美術展中央展覧会	2月16日	2月17日	2	1	水彩、版画、彫刻、工芸	200	1,368	684
84	埼玉大学教育学部卒業制作展/修了展/有志展覧会彩展	2月19日	2月24日	6	1~3	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	74	561	93
85	ヨシズミトシオ展	2月19日	3月3日	12	4	油彩、版画、水墨画、銅版画	40	1,017	84
86	第44回埼玉書道三十人展	3月5日	3月10日	6	1	書	42	1,990	331
87	第42回埼玉現展	3月5日	3月10日	6	3・4	水彩、油彩、版画、工芸、写真	88	870	145
88	彩の国さいたまきりえ展	3月19日	3月24日	6	2	きりえ	82	1,312	218
89	彩の国写真倶楽部・写真展	3月19日	3月24日	6	4	写真	44	1,254	209
90	第47回主体美術武蔵野作家展	3月26日	3月31日	6	1	油彩	52	604	100
91	さきたま書展	3月26日	3月31日	6	3	書	50	362	60
92	恒星展「千面観覧」(第50回ありあるクリエイション芸術企画)	3月26日	3月31日	6	4	水彩、油彩、ドローイング、版画ほか	1,050	230	38

■入館状況

■平成30年度入館者数一覧

平成31年3月31日現在

	入館者数	展 示 事 業							企画展計
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					インボッシブル・アーキテクチャー展	
			福岡市美術館コレクション展	浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる!	阿部展也 あくなき越境者	辰野登恵子展			
開催期間	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/7(土) ～ 5/20(日)	7/7(土) ～ 9/2(日)	9/15(火) ～ 11/4(日)	11/14(水) ～ 1/20(日)	2/2(土) ～ 3/24(日)		
(日) 日数	309	305	39	52	47	53	45	236	
(人) 観覧者数 利用者数	248,473	46,776	9,600	15,745	4,089	6,852	18,785	55,071	
(人) 1日当たり 平均	804	153	246	303	87	129	417	233	
有 料	一般個人	23,207	4,241	6,847	1,546	2,912	10,986	26,532	
	一般団体	1,814	308	1,098	218	117	388	2,129	
	大高個人	1,876	318	472	83	197	2,078	3,148	
	大高団体	29	7	51	1	1	12	72	
	(人) 合計	26,926	4,874	8,468	1,848	3,227	13,464	31,881	
(人) 無料	-	19,850	4,726	7,277	2,241	3,625	5,321	23,190	

	普 及 事 業					貸館事業	
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMFアート 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県美術展覧 会
開催期間	4/22(日) ほか	4/8(日) ほか	4/7(土) ほか	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	4/1(日) ～ 3/31(日)	5/29(火) ～ 6/20(水)
(日) 日数	25	15	50	-	302	240	20
(人) 観覧者数 利用者数	1,973	381	3,199	-	2,781	87,998	30,267
(人) 1日当たり 平均	79	25	64	-	9	366	1,513
有 料	一般個人	-	-	-	-	-	-
	一般団体	-	-	-	-	-	-
	大高個人	-	-	-	-	-	-
	大高団体	-	-	-	-	-	-
	(人) 合計	-	-	-	-	-	-
(人) 無料	-	-	-	-	-	-	-

月別入館者数													
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	20,278	21,207	31,663	17,688	24,530	18,267	19,029	19,236	13,564	12,864	19,877	30,270	248,473

■名簿

■埼玉県立近代美術館協議会委員

平成 31 年 3 月 31 日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	梶川 牧子	埼玉市町村教育委員会連合会会長 川越市教育委員会委員
	加藤 修	埼玉県美術教育連盟連盟長 鴻巣市立赤見台第二小学校校長
社会教育関係者	布施 知範	公益財団法人静岡県舞台芸術センター 団体職員
	松岡 滋	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	小田倉 泉	埼玉大学准教授
学識経験者	加藤 典子	さいたま市幼児教育推進委員 加藤こどもの造形教室主宰
	小山 広毅	NHK さいたま放送局副局長
	田村 禮子	絵画教室主宰 水彩画家
	新倉 美佳	美術批評誌「MAPPING」事務局
	野中 味恵子	さいたま市民生児童委員
	帆足 亜紀	横浜トリエンナーレ組織委員会 プロジェクトマネージャー
	宮本 重雄	中央労働金庫常務理事 埼玉県本部担当

■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

平成 31 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
滝沢 恭司	町田市立国際版画美術館 学芸担当係長	H29.6.7～H31.6.6
山本 和弘	栃木県立美術館 シニアキュレーター	H29.6.7～H31.6.6
野地 耕一郎	泉屋博古館分館長 兼学芸課長	H29.6.7～H31.6.6
山梨 俊夫	国立国際美術館長	H29.6.7～H31.6.6
金子 賢治	茨城県陶芸美術館長	H29.6.7～H31.6.6

■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

平成 31 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京藝術大学名誉教授	H31.1.15～H33.1.14
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	H31.1.15～H33.1.14
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	H31.1.15～H33.1.14
吉武 研司	洋画家 独立美術協会会員	H31.1.15～H33.1.14
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	H31.1.15～H33.1.14
林 喜一	写真家 全日本写真連盟理事	H31.1.15～H33.1.14
横松 伸二	県教育局 文化資源課長	H31.1.15～H33.1.14

■埼玉県立近代美術館職員

平成 31 年 3 月 31 日現在

担当	職名	氏名
総務・管理担当	館長（非常勤）	建昌 哲
	副館長	加藤 哲之
	教育主幹	塩野谷 孝志
	担当部長	栗林 雅志
	担当課長	藤川 奈美子
	主事	小久保 俊哉
	主事	福田 健一
	担当課長	川崎 剛志
	主任	黒木 慎一
	主事	入江 一嘉
主事	瀧川 晃平	
企画展・教育・広報、 常設展・収蔵品担当	企画展担当	大越 久子
	学芸主幹	平野 到
	学芸員	吉岡 知子
	学芸員	大浦 周
	学芸員	五味 良子
	学芸主幹	梅津 元
	担当課長	笠原 たまき
	主任	矢嶋 梨恵
	主任	谷田 昇平
	学芸員	富安 玲子
常設展・収蔵品担当	嘱託（非常勤）	喜多 春月
	主任学芸員	渋谷 拓
	学芸員	鳴原 悠
	学芸員	菊地 真央
	嘱託（非常勤）	小菅 千鶴

埼玉県立近代美術館年報[平成30年度]

発行：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話：048-824-0111(代)／ファクス：048-824-0119(代)

<https://pref.spec.ed.jp/momas>

発行日：令和2年3月25日